

Enterprise Vault™ Compliance Accelerator 管理者ガイド

12.3

Enterprise Vault™ Compliance Accelerator 管理者ガイド

最終更新日: 2018-03-12。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の **Web** サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、**Veritas Quick Assist (VQA)** ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は **Veritas** サポート **Web** サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは **Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	Compliance Accelerator の概要	10
	Compliance Accelerator の主な機能	10
	Compliance Accelerator のコンポーネントについて	11
	Compliance Accelerator の処理	11
	Compliance Accelerator によるアイテムのランダムサンプリングについて	13
	Compliance Accelerator のインテリジェントレビュー機能について	13
	Compliance Accelerator の重複排除機能について	14
	製品のマニュアル	14
	Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー	15
第 2 章	Compliance Accelerator クライアントの概要	16
	Compliance Accelerator クライアントについて	16
	Compliance Accelerator クライアントを開く	16
	Compliance Accelerator クライアントの使い方	18
第 3 章	従業員と従業員グループの設定	21
	従業員と従業員グループについて	21
	従業員プロフィールの作成	22
	Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性への従業員プロパティのマップ	24
	従業員の詳細の編集	26
	従業員グループの作成	26
	従業員へのロールの割り当て	29
	Compliance Accelerator の事前定義済みのロールについて	30
	Compliance Accelerator の権限について	33
	Compliance Accelerator ロールの作成	37
	Compliance Accelerator ロールのプロパティの編集	39
	従業員またはグループへの Compliance Accelerator ロールの割り当て	39
	Compliance Accelerator ロールの削除	40

第 4 章	部門を使った操作	42
	部門について	42
	部門の作成	43
	監視対象の従業員とグループの部門への追加	52
	従業員とグループに対する監視ポリシーの編集	52
	従業員またはグループの部門間での移動	54
	部門の移動	54
	部門レビューア、コンプライアンススーパーバイザ、代行の割り当て	55
	チャイニーズウォール型セキュリティの実装	57
	チャイニーズウォールの有効化	58
	部門ユーザーの管理	58
	例外従業員の管理	59
	例外従業員の指定	60
	例外従業員へのより多くの例外レビューアの割り当て	60
	例外従業員の別の部門への移動	61
	例外状態の解除	62
	例外レビューアの割り当て解除	62
	パーティションへの部門のグループ化	63
	部門パーティションの作成	63
	属性を使った部門の分類	64
	部門属性の設定	65
	部門への属性の割り当て	67
第 5 章	アイテムの検索	68
	Compliance Accelerator を使った検索について	68
	特定の種類の Skype for Business コンテンツの検索の制限事項	69
	Compliance Accelerator 検索の作成と実行	69
	検索基準オプションについて	71
	効果的な検索の実行に関するガイドライン	80
	Compliance Accelerator 検索の一時停止と再開	81
	[検索の監視]タブについて	82
	例外従業員のアイテムの検索	84
	検索対象のアーカイブの選択	85
	Compliance Accelerator 検索スケジュールの作成	87
	新しい検索スケジュールの設定	87
	検索の反復スケジュールの例	89
	検索するパスワードの定義	90
	パスワードの追加	90
	既存のパスワードの編集	92
	パスワードの削除	92
	パスワードセットの追加	93

既存のホットワードセットの編集	94
ホットワードセットの削除	95
事前定義済みホットワードのインポート	95
Compliance Accelerator の電子メールアドレス処理の設定	96
Compliance Accelerator を使ってアーカイブされた Skype for Business コンテンツの検索	97

第 6 章 手動によるアイテムのレビュー 99

Compliance Accelerator を使ったレビューについて	100
特定の種類の Skype for Business コンテンツのレビューの制限事項	100
レビューペインについて	101
[自己レビューの禁止]オプションで例外従業員のレビューアクティビティを 制限する方法	105
レビューペインのアイテムのフィルタ処理	106
アイテムへのレビューマークの割り当て	110
コメントのアイテムへの追加	110
アイテムの履歴の表示	111
アイテムの印刷可能バージョンの表示	112
元のアイテムのダウンロード	112
クリップボードへのアイテムリストのコピー	113
レビューペインの概観の変更	113
レビューペインのユーザー設定の設定	114
アイテムのエスカレーション	116
エスカレーションアイテムの他のエスカレーションメッセージレビューア への割り当て	117
エスカレーションアイテムのクローズ 117	
再利用するためのレビューコメントの格納	118

第 7 章 リサーチフォルダを使った作業 120

リサーチフォルダについて	120
リサーチフォルダの作成	121
リサーチフォルダのプロパティの編集	122
アイテムのリサーチフォルダへのコピー	122
リサーチフォルダのアイテムのレビュー	123
リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート	123
リサーチフォルダへのアクセス権の付与	124
部門レビューセットへのリサーチフォルダ内アイテムのコミット	125
リサーチフォルダからのアイテムの削除	126
フォルダの削除	126

第 8 章	アイテムのエクスポート	128
	アイテムのエクスポートについて	128
	特定の種類のコンテンツのエクスポートの制限事項	128
	エクスポート実行	129
	同時エクスポート実行数の制限について	133
	エクスポート実行を最適化する方法	133
	例外従業員のレビューセットからのアイテムのエクスポート	134
	エクスポート ID を Microsoft Outlook で表示	134
第 9 章	レポートの作成と表示	136
	Compliance Accelerator レポートについて	136
	Compliance Accelerator レポートの作成	136
	利用可能な Compliance Accelerator のレポート	137
	[コンプライアンススーパーバイザの担当]レポート	139
	[部門ロールの詳細]レポート	139
	[部門ロールの概略]レポート	140
	[部門ごとの差分サンプリングの概略]レポート	141
	[ユーザーごとの実効ルール]レポート	142
	[部門/従業員ごとの <i>message type</i> レビューの証拠]レポート	142
	[部門ごとのアイテムの経過時間]レポート	143
	[メッセージの統計の概略]レポート	143
	[メッセージの概略]レポート	144
	[部門ごとの監視対象 ID]レポート	144
	[部門ごとの問題があるアイテム]レポート	145
	[部門ごとの担当]レポート	145
	[レビューアごとの担当]レポート	146
	[部門ごとのレビューアクティビティの概略]レポート	146
	[部門ごとのレビューアのアクティビティ]レポート	147
	[レビューアのアクティビティの詳細]レポート	147
	[レビューアのマップ]レポート	148
	[未レビューの部門]レポート	149
	[未管理の部門]レポート	149
	既存のレポートの表示	150
	レポートの削除	150
	OData Web サービスを使った Compliance Accelerator データセットの表 示について	151
	利用可能な Compliance Accelerator データセット	151
	Compliance Accelerator データベースへのアクセス	153
	Microsoft Excel での OData サービスの使用	153
	Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS) での OData サービスの使用	154

付録 A	Compliance Accelerator のカスタマイズ	155
	従業員の詳細の同期に使う Windows ドメインの指定	155
	レビュー処理の状態のカスタマイズ	157
	Compliance Accelerator システム設定オプションの設定	158
	アドホック検索の設定オプション	159
	診断の設定オプション	161
	文書の変換の設定オプション	162
	エクスポートまたは提出物生成の設定オプション	162
	全般設定オプション	166
	ホームページの設定オプション	167
	アイテムのブリフエッチキャッシュの設定オプション	168
	アイテムのブリフエッチキャッシュ (詳細) の設定オプション	170
	ポリシーの統合の設定オプション	173
	プロファイルの同期の設定オプション	173
	ランダムキャプチャの設定オプション	175
	レビューの設定オプション	177
	検索の設定オプション	181
	セキュリティの設定オプション	186
	システム設定オプション	187
	ボルトのディレクトリの同期の設定オプション	188
	レビューペインの列のカスタマイズ	190
付録 B	XML ファイルからの設定データのインポート	193
	設定データのインポートについて	193
	サンプル XML ファイル	193
	Dataload.xml ファイルの形式	194
	設定データのインポート	195
	ImportExport コマンドについて	196
	ImportExport の構文	197
	ImportExport コマンドの例	198
付録 C	トラブルシューティング	200
	Compliance Accelerator クライアントのレビューペインで特定のアイテムを プレビューするときにセキュリティ警告が表示されることがある	201
	アイテムのランダムサンプリングの問題	201
	Windows 8 以降で Compliance Accelerator クライアントを開くときの表示 の問題	202
	Internet Explorer 10 以降で Compliance Accelerator Web サイトを開く ときの表示の問題	202
	Compliance Accelerator クライアントで表示されないボルトストア	203
	Compliance Accelerator の検索で予期しない結果が返される	203

Compliance Accelerator からアイテムをエクスポートする際のエラー	204
インターネットメール (.eml) メッセージをレビューセットからエクスポートした 後に、その TNEF エンコードの添付ファイルが読めなくなることがある	206
SQL Server コンピュータ名の変更後の同期エラー	206
Accelerator マネージャサービス起動時のパフォーマンスカウンタエラー	207
カスタマーデータベースを異なるサーバーに復元するときに SQL Service Broker で警告が発生する	207
Compliance Accelerator のレポートに関する問題	208
レポートを生成しようとするメッセージ[レポートの作成中にエラーが 発生しました]が表示される	208
レポートの初回印刷時に SQL Server のインストールを要求するメッ セージが表示される	208
CSV としてエクスポートしたレポートを Microsoft Excel で正しく開け ない場合がある	209
Acrobat 形式でレポートをエクスポートするときに日本語で文字化け が発生する	210
OData エラーのトラブルシューティング	210

Compliance Accelerator の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Compliance Accelerator の主な機能](#)
- [Compliance Accelerator のコンポーネントについて](#)
- [Compliance Accelerator の処理](#)
- [Compliance Accelerator によるアイテムのランダムサンプリングについて](#)
- [Compliance Accelerator のインテリジェントレビュー機能について](#)
- [Compliance Accelerator の重複排除機能について](#)
- [製品のマニュアル](#)

Compliance Accelerator の主な機能

Compliance Accelerator を使って組織は従業員の通信を効率よく監視レビューし、確実に規制内容を順守できます。

Compliance Accelerator の主な機能は次のとおりです。

- 監視対象の従業員を定義し、会社内の部門を反映した組織的な構造にグループ化するシステム。選択した例外従業員のメッセージを別に保存して、特別に割り当てられたレビューアがレビューできます。
- ジャーナルメールボックスの Enterprise Vault アーカイブに送信されたアイテムのランダムサンプルを取得する機能。
- 管理者が Compliance Accelerator を設定し、指名されたレビューアがキャプチャしたアイテムを精査してマーク付けするクライアントアプリケーション。

- すべての監視対象従業員、キャプチャしたアイテム、アイテムに適用したレビュー処理に関する情報を保持する安全な SQL データベース。

Compliance Accelerator のコンポーネントについて

Compliance Accelerator の主なコンポーネントを表 1-1 に示します。

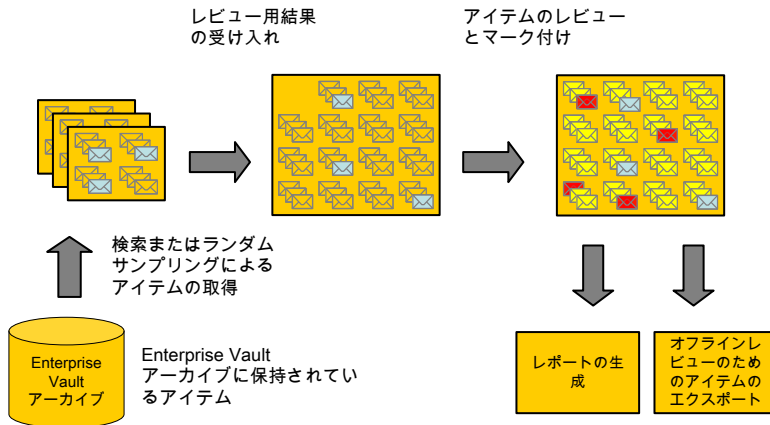
表 1-1 Compliance Accelerator のコンポーネント

コンポーネント	メモ
Compliance Accelerator クライアント	クライアントは、Compliance Accelerator の管理者がシステムの設定と管理を行い、レビューアがアイテムにアクセスしてマーク付けする場合に使われます。
Accelerator マネージャ Web サイト	この Web サイトでは、データを格納する複数の Compliance Accelerator データベースの設定を行うことができます。
Enterprise Vault Accelerator マネージャサービス	このサービスは、Compliance Accelerator クライアントからの要求を処理し、Enterprise Vault コンポーネントと連動してアーカイブへのアクセスや検索などを実行します。
カスタマーデータベース	カスタマーデータベースは、部門の詳細、ユーザーロール、検索結果などを Compliance Accelerator が格納する SQL データベースです。 複数のカスタマーデータベースを設定できます。
設定データベース	設定データベースは、カスタマーデータベースの場所を指定し、使用する SQL Server、データベースファイル、ログファイルの詳細を格納する SQL データベースです。
Compliance Accelerator Web サイト	この Web サイトには、一部の Compliance Accelerator レポートの機能が表示されます。

Compliance Accelerator の処理

図 1-1 にコンプライアンス処理の手順の概要を示します。

図 1-1 Compliance Accelerator の処理手順



通常は **Compliance Accelerator** の処理手順を次の順序で実行します。

- 管理者、スーパーバイザ、またはレビューアとして **Compliance Accelerator** にアクセスするあらゆるユーザーのための従業員プロフィールを作成します。また、通信の監視対象となるあらゆる従業員のためのプロフィールも作成する必要があります。少数の従業員詳細を入力してから、対応する **Active Directory** アカウントまたは **Domino** ディレクトリアカウントに同期させると、残りのフィールドをポピュレートできます。
- **Compliance Accelerator** で管理タスクを実行するユーザーまたはユーザーグループにロールを割り当てます。
Compliance Accelerator システムのデフォルトでは、多数の事前定義済みアプリケーションロールと部門ロールがあります。ほとんどのロールは必要に応じて修正したり、新しいロールを作成したりすることができます。それぞれのロールには多数の権限が関連付けられています。ユーザーは、アプリケーションロールによってシステム全体のタスクを実行でき、また部門ロールによって指定した部門のみで特定のタスクを実行できます。
- すべての部門で検索対象とするアーカイブを選択します。部門管理者は、必要に応じて部門のこのアーカイブのセットをさらにカスタマイズできます。
- 1 つ以上の部門を作成します。
- 各部門で、次の操作を実行します。
 - その他のユーザーにロールを割り当て、その他のユーザーが、管理タスク、スーパーバイザタスク、レビューアタスクを部門内で実行できるようにします。
 - 監視対象の部門に従業員を追加します。
 - 必要に応じて、部門検索に含めるアーカイブをカスタマイズします。

Compliance Accelerator で従業員を監視し、部門レビューセットにアイテムを追加してレビューアがアイテムを操作できるようになりました。

- 各部門のレビューセットで各アイテムをレビューし、必要に応じてレビュー状態のマークとコメントを追加します。
- アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に送信する場合は、アイテムを適切な形式でエクスポートします。エクスポート形式は、PST、Domino NSF データベース、HTML、MSG、ZIP などがあります。
- レポート機能を使ってレビューアの進行状況、役割、担当など、Compliance Accelerator のさまざまな側面からレポートを生成します。

Compliance Accelerator によるアイテムのランダムサンプリングについて

Compliance Accelerator は次の種類の Enterprise Vault アーカイブからアイテムをサンプリングできます。

- Exchange または Domino ジャーナルメールボックス
- SMTP
- 共有

2 つの種類のランダムサンプリングを利用できます。

- 保証されたサンプリング。これはデフォルトのサンプリングモードです。Compliance Accelerator は、すべての監視対象従業員のすべてのアイテムを終日キャプチャします。午前 0 時後、それは各従業員のアイテムからランダムサンプルを選び、レビューセットにそれらを追加します。保証サンプリングを選択すると、Compliance Accelerator がレビューセットに追加するアイテム数に上限を設定できません。
- 統計的なサンプリング。Compliance Accelerator は 24 時間以内にキャプチャされたアイテムのランダムサンプリングを行い、レビューセットに追加します。つまり、従業員によっては、他の従業員よりもキャプチャされるアイテム数が少ない場合もあります。

Compliance Accelerator クライアントに構成オプションを設定し、必要なサンプリングモードを選択できます。

p.175 の「ランダムキャプチャの設定オプション」を参照してください。

Compliance Accelerator のインテリジェントレビュー機能について

インテリジェントレビュー機能は Compliance Accelerator の主要な新機能の 1 つです。レビューアがアイテムを関連あり、または関連なしとマーク付けするときに、Compliance

Accelerator はレビューアの処理から学んでより焦点を絞った方法でアイテムをサンプル抽出したり、さらに検索したりできます。たとえば、レビューアがスパムメッセージや不在時の自動返信を関連なしとマーク付けした後に、**Compliance Accelerator** が同様の特徴を持つ他のアイテムを検出すると、それらは自動的に破棄されるか優先度レベルが下がります。時間の経過とともに、レビューセットに表示される関連なしのアイテムは少なくなります。

個々の **Compliance Accelerator** 部門にインテリジェントレビュー機能を実装できます。

Compliance Accelerator の重複排除機能について

Compliance Accelerator は重複排除機能を提供します。この機能の目的は、検索結果から重複アイテムを識別して削除し、それらがレビューセットに表示されるのを防ぐことです。**Compliance Accelerator** は、**Enterprise Vault** のフィンガープリント機構を使用して、1 つのアイテムが他のアイテムの複製であるかどうかを判断します。重複排除は個々の検索内でのみ動作します。同じ部門内で検索を実行する場合でも、複数の検索にまたがって動作することはありません。

あらゆる種類の検索 (即時、スケジュール設定済み、および保証されたサンプル) で、**Compliance Accelerator** はサンプリング処理の一部としてアイテムを重複排除します。保証されたサンプル検索では、**Compliance Accelerator** は重複排除処理によって生じた不足分を埋め合わせるために、ランダムにサンプリングされたアイテムをレビューセットに追加します。

製品のマニュアル

表 1-2 に、**Compliance Accelerator** に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-2 Compliance Accelerator のマニュアルセット

マニュアル	コメント
インストールガイド	Compliance Accelerator サーバソフトウェアとクライアントソフトウェアの初回インストールを実行する方法について説明します。
アップグレードの手順	インストールされている既存の Compliance Accelerator をアップグレードする方法について説明します。
管理者ガイド	ロールの設定と割り当て、レビューセットに追加するアイテムの検索、オフラインレビューのためのアイテムのエクスポート、レポートの作成などの方法について、 Compliance Accelerator の管理者に情報を提供します。

マニュアル	コメント
レビューアガイド	レビューアが利用可能な Compliance Accelerator クライアントの機能について説明します。
ヘルプ	Compliance Accelerator のすべてのアプリケーションに付属し、それらの機能を使う方法の広範な情報を提供します。
リリースノート	Compliance Accelerator をインストールして使う前に注意する必要がある最新情報について説明しています。

Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー

Veritas サポート Web サイトの次のホワイトペーパーには、このガイドで説明する機能の詳細が記載されています。

表 1-3 Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー

ホワイトペーパー	説明
Accelerator Deduplication	Compliance Accelerator の重複排除機能
Best Practices for Enhanced Accelerator Reporting	OData (Open Data) プロトコルを使用して Compliance Accelerator レポートを作成する方法

Compliance Accelerator クライアントの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Compliance Accelerator クライアントについて](#)
- [Compliance Accelerator クライアントを開く](#)
- [Compliance Accelerator クライアントの使い方](#)

Compliance Accelerator クライアントについて

このクライアントは豊富な機能を持つ Windows アプリケーションです。Compliance Accelerator ユーザーはこのクライアントを使って、レビューするアイテムにマークとコメントを追加することができます。また、管理者は Compliance Accelerator クライアントを使ってアプリケーションの管理とカスタマイズを行うことができます。Compliance Accelerator ユーザーが割り当てられているロールによって、各ユーザーがアクセスできるクライアントの機能が決まります。

このガイドで説明するすべての処理は Compliance Accelerator クライアントで実行してください。

Compliance Accelerator クライアントを開く

次の点に注意してください。

- Compliance Accelerator クライアントを頻繁に使用していると、Windows デスクトップに起動ショートカットを作成することが考えられます。
- Windows 8/8.1/10 コンピュータ上で Compliance Accelerator クライアントを実行する場合、最適なパフォーマンスのために Windows 7 または Windows XP の互換性

モードで実行することをお勧めします。これをする方法のガイドラインについては、**Windows** のマニュアルを参照してください。

Compliance Accelerator クライアントを開くには

- 1 Compliance Accelerator クライアントのショートカットをクリックします。

しばらくして、[接続する Compliance Accelerator インスタンスの選択] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [サーバー]フィールドで、Compliance Accelerator サーバーのソフトウェアが実行されているコンピュータの名前または IP アドレスを入力します。

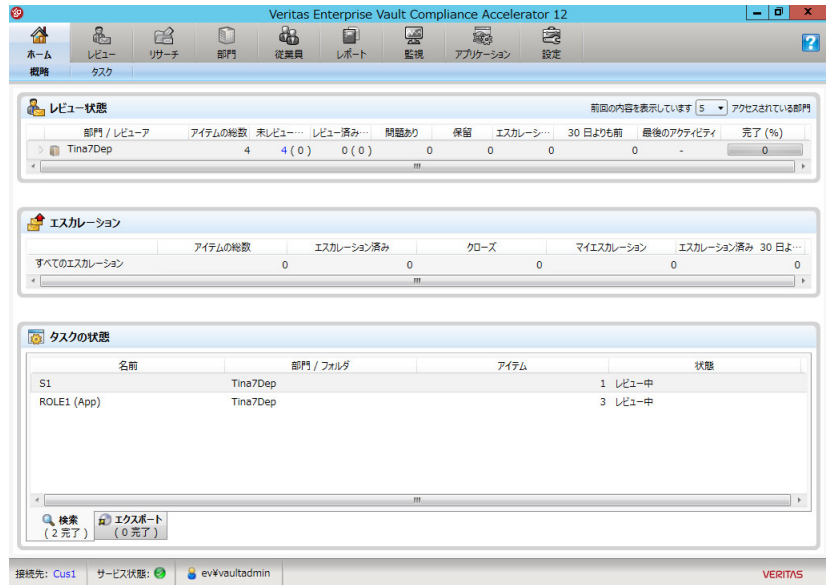
IP アドレスは、IPv4 と IPv6 のいずれの形式でも入力できます。

- 3 [インスタンス]フィールドで、アクセスする Compliance Accelerator インスタンス(カスタマーデータベース)を選択します。利用可能なインスタンスが一覧表示されるフィールドの右側にある下矢印をクリックします。

各インスタンスには、レビューする部門セットの詳細が格納されます。また、関連付けされたユーザーロール、検索結果、リサーチフォルダなども格納されます。したがって、選択するインスタンスが複数ある場合もあります。

- 4 [接続する Compliance Accelerator インスタンスの選択]ダイアログボックスを最初に表示せずに常に同じインスタンスに接続する場合は、[アプリケーションを開くたびに確認する]をクリアします。
- 5 [接続]をクリックします。

しばらくして、Compliance Accelerator クライアントのホームページが表示されます。



Compliance Accelerator クライアントをクローズする方法


- ◆ ウィンドウの右上にある[クローズ]ボタンをクリックします。

Compliance Accelerator クライアントの使い方

Compliance Accelerator クライアントでは、割り当てられたロールによってユーザーがアクセスできる機能が決まります。表 2-1 は、最も権限が強いロールのユーザーがアクセスできる機能を示しています。Compliance Accelerator 管理者は、ユーザーへの複数の異なるロールの割り当てと、そのロールに関連付けされた権限の変更を行うことができます。

表 2-1 Compliance Accelerator クライアントの主なタブ

アイコン	タブ	説明
	ホーム	このタブは Compliance Accelerator で実行するアクティビティの状態の主な項目を表示します。また、 Compliance Accelerator で頻繁に実行される可能性のあるアクティビティにすばやいアクセスを提供します。
	レビュー	このタブでは、レビューセットのアイテムを確認し、マークを割り当ててコメントを付けることができます。
	リサーチ	このタブでは、他の Compliance Accelerator レビューアに追加の作業をさせることなく、対象となるアイテムのみを作業できるリサーチフォルダを設定できます。
	部門	このタブでは、 Compliance Accelerator の部門、部門内の従業員、部門に割り当てられたスーパーバイザとレビューアを管理できます。
	従業員	このタブでは、 Compliance Accelerator システムの従業員プロフィールの表示と変更、新しい従業員プロフィールの入力を行うことができます。 Compliance Accelerator を実行するすべての従業員 (管理者とレビューア)、通信の監視対象となるすべての従業員に対してプロフィールを設定する必要があります。
	レポート	このタブでは、レビューアの進捗状況、ロール、担当など、 Compliance Accelerator のさまざまな面に関するレポートを生成できます。
	監視	このタブでは、すべての Compliance Accelerator の検索の状態を監視し、必要に応じて検索を一時停止または再開することができます。

アイコン	タブ	説明
	アプリケーション	<p>このタブから、よく使われるさまざまな管理機能にアクセスできます。このタブをクリックしたときに利用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [検索]。複数の部門で実行する検索を作成します。 ■ [ロール]。ユーザーに割り当て可能なロールの設定と修正を行い、Compliance Accelerator の機能へのユーザーによるアクセスを管理します。 ■ [ロールの割り当て]。ユーザーに Compliance Accelerator ロールを割り当てます。 ■ [レビューコメント]。作業対象のアイテムに Compliance Accelerator レビューアが適用できる一般的なコメントのテキストを格納します。 ■ [パスワード]。Compliance Accelerator を使って検索する重要な単語の一覧を設定します。 ■ [アーカイブ]。Compliance Accelerator でアイテムを検索する Enterprise Vault アーカイブの一覧をカスタマイズします。
	設定	<p>このタブから、使用頻度が少ないさまざまな設定機能にアクセスできます。このタブをクリックしたときに利用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [検索スケジュール]。設定時刻に繰り返し Compliance Accelerator の検索が実行されるスケジュールを設定します。 ■ [レビュー状態]。状態の名前 ([保留]、[問題あり]など) をカスタマイズします。状態の名前は、Compliance Accelerator が [レビュー] ペインにアイテムの状態を示すときに使います。 ■ [インポート設定]。XML ファイルから Compliance Accelerator に設定データをインポートします。 ■ [アカウント情報]。Compliance Accelerator が従業員と従業員グループの詳細を同期するときに使う複数の Windows ドメインを指定します。 ■ [ディレクトリマップ]。Compliance Accelerator で、従業員プロパティと Active Directory などの外部ソースを同期する方法を設定します。 ■ [部門パーティション]。部門をパーティションにグループ化して、検索範囲を制限します。 ■ [部門属性]。部門の分類に使う属性を設定します。 ■ [設定値]。Compliance Accelerator の外観とパフォーマンスをカスタマイズする何百もの設定オプションを設定します。

従業員と従業員グループの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [従業員と従業員グループについて](#)
- [従業員プロフィールの作成](#)
- [Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性への従業員プロパティのマッピング](#)
- [従業員の詳細の編集](#)
- [従業員グループの作成](#)
- [従業員へのロールの割り当て](#)

従業員と従業員グループについて

Compliance Accelerator では、監視対象の従業員を定義し、その従業員を企業内の部門を反映した構造にグループ化できます。すべての従業員に Compliance Accelerator の「プロフィール」が必要です。各従業員プロフィールは、多数のプロパティから構成されており、一部のプロパティは Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性に対応しています。従業員プロフィールの設定時に、Compliance Accelerator によって、これらのプロパティを対応するディレクトリアカウント情報と自動的に同期させるかどうかを選択できます。

Compliance Accelerator に多数の従業員プロフィールを追加する最も簡単な方法は、従業員グループを作成することです。次に、Active Directory または Domino ディレクトリ (Windows または Domino グループ) に保持されるユーザーアカウント情報とこのグループを同期できます。

従業員に割り当てられた「ロール」によって、その従業員が **Compliance Accelerator** 内でアクセス可能な場所と実行可能なタスクが決まります。

上級管理者などの特定の従業員のメッセージを別に保存して、特別に割り当てられたレビューがレビューできます。このような従業員は、**Compliance Accelerator** の用語で **例外従業員**と呼びます。

従業員プロフィールの作成

従業員プロフィールを設定するには、従業員管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

p.33 の「[Compliance Accelerator の権限について](#)」を参照してください。

従業員プロフィールを作成する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[従業員]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの先頭で[新規従業員]をクリックします。
[新規従業員]ペインが表示されます。

新規従業員

監視の状態: 監視

名前

名: イニシャル:

姓:

表示名:

組織

役職:

部門:

開始日:

終了日:

従業員 ID:

電子メールアドレス:
1 行につき電子メールアドレスが表示名を 1 つ入力してください。引用符は使わないでください。

Windows アカウント

Windows ユーザー名: 参照...

☐ 自動同期

- 3 右ペインで、従業員の名前、イニシャル、姓と、**Compliance Accelerator** に表示される従業員の表示名を入力します。

表示名のみ必須です。**Active Directory** または **Domino LDAP** ディレクトリに従業員の **Windows** アカウントが保存されている場合は、**Compliance Accelerator** をそれに同期させることによって、他のフィールドにポピュレートすることもできます。

- 4 [組織]セクションに、従業員の企業の詳細を入力します。各ボックスで次のように入力します。

役職	従業員の職位を指定します。
部門	従業員が所属する組織内の部門を指定します。この部門は Compliance Accelerator で従業員を割り当てる部門ではありません。
開始日	企業ポリシーに従って指定します。たとえば、開始日には従業員の入社日や従業員の監視開始日を指定できます。デフォルトでは、現在の日付がフィールドに表示されます。この日付を変更するには、フィールドの右の下矢印をクリックし、次に目的の日付を選択します。
終了日	開始日と同様、企業ポリシーに従って指定します。たとえば、終了日は従業員が会社をいつ退職したかを示す場合があります。この日付は正確なシステム情報を保存するために重要です。
従業員 ID	<p>社内の管理部門または財務部門が従業員に重複のない社内 ID を発行している場合は、その ID をこのフィールドに入力できます。XML のファイルを使用して従業員のデータを更新する場合、[従業員 ID]フィールドに重複のない値がなければなりません。この値は更新する従業員プロフィールを識別するために使われます。</p> <p>p.193 の「設定データのインポートについて」を参照してください。</p>
電子メールアドレス	<p>従業員の電子メールアドレスを指定します。従業員に複数のアドレスがある場合は、1 行に各アドレスを入力します。カスタマーデータベース内のすべてのアクティブなアドレスの中で、各電子メールアドレスの 1 つのインスタンスをのみ指定する必要があることに注意してください。重複したアドレスによって、サンプリングエラーが発生する場合があります。</p> <p>この従業員にから送信されたアイテムを検索する場合、Compliance Accelerator は一覧表示されているすべてのアドレスを検索に含めます。関連するすべてのアイテムをキャプチャするには、古い電子メールアドレスも忘れずに追加します。</p>

Active Directory または **Domino** ディレクトリでユーザーアカウントを保有している場合は、同期によって、[役職]と[部門]プロパティをポピュレートできます。また同期を使用して[開始日]、[終了日]と[従業員 ID]のプロパティをポピュレートできます。ただし、適した **Active Directory** か **Domino** ディレクトリ属性に最初にこれらのプロパティをマップする必要があります。

p.24 の「Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性への従業員プロパティのマップ」を参照してください。

- 5 [Windows アカウント]と[Domino アカウント]セクションで、従業員のユーザー名を入力します。または、アカウントのリストを表示するために[参照]をクリックし、次にこの従業員のアカウントを選択します。
- 6 Compliance Accelerator において、関連付けられている Windows ユーザーアカウントまたは Domino ユーザーアカウントの値で従業員プロファイルのプロパティを定期的に同期する場合は、[自動同期]を選択します。

同期の後でプロファイルを手動で編集する場合は、このオプションをクリアする必要があります。

メモ: 同期済みの Domino ユーザーの検索を Compliance Accelerator で実行する場合、Domino ディレクトリで定義された SMTP アドレスをユーザーが持っていることを確認する必要があります。

- 7 [保存]をクリックします。

Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性への従業員プロパティのマップ

Compliance Accelerator 内の各従業員プロファイルは、多数のプロパティから構成されており、一部のプロパティは Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性に対応しています。

表 3-1 に、Compliance Accelerator によってデフォルトでディレクトリ属性にマップされている従業員プロパティを示します。

表 3-1 Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性への従業員プロパティのマップ

従業員プロパティ	Active Directory 属性	Domino ディレクトリ属性
部門	department	department
表示名	displayName	cn
名	givenName	Givenname
ミドルネーム	initials	middleinitial
姓	sn	sn
タイトル	title	Personaltitle

従業員プロフィールの設定時に、**Compliance Accelerator** によって、これらのプロパティを対応する属性と自動的に同期させるかどうかを選択できます。

オプションのプロパティ ([開始日]、[終了日]、[従業員 ID]) に対してもマップを設定できます。**XML** ファイルから部門と従業員データをインポートする場合は、[従業員 ID] プロパティは必須です。

p.193 の「[設定データのインポートについて](#)」を参照してください。

既存のマップを表示するには、システム設定表示権限が必要です。また、既存のマップを変更するには、システム設定修正権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーには両方の権限が割り当てられます。

既存のディレクトリマップを表示して修正する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの [設定] タブをクリックし、次に [ディレクトリマップ] タブをクリックします。
- 2 左ペインで、マップの修正対象となる従業員プロパティをクリックします。
- 3 右ペインで、**Active Directory** と **Domino** ディレクトリのいずれか、または両方と従業員プロパティを同期するかどうか選択します。

Active Directory の同期

Active Directory と同期 ☒

Active Directory の属性名

Domino の同期

Domino と同期 ☒

Domino の属性名

優先されるソース

Active Directory と Domino の両方と同期している場合は、この属性に対して優先させるソースを選択してください。

優先されるソース

- 4 従業員プロパティを同期させる **Active Directory** 属性の名前と **Domino** ディレクトリ属性の名前を入力します。
- 5 **Active Directory** と **Domino** ディレクトリの両方と同期する場合は、それらの 1 つを優先ソースとして指名します。
- 6 [保存] をクリックします。
- 7 新規または変更後のマップを有効にするには、**Compliance Accelerator** サーバーで **Enterprise Vault Accelerator** マネージャサービスを再起動します。

従業員の詳細の編集

各従業員の詳細を編集して、関連付けされた電子メールアドレスの変更、監視ポリシーの修正などを実行できます。

従業員に対する監視ポリシーを編集するには、レビュー割合の割り当て権限が必要です。デフォルトでは、部門のルール管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

従業員の詳細を編集する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[従業員]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、編集する詳細がある従業員の名前をクリックします。

Compliance Accelerator によって大量の従業員とグループが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。従業員とグループを名前と種類でフィルタ処理することと同様、それらの監視状態と雇用状態によってそれらをフィルタ処理できます。

- 3 右ペインで、必要に応じて従業員の詳細を変更します。

従業員の *中断* または *無効化* も可能です。従業員を中断する場合、**Compliance Accelerator** は一時的にその従業員の監視を止めますが、その従業員はまだ、最初に追加された部署に属していると判断されます。従業員を無効化すると、すべてのパーミッションやグループ、および部署の所属を削除します。従業員を中断、または無効化した場合も、後で再び監視を有効にしたり、従業員を有効化することができます。

- 4 [保存]をクリックします。



従業員グループの作成

従業員グループを設定するには、従業員管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

従業員グループを作成する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[従業員]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの先頭で[新規従業員グループ]をクリックします。

[新規従業員グループ]ペインが表示されます。


新規従業員グループ


名前:

説明:

☒ 自動同期

☐ ツリー全体の検索

ソース: Active Directory 検索

検索フィルタ:

検索ルート:

全般
メンバー

- 3 グループ名と簡単な説明文を入力します。
- 4 **Active Directory**などの外部ソースで保持されるユーザーアカウントの情報とグループを同期する場合は、[自動同期]を選択します。それから必須の詳細を入力します。
オプションは次のとおりです。

Active Directory 検索/Domino LDAP 検索

適切な検索フィルタと検索ルートを指定できます。対象の従業員が社内の各種の部門に存在する場合、それらのユーザーアカウントはディレクトリの異なる領域にあることがあります。1つ以上の検索フィルタを使用した検索によって、これらのユーザーを見つけ、自動的に追加できます。

LDAP 検索フィルタは任意の数のカスタム属性または標準の属性を基準にすることができますが、ユーザーオブジェクトを対象にする必要があります。複数のフィルタを組み合わせて、部門のメンバーを検索できます。たとえば、次のように入力して、部門属性が **UK Equities** に設定されているすべてのユーザーを検索できます。

(&(objectCategory=person)(department=UK Equities))

[検索ルート]フィールドで、検索ルートの識別名を入力します。この名前は検索を開始するディレクトリ階層の位置を示します。たとえば、ディレクトリが複数の国に渡る場合、次のように入力して、ルートを **UK 組織単位** に設定できます。

LDAP://OU=UK, DC=MyCompany, DC=com

[ツリー全体の検索]を選択して入れ子のグループのメンバーを含めます。

Active Directory コンテナ Active Directory コンテナの名前を入力できます。

ADsPath フィールドに、従業員グループに追加するユーザーを保存する **Active Directory** コンテナの識別名を入力します。たとえば、**UK Equities** 部門が次の組織単位コンテナをポイントしているとします。

CN=Equities, OU=UK, DC=MyCompany, DC=com

次のように入力して、部門のすべての従業員をグループに追加できます。

LDAP://CN=Equities, OU=UK, DC=MyCompany, DC=com

[入れ子になったコンテナの検索]を選択して入れ子のコンテナのメンバーを含めます。

Windows グループまたは配布リスト/Domino グループまたは配布リスト グループの名前を `domain_name¥group_name` の形式で入力できます。グループは、ディレクトリに保存されている場合も保存されていない場合もあります。Active Directory または Domino ディレクトリを使わない場合、同期によって更新できるのは、従業員プロフィールの表示名のみです。追加の従業員の情報を手動で入力する必要があります。

従業員グループを Domino グループまたは配布リストと同期する場合は、Domino Administrator で匿名アクセスに対して次の Domino LDAP 属性を有効にする必要があります。

- cn
- dominocertificate
- mail
- maildomain
- member
- objectclass

これを行う方法について詳しくは Domino のマニュアルを参照してください。

デフォルトでは、Compliance Accelerator によって、4 時間ごと、Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスが開始されるたびに従業員とグループの同期が行われます。ただし、この設定を変更できます。

p.158 の「[Compliance Accelerator システム設定オプションの設定](#)」を参照してください。

- 5 グループに従業員を手動で追加する場合は[メンバー]タブをクリックして、[追加]をクリックします。次に、リストから従業員を選択します。

Shift キーを押しながら範囲内の最初と最後の従業員をクリックすると、隣接した複数の従業員を選択できます。隣接していない複数の従業員を選択するには、Ctrl キーを押しながら目的の従業員をクリックします。終了したら、[OK]をクリックします。

- 6 [保存]をクリックします。

従業員へのロールの割り当て

従業員または従業員グループに割り当てられたロールによって、Compliance Accelerator 内のアクセス可能な場所と実行可能なタスクが決まります。たとえば、部門のアイテムをレビューしてマーク付けすることが必要な従業員に、部門レビューアのロールを割り当てることができます。一部のロールはアプリケーションレベルで有効で、Compliance Accelerator システム全体に適用されます。それ以外のロールは部門レベルまたはフォルダレベルでのみ適用されます。

また、**Compliance Accelerator** では、コンプライアンススーパーバイザロールという別のレベルのコンプライアンス管理も可能です。このロールを持つユーザーは、部門レビューアの作業を評価したり、部門の例外従業員を管理したりすることができます。

標準の **Compliance Accelerator** システムには多数の事前定義済みロールが付属していますが、必要条件が完全に満たされていない場合は、独自のロールを作成できます。また、不要な事前定義済みロールは削除できます。

Compliance Accelerator の事前定義済みのロールについて

Compliance Accelerator の事前定義済みのロールは次のカテゴリに分類されます。

- アプリケーションロール。**Compliance Accelerator** システムレベルで適用されます。
- 部門ロール。特定の部門にのみ適用されます。
- フォルダロール。特定のリサーチフォルダにのみ適用されます。

表 3-2 アプリケーションロール

ロール	説明	デフォルトの権限
アプリケーション ルール管理者	このロールは検索スケジュールの設定、部門全体の検索の作成、グローバルホットワードの管理、コメントのレビューを可能にします。	<ul style="list-style-type: none">■ ホットワードの追加。■ アプリケーション検索。■ レビューコメント管理。■ スケジュール管理。■ ホットワード修正と削除。
アプリケーションユー ザー管理者	このロールは Compliance Accelerator システムへのユーザーの追加、部門の作成と管理、アプリケーションロールの割り当て、代行ユーザーの作成を可能にします。	<ul style="list-style-type: none">■ 部門作成。■ ユーザーアクセス付与。■ 代行管理。■ 部門パーティション管理。■ 部門ユーザー管理。■ 従業員の管理。■ ロール管理。
コンプライアンスシ ステム管理者	このロールでは、設定データを XML ファイルから Compliance Accelerator にインポートできます。また、 Active Directory 属性と Domino ディレクトリ属性のマッピングを表示、修正し、検索の進行状況を監視できます。	<ul style="list-style-type: none">■ 設定データエクスポート。■ 設定データのインポート。■ システム設定修正。■ 検索監視。■ システム設定表示。

表 3-3 部門ロール

ロール	説明	デフォルトの権限
コンプライアンススーパーバイザ	このロールでは評価機能を使った部門レビューアの作業の確認、部門内の例外従業員の管理が可能です。アイテムは、後で検索できるように個人用フォルダに格納することもできます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 独自レビューコメント追加。 ■ 評価状態適用。 ■ 一括レビュー処理適用。 ■ レビュー処理適用。 ■ メッセージエクスポート。 ■ 例外管理。 ■ アドホック検索実行。 ■ メッセージのレビュー。 ■ レポート表示。
部門レビューア	このロールはアイテムのレビュー、部門内のアイテムのマーク付け、アイテムのエクスポート、レポートの生成と表示を可能にします。アイテムは、後で検索できるように個人用フォルダに格納することもできます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 独自レビューコメント追加。 ■ 一括レビュー処理適用。 ■ レビュー処理適用。 ■ メッセージエスカレーション。 ■ メッセージエクスポート。 ■ アドホック検索実行。 ■ メッセージのレビュー。 ■ レポート表示。
部門ユーザー	このロールは、チャイニーズウォール型セキュリティを実装した Compliance Accelerator 環境で、選択したユーザーに部門の別のロール、またはその部門に関連付けされているリサーチフォルダの別のロールを割り当てられるようにします。	—
エスカレーションレビューア	このロールでは、部門内の他のレビューアがより詳細なレビューを行うためにより高レベルの権限のレビューアにエスカレーションしたことを通知するアイテムを受信できます。このロールは下位の部門に継承されるため、エスカレーションレビューアは自動的に入れ子の部門へのアクセス権を持つことになります。	<ul style="list-style-type: none"> ■ エスカレーションメッセージ一括処理適用。 ■ エスカレーションメッセージへのコメントの適用。 ■ エスカレーションメッセージレビュー処理適用。 ■ エスカレーション状態変更。 ■ エスカレーションメッセージエクスポート。 ■ エスカレーションメッセージレビュー。

ロール	説明	デフォルトの権限
例外レビューア	このロールは割り当てられた例外従業員のアイテムを検索することを可能にします。またアイテムのレビュー、マーク付け、エクスポート、レポートの生成と表示も可能です。アイテムは、後で検索できるように個人用フォルダに格納することもできます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 独自レビューコメント追加。 ■ 一括レビュー処理適用。 ■ レビュー処理適用。 ■ メッセージエスカレーション。 ■ メッセージエクスポート。 ■ アドホック検索実行。 ■ メッセージのレビュー。 ■ キャプチャメッセージ検索。 ■ レポート表示。
下級レビューア	このロールはアイテムの表示、部門からのアイテムのエクスポートを可能にします。またレポートの生成と表示、評価機能を使った部門レビューアの作業の確認とマーク付けも可能です。レビュー状態のマークはアイテムに適用できません。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評価状態適用。 ■ メッセージエクスポート。 ■ メッセージのレビュー。 ■ レポート表示
ルール管理者	このロールは部門内の検索を作成し、部門のパスワードを管理することを可能にします。また従業員に割り当てる監視ポリシーの設定、レポートの生成と表示も可能です。さらに、特定の従業員に例外レビューアを割り当てることができます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホットワードの追加。 ■ 必要条件のレビュー割合の割り当て。 ■ 例外管理。 ■ ホットワード修正と削除。 ■ キャプチャメッセージ検索。 ■ レポート表示。
ユーザー管理者	このロールは部門と監視対象従業員のプロパティを管理することを可能にします。またユーザーに部門ロールを割り当て、部門の詳細のレポートを生成、表示し、進行状況をレビューすることができます。 さらに、詳細なリサーチを行うためにアイテムを格納した個人用フォルダを管理することもできます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 監視対象従業員追加。 ■ 部門プロパティ設定。 ■ ユーザーアクセス付与。 ■ 例外管理。 ■ レポート表示。

表 3-4 フォルダロール

ロール	説明	デフォルトの権限
メッセージキャプチャ	このロールはリサーチフォルダに追加する新しいアイテムを検索することを可能にします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャプチャメッセージ検索。

ロール	説明	デフォルトの権限
メッセージコミット	このロールは他のすべての部門レビューが参照できるように設定される部門レビューにリサーチフォルダのアイテムをコミットすることを可能にします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評価済みフォルダメッセージコミット。 ■ レビュー済みフォルダメッセージコミット。
エクスポート	このロールはオフラインレビューのためにリサーチフォルダからアイテムをエクスポートすることを可能にします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ メッセージエクスポート。
フルコントロール	<p>このロールはリサーチフォルダに追加する新しいアイテムの検索、アイテムのレビューとマーク付けを可能にします。またオフラインレビューのためにアイテムをエクスポートし、部門レビューセットにコミットできます。</p> <p>他のユーザーがレビュー処理に参加できるように、該当するユーザーに自分のフォルダへのアクセス権を付与できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 独自レビューコメント追加。 ■ 評価状態適用。 ■ 一括レビュー処理適用。 ■ レビュー処理適用。 ■ 評価済みフォルダメッセージコミット。 ■ レビュー済みフォルダメッセージコミット。 ■ フォルダプロパティ設定。 ■ フォルダの削除。 ■ メッセージエスカレーション。 ■ メッセージエクスポート。 ■ ユーザーアクセス付与。 ■ メッセージのレビュー。 ■ キャプチャメッセージ検索。 ■ レポート表示。
レビュー	このロールはアイテムをレビューし、フォルダのアイテムにマーク付けすることを可能にします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 独自レビューコメント追加。 ■ 評価状態適用。 ■ 一括レビュー処理適用。 ■ レビュー処理適用。 ■ メッセージエスカレーション。 ■ メッセージのレビュー。

Compliance Accelerator の権限について

次の表はユーザーロールと関連付けできる権限のより多くの情報を提供します。

表 3-5 アプリケーション権限

権限	説明
ホットワードの追加	グローバルホットワード一覧にホットワードを追加します。
アプリケーション検索	複数の部門で実行するためのアプリケーション全体の検索を作成します。
部門作成	新しい部門の追加、所有者の割り当て、既存の部門のプロパティの修正を行います。
部門の削除	選択した部門、それに関連付けられているすべてのオブジェクト(部門指定検索、ユーザーフォルダ、ホットワードなど)の削除を行います。
設定データエクスポート	ImportExport コマンドラインユーティリティを使って、 Compliance Accelerator データベースから XML ファイルへ設定データをエクスポートします。
ユーザーアクセス付与	従業員にアプリケーションロールを割り当てます。
設定データのインポート	XML ファイルに格納された設定データのインポート、インポートログの表示を行います。
代行管理	部門管理者、アプリケーション管理者、レビューアの代行を行うことを従業員に許可します。
部門パーティション管理	パーティションの追加と削除、各パーティションに含める部門の選択を行います。
部門ユーザー管理	チャイニーズウォール型セキュリティを実装した Compliance Accelerator の環境では、ユーザーに部門ユーザーロールを割り当ててください。このロールは他の部門のロールを割り当てるときそのユーザーを選択できるようにします。
従業員の管理	新しい従業員プロフィールの追加、プロフィールのレビューと修正を行います。また、新しい従業員グループの追加、グループのメンバー情報とプロパティの編集、従業員グループの削除を行うこともできます。
レビューコメント管理	レビューアがアイテムに適用するように選択できる事前定義済みコメントの追加、修正、削除を行います。
ロール管理	ロールの追加と削除、各ロールに割り当てる権限の選択を行います。
スケジュール管理	検索用のスケジュールの作成と変更を行います。

権限	説明
パスワード修正と削除	グローバルパスワードの変更と削除を行います。
システム設定修正	Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性と Compliance Accelerator 従業員プロパティ間のマップを変更します。レビューアが利用可能なレビュー状態のマークを変更したり、すべての部門が利用可能なアーカイブを変更したりすることもできます。
検索監視	関連付けされている部門へのアクセス権が通常はない場合でも、すべての部門全体の検索の状態の監視、検索の一時停止と再送信を行います。ただし、通常のアクセス権限がなければ、検索基準または検索結果を表示できません。
システム設定表示	Active Directory 属性または Domino ディレクトリ属性と Compliance Accelerator 従業員プロパティ間のマップを表示します。レビューアが利用可能なレビュー状態のマークの表示、すべての部門が利用可能なアーカイブを表示することもできます。

表 3-6 部門権限

権限	説明
パスワードの追加	選択した部門内にのみ表示されるパスワードを追加します。
監視対象従業員追加	部門に既存の従業員を割り当てます。
独自レビューコメント追加	独自の自由形式コメントを入力することによってアイテムにコメントを適用します。
標準レビューコメント追加	事前定義済みコメントセットから選択することによってアイテムにコメントを適用します。この権限では、自由形式のコメントを入力できません。
評価状態適用	評価機能による部門レビューアの作業の確認とマーク付けを行います。
一括レビュー処理適用	複数のアイテムに処理状態マークを一度に適用します。
エスカレーションメッセージ一括処理適用	複数のエスカレーションアイテムに処理状態マークを一度に適用します。
エスカレーションメッセージへのコメントの適用	エスカレーションアイテムにコメントを適用します。

権限	説明
レビュー処理適用	レビューセット内のアイテムに処理状態マークを適用します。
エスカレーションメッセージレビュー処理適用	エスカレーションアイテムに処理状態マークを適用します。
必要条件のレビュー割合の割り当て	部門や部門内の特定のグループと従業員に監視ポリシーのサンプルサイズを割り当てます。
エスカレーション状態変更	エスカレーションアイテムをクローズして他のエスカレーションレビューアに再割り当てします。
評価済みフォルダメッセージコミット	評価状態マークを適用したアイテムを部門レビューセットにコミットします。
レビュー済みフォルダメッセージコミット	リサーチフォルダから部門レビューセットにアイテムを追加します。この権限には、アドホック検索実行権限が必要です。
部門プロパティ設定	部門のプロパティの表示と修正を行います。
部門の削除	現在の部門、それに関連付けされているすべてのオブジェクト (部門指定検索、ユーザーフォルダ、ホットワードなど) の削除を行います。
フォルダの削除	ユーザーがアイテムを格納したリサーチフォルダを削除します。
メッセージエスカレーション	レビューを行うためにより高レベルの権限のレビューアにアイテムをエスカレーションします。
メッセージエクスポート	部門レビューセットからアイテムをエクスポートします。
エスカレーションメッセージエクスポート	エスカレーションアイテムをエクスポートします。
ユーザーアクセス付与	部門内のユーザーにロールを割り当てます。
例外管理	例外従業員の作成、レビューアの例外従業員への割り当てを行います。
ホットワード修正と削除	部門ホットワード一覧内のホットワードの変更と削除を行います。
アドホック検索実行	完全リサーチ権限によるリサーチフォルダの作成、削除、修正、アイテムの検索とレビューを行います。
エスカレーションメッセージレビュー	他のレビューアが詳細な監査を行うためにエスカレーションしたアイテムをレビューします。

権限	説明
メッセージのレビュー	アイテム、処理状態、コメント履歴を表示します。
キャプチャメッセージ検索	特定の部門内のアイテムをキャプチャするためにカスタム検索を定義します。
ホームページのレビューア概略の表示	アプリケーションのスタートのページに、レビューアのアクティビティの概略を表示します。
レポート表示	レポートの作成と表示を行います。レポートの範囲が部門よりも広い場合、部門内でこの権限を持つ従業員が表示できるのは独自のレポートのみです。

Compliance Accelerator ロールの作成

ユーザーに割り当てる権限が事前定義済みロールに含まれていない場合は、独自のロールを作成できます。

ロールを作成するには、ロール管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

ロールを作成する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ロール]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。
[ロールの詳細]ペインが表示されます。

ロールの詳細

名前:

説明:

範囲:

権限

	許可
アドホック検索実行	<input type="checkbox"/>
エスケーションメッセージのエクスポート	<input type="checkbox"/>
エスケーションメッセージへのコメントの適用	<input type="checkbox"/>
エスケーションメッセージレビュー	<input type="checkbox"/>
エスケーションメッセージレビュー処理適用	<input type="checkbox"/>
エスケーションメッセージ一括処理適用	<input type="checkbox"/>
エスケーション状態変更	<input type="checkbox"/>
キャプチャメッセージ検索	<input type="checkbox"/>
フォルダの削除	<input type="checkbox"/>
ホームページのレビューア概要の表示	<input type="checkbox"/>
ホットワードの追加	<input type="checkbox"/>
ホットワード修正と削除	<input type="checkbox"/>
メッセージエクスポート	<input type="checkbox"/>

保存 キャンセル

- 3 右ペインで、重複しないロール名と、必要に応じて説明を入力します。
ロール名には最大 **50** 文字まで入力できます。説明には最大 **250** 文字まで入力できます。
- 4 [範囲]フィールドで、ロールに関連付けされた権限をアプリケーション全体で有効にするか、部門レベルでのみ有効にするかを選択します。フォルダレベルのロールを作成できません。

アプリケーションロールを持つユーザーは、特定の部門で適切なロールが割り当てられている場合にのみ、その部門でタスクを実行できます。1つ以上の部門でタスクを実行するには、アクセスする必要があるすべての部門の適切なロールを割り当てる必要があります。

ここで選択した内容によって、利用可能な権限が決まります。

- 5 ロールに関連付ける権限を選択します。
p.33 の「[Compliance Accelerator の権限について](#)」を参照してください。
- 6 [保存]をクリックします。

Compliance Accelerator ロールのプロパティの編集

Compliance Accelerator ロールに関連付けられた権限を変更できます。カスタムロールを作成した場合は、その名前や説明を変更することもできます。ただし、事前定義済みロールの名前を変更することはできません。

ロールを編集するには、ロール管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

Compliance Accelerator ロールのプロパティを編集する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ロール]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、編集するロールをクリックします。
- 3 右ペインで、必要に応じてロールの名前と説明を変更し、ロールに関連付ける権限を選択します。

ロール名は一意である必要があり、50 文字まで含むことができます。説明には最大 250 文字まで入力できます。
- 4 [保存]をクリックします。

従業員またはグループへの Compliance Accelerator ロールの割り当て

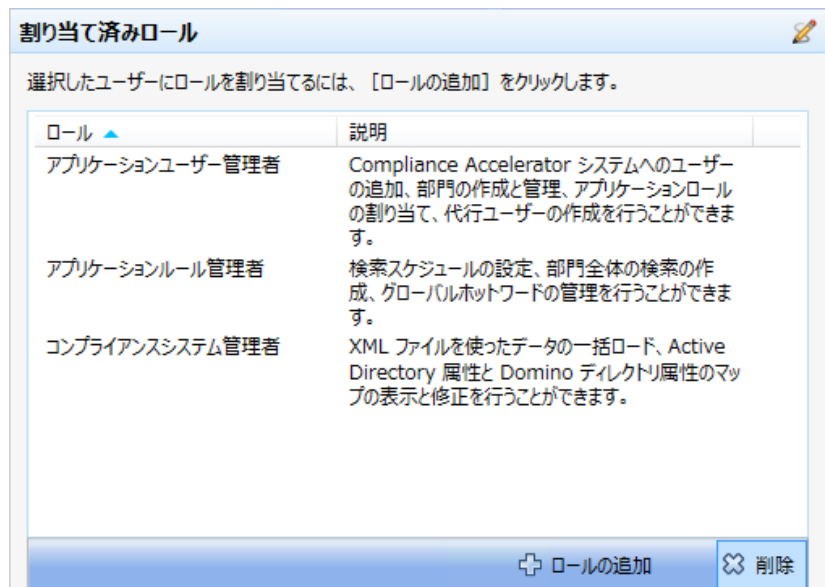
従業員がグループにロールを割り当てるユーザーアクセス付与権限を持たなければなりません。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が最優先で割り当てられます。2 番目に、ユーザー管理者の部門ロールのユーザーに割り当てられます。

明示的に割り当てたロールを所有するほか、従業員は属するグループのロールを継承できます。

従業員またはグループにロールを割り当てる方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - アプリケーションロールを割り当てるためには、Compliance Accelerator クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ロールの割り当て]タブをクリックします。

- 部門ロールを割り当てるには、[部門]タブをクリックし、次に左ペインで目的の部門をクリックします。それから[ロールの割り当て]タブをクリックします。
- 2 ロールを割り当てるグループまたは従業員の名前をクリックします。
従業員かグループがリストに表示されなければ、ペインの先頭で[ユーザーを追加]をクリックします。それからリストに追加するために従業員かグループを選択します。
- 3 右ペインで次のいずれかの操作をします。
 - 新しいロールを割り当てるために[ロールの追加]をクリックします。
 - 選択したロールを削除するために[削除]をクリックします。



- 4 [保存]をクリックします。

Compliance Accelerator ロールの削除

ロールが不要になった場合、そのロールを削除できます。従業員に割り当てられているロールを削除しても、ロールに関連付けされた権限は保持されます。ロールを削除する前にロールの割り当てがあるかどうかを調べ、解除します。

続行する前に次の点に注意してください。

- 事前定義済みロールではないカスタムロールのみ削除できます。
- ロールを削除するには、ロール管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

ロールを削除する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ロール]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、削除するロールをクリックします。
- 3 [削除]をクリックします。
- 4 続行する場合は、再び[削除]をクリックします。

部門を使った操作

この章では以下の項目について説明しています。

- [部門について](#)
- [部門の作成](#)
- [監視対象の従業員とグループの部門への追加](#)
- [従業員とグループに対する監視ポリシーの編集](#)
- [従業員またはグループの部門間での移動](#)
- [部門の移動](#)
- [部門レビューア、コンプライアンススーパーバイザ、代行の割り当て](#)
- [チャイニーズウォール型セキュリティの実装](#)
- [例外従業員の管理](#)
- [パーティションへの部門のグループ化](#)
- [属性を使った部門の分類](#)

部門について

Compliance Accelerator では、監視対象従業員を企業の構造を反映した部門に体系化できます。たとえば、「Marketing」、「Sales」と「Engineering」と呼ばれる部門を作成できます。この場合、適切な部門に監視対象従業員を追加できます。

複数の部門を設定したら、それらを「パーティション」にグループ化できます。この機能により、検索範囲を同じパーティション内の部門の監視対象従業員が送受信したアイテムに限定できます。パーティションを定義しなければ、1 つの部門で開始する検索に他の部門の従業員のアイテムを含めることができます。

ランダムサンプリングの目的で、部門、その部門に関連付けられた従業員、監視ポリシーに加えた変更は、次の 2 つのイベントのいずれかが起きた時点で反映されます。

- **Enterprise Vault** ストレージサービスを手動で再起動する。
- **Enterprise Vault** ストレージサーバーのコンプライアンスのサンプリング処理が **Compliance Accelerator** カスタマーデータベースの設定データに自動同期する。デフォルトでは 60 分ごとに自動同期しますが、[古い設定タイムアウト (分)] 設定オプションを使って頻度を調整できます。
p.175 の「[ランダムキャプチャの設定オプション](#)」を参照してください。

部門の作成

Compliance Accelerator では、監視対象従業員を企業の構造を反映した部門に体系化できます。新しいトップレベルの部門や入れ子の部門 (既存部門の子部門) を追加できます。

部門の作成に最小限必要な情報は、部門の名前と所有者です。システムに追加されたすべての従業員が所有者になることができますが、通常は、**Compliance Accelerator** のメインシステム管理者を所有者にします。

新しい部門を追加するには、部門作成権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

部門を作成する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの [部門] タブをクリックします。
- 2 左の [部門] のペインで、次のいずれかの操作をします。
 - トップレベルの部門を作成するには、ウィンドウの先頭で [すべての部門] をクリックし、次に [新規部門] をクリックします。
 - 既存の部門の子供である部門を作成するには、その部門をクリックし、次に [プロパティ] タブをクリックします。それから、ウィンドウの先頭で [ここに新規部門を挿入] をクリックします。
Compliance Accelerator によって大量の部門が一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。部門を名前でフィルタ処理することと同様、それらと関連付けされる例外従業員、フォルダ、レビューアを一覧表示するかどうかを選択できます。

[部門] ペインが表示されます。

部門

名前: Tina7Dep

状態: オープン

所有者: vaultadmin - EV¥vaultadmin 所有者の選択...

オプション

☒ 部門を含めることが可能

☒ 監視対象従業員を含めることが可能

エクスポートの詳細

アイテム ID の桁数: 6

アイテム ID の接頭辞: 例の表示

出力フォルダ: C:¥

検索の詳細

新規検索のデフォルトのサンプル割合: 100 % ☐ ロック

検索可能なボルトストア:

- ☒ JPSite1
- ☒ JP Vault Store

全般 監視 履歴

保存 キャンセル(C)

- 3 [名前]のフィールドで、部門の重複しない名前を入力します。
名前にはスペースや非 **ASCII** 文字を使えます。
- 4 [状態]のフィールドで、部門をオープンするかクローズするかを選択します。
[クローズ]を選択すれば、部門の従業員の監視は行われず、部門名はアプリケーションのスタートのページに表示されません。ただし、従業員が他の部門でも監視されている場合、該当する部門での監視は引き続き行われます。
- 5 [所有者]フィールドで、部門の主任管理者の表示名と **Windows** ユーザーアカウントを選択します。

各部門には所有者が存在します。所有者には **Windows** ログオンが必要ですが、**Windows** や **Compliance Accelerator** の特別な権限は必要ありません。デフォルトでは、**Compliance Accelerator** はユーザー管理者ロールに関連する権限を部門の所有者に付与します。該当する権限は次のとおりです。

- ユーザーアクセス付与

- 監視対象従業員追加
 - 部門プロパティ設定
 - レポート表示
- 6 既存の部門の子供である入れ子の部門を作成する場合は、[親部門]フィールドに正しい部門が表示されていることを確認します。
- 7 1つ以上の部門属性を設定したら、[識別情報属性]セクションに必須属性の値を入力します。
- p.64 の「[属性を使った部門の分類](#)」を参照してください。
- 8 [オプション]セクションの次のオプションを選択またはクリアします。

部門を含めることが可能 この部門の下で入れ子の部門を作成できるかどうか指定します。

監視対象従業員を含めることが可能 この部門に監視対象従業員を追加できるかどうか指定します。
 トップレベルの部門には監視対象従業員が含まれていないが、
 入れ子の部門には含まれている部門階層を設定する必要がある
 場合は、このオプションをクリアすることもできます。

- 9 [エクスポートの詳細]セクションでは、オフラインレビューのためにアイテムをエクスポートするときに使うデフォルトオプションを指定します。オプションは次のとおりです。

アイテム ID の桁数 各アイテムのエクスポート番号の桁数を指定します。デフォルトは 6 です。

アイテム ID の接頭辞 各アイテムのエクスポート番号の接頭辞として使うテキストを指定します。エクスポートを識別する文字は、法令または企業内命名規則に従った設定が必要になる場合があります。

例を表示 完全な ID のプレビューを表示します。

出力フォルダ エクスポートされたアイテムを格納する **Compliance Accelerator** サーバー上のフォルダを指定します。

アイテムを別のコンピュータにエクスポートするには、共有フォルダの UNC パス
 (¥¥my_computer¥exports など)を指定します。ただし、個人用 (.pst) のファイルとしてアイテムをエクスポートする場合は NTFS のパス (たとえば、Z:¥exports)を指定すること推奨します。Windows は UNC パスでの .pst ファイルのエクスポートをサポートしません。
 フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。

- 10 [検索の詳細情報]セクションでは、部門レビューセットに検索の結果を追加するときに **Compliance Accelerator** が従わなければならないポリシーを指定します。オプションは次のとおりです。

新規検索のデフォルトのサンプル割合	検索結果としてレビューセットに追加されるアイテムの最小割合を指定します。検索の作成時に、従業員ごとのアイテムの最小数を指定することにより、さらにこのオプションの範囲を制限することができます。
ロック	部門管理者は新しい検索でのサンプルレートを変更できなくなります。
検索可能なボルトストア	部門での検索に利用可能なアーカイブがあるボルトストアを選択できます。部門管理者は、必要な権限がある場合に、自分の部門で検索に使えるアーカイブの一覧をカスタマイズできます。

- 11 [インテリジェントレビュー]セクションで、**Compliance Accelerator** の学習エンジンのオプションを選択します。このエンジンにより、**Compliance Accelerator** はレビューアが以前のアイテムに実行したアクションに基づいてアイテムのサンプリングと検索をインテリジェントに行うことができます。たとえば、レビューアがスパムメッセージまたはオフィス不在の応答を関連なしのアイテムとしてマークを付けると、**Compliance Accelerator** は同様の特性を持つアイテムを検出したときにそれらのアイテムを同じ方法で処理できます。

Compliance Accelerator はアイテムの関連性を判別するためにアイテムのメタデータと送信者から受信者への経路を調べます。ただし、**Compliance Accelerator** はアイテムの内容を評価しません。

サンプリングの学習動作 このオプションを利用できるかどうかは、デフォルトのサンプリングモードである保証されたサンプリングまたは統計サンプリングを使うかに基づきます。

- [なし]。Compliance Accelerator は、インテリジェントレビューを実装せずに、通常の方法でアイテムをサンプリングします。
- [サンプル抽出の割合と優先順位付け] (保証されたサンプリング) または [サンプル統計の割合と優先順位付け] (統計サンプリング) Compliance Accelerator は、関連ありと関連なしの両方のアイテムをいずれかを優先することなくサンプリングします。したがって、10% のアイテムをキャプチャして、レビューすることを要求するポリシーを監視する場合は、Compliance Accelerator は 10% をキャプチャしますが、相当数のアイテムが関連なしとなる可能性があります。しかし、このオプションを使うと、Compliance Accelerator はアイテムをレビューセットに追加するときにそのアイテムに対して [未レビュー (関連なし)] または [未レビュー (関連あり)] のいずれかのステータスを付与します。後で [レビュー] ペインでアイテムをレビューするときに、[未レビュー] ステータスを使ってアイテムをフィルタリングして、関連ありと関連なしを区別できます。
- 現在のサンプルに加えて、関連するコンテンツのサンプル抽出の割合 (保証されたサンプリングのみ) Compliance Accelerator は、要求された割合の関連ありのアイテムをキャプチャするまで、関連ありと関連なしの両方のアイテムをレビューセットに追加します。したがって、このオプションでは、監視対象のポリシーが要求するよりも多くのアイテムが Compliance Accelerator によってキャプチャされる場合があります。たとえば、10% のアイテムをレビューすることを要求するポリシーがあるとします。この要求数に達するには、半数のみが関連ありのアイテムであるため、20% のアイテムをキャプチャしなければならない場合があります。

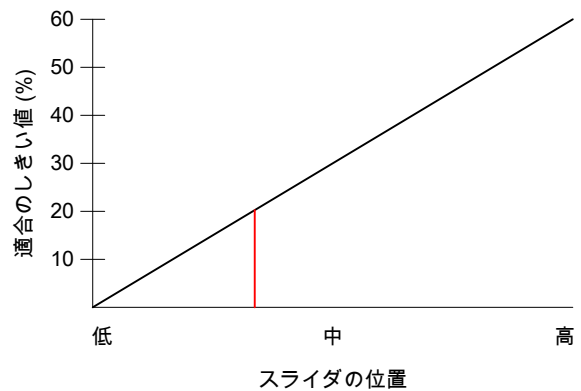
- [利用可能な関連するコンテンツのサンプル抽出の割合] (保証されたサンプリング) または [関連するコンテンツのみのサンプル統計の割合] (統計サンプリング) **Compliance Accelerator** は、関連なしと考慮されるすべての内容を破棄して、要求された割合に達するまで関連ありの内容のみをサンプリングします。したがって、アイテムの **10%** をキャプチャして、レビューすることを要求するポリシーを監視する場合は、**Compliance Accelerator** は正確に **10%** をキャプチャします。

保証されたサンプリングのみの場合は、**Compliance Accelerator** は監視対象のポリシーの要求を満たすには関連ありのアイテムが少なすぎるときに関連なしのアイテムで補充します。たとえば、サンプリングに **100** のアイテムが利用可能である場合に、監視対象のポリシーがそれらの **10%** をキャプチャすることを要求していると想定します。**7** 個のアイテムのみが関連ありである場合は、**Compliance Accelerator** は関連なしのアイテムを **3** 個追加して、**10** 個のアイテムの要求を満たします。統計サンプリングモードでは、**Compliance Accelerator** は関連なしのアイテムで関連ありのアイテムを補充しません。

適合のしきい値

Compliance Accelerator でアイテムを未レビュー (関連なし) の状態にする前に予測精度に対して求められる信頼度のレベルを指定します。スライダを右側に移動すればするほど、**Compliance Accelerator** では予測精度に対してより高い信頼度が求められます。

次のグラフは、スライダの位置とアイテムが達成する必要がある適合のしきい値の関係を示しています。



たとえば、アイテムが潜在的に関連性がないアイテムとして **Compliance Accelerator** によって識別されたとします。スライダを左端に移動すると、**Compliance Accelerator** はそのアイテムを関連なしの状態にするために予測精度の信頼度が求められません。その一方で、スライダを右端に移動すると、**Compliance Accelerator** はこの状態にするために予測精度の信頼度が少なくとも 60% 必要になります。

デフォルトのスライダ値は中間値をわずかに下回ります (赤い線)。これは、**Compliance Accelerator** が関連なしの状態にするために 20% 以上の予測精度の信頼度が必要であることを意味します。このスコアに達することのできないアイテムは、[未レビュー (関連あり)] のステータスが割り当てられます。

学習を消去

この部門の蓄積された学習動作をすべて破棄します。

- [監視]タブで、各従業員のアイテムをランダムにサンプリングして毎日レビューセットに追加する全般的なポリシーを設定します。

監視ポリシー

☐ この部門の従業員の監視を無効にする

☐ すべてのポリシーのレビュー必要条件

75

%

☒ ポリシーごとのレビュー必要条件

☒ この部門のメッセージの総数に上限を設定する

*保証サンプリングは上限設定をサポートしていません

☐ メッセージの総数に上限を設定する

メッセージ

☒ メッセージの種類ごとに上限を設定する

メッセージの種類	レビューの必要条件	上限
Microsoft Exchange Server		
内部:	<div><div>75</div>%</div>	<div><div>0</div>メッセージ</div>
外部インバウンド:	<div><div>75</div>%</div>	
外部アウトバウンド:	<div><div>75</div>%</div>	
SMTP		
内部:	<div><div>75</div>%</div>	<div><div>0</div>メッセージ</div>
外部インバウンド:	<div><div>75</div>%</div>	
外部アウトバウンド:	<div><div>75</div>%</div>	
ソーシャル		
ソーシャル	<div><div>75</div>%</div>	<div><div>0</div>メッセージ</div>
Lotus Domino		
内部:	<div><div>75</div>%</div>	<div><div>0</div>メッセージ</div>
外部インバウンド:	<div><div>75</div>%</div>	

全般

監視

履歴

保存

キャンセル(C)

オプションは次のとおりです。

この部門のすべての従業員の監視を無効化

部門の従業員すべての監視を停止するかどうかを指定します。レビューアと部門管理者は引き続き部門にアクセスできます。従業員が他の部門でも監視されている場合、該当する部門での監視は引き続き行われます。

すべてのポリシーのレビュー必要条件

このオプションを選択する場合、[監視]タブの他のすべてのオプションを無効にします。

選択した場合

選択した場合はすべての種類のアイテムに同じ監視ポリシーを設定します。たとえば、すべての種類のアイテムから **75%** キャプチャしてレビューする必要がある場合はこのオプションを **75** に設定します。

以前に各種のアイテムに異なる監視ポリシーを設定した場合は、このオプションを選択するとそれらすべてに最も高い割合を適用します。

ポリシーごとのレビュー必要条件

選択した場合は各種のアイテムに異なる監視ポリシーを設定できます。

この部門のメッセージの総数に上限を設定する

Compliance Accelerator がキャプチャして部門のレビューセットに追加するランダムサンプルアイテムの数に制限を設定できません。各種類のアイテムに総数または制限数を設定できます。

上限の設定は、統計的サンプリングモードでキャプチャするランダムサンプルアイテムにのみ適用されます。次のアイテムには適用されません。

- 保証サンプリングモードでキャプチャするランダムサンプルアイテム。
- 検索を行なうと見つかるアイテム。
- ポリシー管理ソフトウェアが「含める」にタグ付けしたレビューセットのアイテム。

規定上、各従業員のアイテムのうち一定の割合の数を監視する必要がある場合は、部門の合計メッセージ数に上限を設定するとこの必要条件を満たせない場合があります。

メッセージの種類、レビューの必要条件、上限設定

アイテムの種類ごとに、各従業員のアイテムのうちキャプチャしてレビューセットに追加する数量を割合で指定します。使わないアイテムの種類に対しては、0 を入力します。

Microsoft Exchange、SMTP、Domino、Fax のアイテムには、次の種類があります。

- [内部]。作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテムを選択します。
- [外部インバウンド]。作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織内部の人間であるアイテムを選択します。
- [外部アウトバウンド]。作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織外部の人間であるアイテムを選択します。

部門レベルのほか、従業員レベルとグループレベルで監視ポリシーを設定できます。したがって、ここに示されている値は何人かの従業員には適用されないことがあります。その場合、**Compliance Accelerator** はアイテムの種類ごとに最も高い割合を適用します。従業員レベルまたはグループレベルで値を設定するには、[監視対象従業員]機能を使います。

p.52 の「[監視対象の従業員とグループの部門への追加](#)」を参照してください。

13 [保存]をクリックします。

監視対象の従業員とグループの部門への追加

Compliance Accelerator の重要なアクティビティは、従業員と従業員グループを監視対象の部門に追加することです。従業員とグループのプロファイルを作成していない場合は、部門に追加する前に作成する必要があります。

p.22 の「[従業員プロファイルの作成](#)」を参照してください。

従業員やグループを部門に追加するには、監視対象従業員追加権限とユーザーアクセス付与権限が必要です。デフォルトでは、部門のユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

監視対象の従業員とグループを部門に追加する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、次のいずれかの操作をします。
 - 従業員またはグループを追加する部門をクリックし、[監視対象従業員]タブをクリックします。次に、ウィンドウの上部の[従業員の追加]をクリックします。
 - 何人かの従業員かグループを追加する部門を右クリックし、[監視対象従業員の追加]をクリックします。
- 3 監視するグループと従業員を選択します。

Shift キーを押しながら範囲内の最初と最後の名前をクリックすると、隣接した複数の名前を選択できます。隣接していない複数の名前を選択するには、Ctrl キーを押しながら目的の名前をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。

従業員とグループに対する監視ポリシーの編集

Compliance Accelerator が従業員ごとにキャプチャし、各日付のレビューセットに追加するアイテムの割合を定義できます。Microsoft Exchange、Domino、インスタントメッセージなどの異なる種類のアイテムを監視する場合は種類ごとに割合を設定できます。

Exchange や Domino などの一部のアイテムでは特定の方向 (内部、外部アウトバウンド、外部インバウンド) に送信するアイテムの割合も設定できます。

アイテムを分類するためにポリシー管理ソフトウェアを使っている場合、この方法によってキャプチャするアイテムは、定義した監視ポリシークォータに影響します。これらのアイテムが完全にはクォータを満たさない場合には、Compliance Accelerator はランダムにサンプリングされたアイテムで不足分を埋め合せます。

従業員に対する監視ポリシーを編集するには、レビュー割合の割り当て権限が必要です。デフォルトでは、部門のルール管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

従業員またはグループに対する監視ポリシーを編集する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、目的の部門をクリックします。
- 3 [監視対象従業員]タブをクリックします。
[監視対象従業員]ペインが表示されます。

メッセージの種類	レビューの必要条件	実効レビュー
Microsoft Exchange Server		
内部	<input type="text"/> %	2 %
インバウンド	<input type="text"/> %	2 %
アウトバウンド	<input type="text"/> %	2 %
SMTP		
内部	<input type="text"/> %	2 %
インバウンド	<input type="text"/> %	2 %
アウトバウンド	<input type="text"/> %	2 %
ソーシャル		

- 4 監視ポリシーを修正したい従業員かグループをクリックします。
- 5 右のペインで必須の詳細を入力します。

すべての種類のアイテムに同じ監視ポリシーを設定する場合は、[すべてのポリシーのレビュー必要条件]を選択します。たとえば、すべての種類のアイテムから **75%** キャプチャしてレビューする必要がある場合はこのオプションを **75** に設定します。または、各種のアイテムに異なる監視ポリシーを設定する場合は、[ポリシーごとのレビュー必要条件]を選択します。

Exchange、SMTP、Domino のアイテムの場合、アイテムの種類は次のとおりです。

- [内部]。作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテムを選択します。
- [インバウンド]。作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織内部の人間であるアイテムを選択します。
- [アウトバウンド]。作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織外部の人間であるアイテムを選択します。

- 6 部門の上限を従業員またはグループに適用しない場合は、[部門の上限を無視]を選択します。

上限の設定は、統計的サンプリングモードでキャプチャするランダムサンプルアイテムにのみ適用されます。次のアイテムには適用されません。

- 保証サンプリングモードでキャプチャするランダムサンプルアイテム。
- 検索を行なうと見つかるアイテム。
- ポリシー管理ソフトウェアが「含める」にタグ付けしたレビューセットのアイテム。

7 [保存]をクリックします。

従業員またはグループの部門間での移動

従業員を部門間で移動するときは、それに合わせて **Compliance Accelerator** を更新することを推奨します。監視対象の従業員と従業員グループを部門間で移動する場合は、次の条件が適用されます。

- 両方の部門での監視対象従業員追加権限が必要です。デフォルトでは、部門のユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。
- 移動先部門のプロパティで、[監視対象従業員を含めることが可能]オプションを選択する必要があります。

新しい部門に従業員かグループを移動するとき、**Compliance Accelerator** は従業員かグループにその部門の監視ポリシーを適用します。同様に、古い部門の部門レビューアではなく、新しい部門の部門レビューアが従業員かグループの監視を担当します。ただし、例外従業員はもとの例外レビューアの対象のままです。

従業員やグループを部門間で移動する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]ペインで、移動する従業員やグループが格納されている部門をクリックします。
- 3 [監視対象従業員]タブをクリックします。
- 4 [監視対象従業員]リストから従業員やグループをドラッグし、[部門]ペインの目的の部門にドロップします。
- 5 [移動]をクリックして、従業員やグループを移動することを確定します。

部門の移動

部門階層の異なる場所に部門を移動すると、その子部門とともに移動します。部門の監視対象従業員、例外従業員、レビューア、スーパーバイザも、階層の新しい位置でその部門に同じように割り当てられます。

部門を移動するには、部門作成権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

部門を移動する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、移動する部門をクリックします。

Compliance Accelerator によって大量の部門が一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。部門を名前でフィルタ処理することと同様、それらと関連付けされる例外従業員、フォルダ、レビューアを一覧表示するかどうかを選択できます。
- 3 移動する部門をドラッグし、新しい親部門にドロップします。

親部門をその子部門にドロップすることはできません。
- 4 [移動]をクリックして、部門を移動することを確定します。

親部門のレビューアとスーパーバイザには、移動後の部門へのアクセス権が自動的に付与されます。

部門レビューア、コンプライアンススーパーバイザ、代行の割り当て

Compliance Accelerator は部門のユーザーに多数の主要なロールを割り当てることを容易にします。

部門レビューアは部門のアイテムの見直しとマーク付け、オフラインレビューのためのアイテムのエクスポート、レポートの生成と表示を行うことができます。これらのユーザーは、後で調査できるようにアイテムをリサーチフォルダに格納することもできます。

コンプライアンススーパーバイザは部門レビューアの作業を評価し、部門の例外従業員を管理できます。部門レビューアのように、コンプライアンススーパーバイザも後で検索できるようにアイテムを個人用フォルダに格納できます。

また他のレビューアかスーパーバイザの代行として従業員を割り当てることができます。代行には、主レビューアまたは主スーパーバイザが担当するすべての部門と例外のレビューセットへのレビューアアクセス権が自動的に付与されます。これらの部門と例外には、レビューアグループまたはスーパーバイザグループの権限または所属を継承した結果としての部門や例外も含まれます。代行が主レビューアに代わって実行できる唯一のタスクはアイテムを見直すことです。代行状態では他の利点は提供されません。

表 4-1 部門レビューア、コンプライアンススーパーバイザ、代行を割り当てるために必要な権限

アクティビティ	必要な権限	この権限を提供するロール
部門への部門レビューアかコンプライアンススーパーバイザの割り当て。	ユーザーアクセス付与。	ユーザー管理者。
例外従業員へのレビューアの割り当て。	例外管理。	コンプライアンススーパーバイザ、ルール管理者、またはユーザー管理者。
別のレビューアの代行レビューアとしての 1 人のユーザーの指定。	代行管理。	アプリケーションユーザー管理者。

部門レビューア、コンプライアンススーパーバイザ、代行を割り当てる方法

- 1** **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2** 左の[ユーザー]のペインで、ロールを割り当てるユーザーの名前をクリックします。
- 3** 次の 1 つ以上の操作をします。

ユーザーを部門レビューアにする方法。

- 1** [処理の選択]をクリックし、[レビューする部門の割り当て]をクリックします。
- 2** ユーザーをレビューアにする 1 つ以上の部門を選択します。

Compliance Accelerator はユーザーアクセス付与権限があり、このユーザーにまだ割り当てられていない部門をリストします。

- 3** [OK]をクリックします。

ユーザーを例外従業員のレビューアにする方法。

- 1** [処理の選択]をクリックし、[レビューする例外の割り当て]をクリックします。
- 2** ユーザーを割り当てる一人以上の例外従業員を選択します。

Compliance Accelerator は利用可能な例外従業員をリストします。

- 3** [OK]をクリックします。

ユーザーを部門のコンプライアンススーパーバイザにする方法。

1 [処理の選択]をクリックし、[管理する部門の割り当て]をクリックします。

2 ユーザーをコンプライアンススーパーバイザにする 1つ以上の部門を選択します。

Compliance Accelerator はユーザーアクセス付与権限があり、このユーザーにまだ割り当てられていない部門をリストします。

3 [OK]をクリックします。

ユーザーを別のレビューアの代行にする方法。

1 [処理の選択]をクリックし、[ユーザーを代行に設定]をクリックします。

2 代行としてこのユーザーを割り当てる一人以上の主レビューアを選択します。

レビューアやスーパーバイザには複数の代行を割り当てることができます。ただし、グループを代行として割り当てることはできません。

3 [OK]をクリックします。

代行レビューアをユーザーに割り当てる方法。

1 [処理の選択]をクリックし、[代行の割り当て]をクリックします。

2 代行としてこのユーザーに割り当てる 1 人以上のレビューアを選択します。

3 [OK]をクリックします。

メモ: これらの処理を実行するもう 1 つの方法は左ペインからユーザーか部門をドラッグし、右のオプションにドロップすることです。

チャイニーズウォール型セキュリティの実装

チャイニーズウォールは、組織の部門間に設定される境界で、異なる部門間の通信を防ぎます。たとえば、投資銀行では、チャイニーズウォールは、投資を決定する従業員と、その決定に影響を与える可能性のある未公表の情報に通じている従業員を分離するためによく使われます。

Compliance Accelerator で同様の境界を構築すると、部門レビューアはすべての Compliance Accelerator レビューアではなく一部の特定の部門レビューアとのみ検索結果を共有できます。たとえば、株式調査部門と投資銀行部門を持つ銀行について考えてみます。株式調査部門の Compliance Accelerator レビューアは、その部門内の他のレビューアやコンプライアンススーパーバイザと情報を共有し、投資銀行部門のレビュー

アとは情報を共有しないようにすることが適切と考えられます。チャイニーズウォールを実装すると、これを実現することができます。

チャイニーズウォール型セキュリティの実装には 2 段階の処理があります。最初にチャイニーズウォールを有効にし、次に部門ユーザーロールを部門内の選択したユーザーに割り当てます。

チャイニーズウォールの有効化

チャイニーズウォール機能は省略可能な機能で、デフォルトでは無効になっています。

設定を変更するには、システム設定修正権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

チャイニーズウォールを有効にする方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[設定値]タブをクリックします。
- 2 利用可能なオプションを表示するために[セキュリティ]セクションを展開します。
- 3 [チャイニーズウォールを部門ユーザーに有効化]行の[値]列でこのオプションを選択します。
- 4 [保存]をクリックします。
- 5 **Compliance Accelerator** サーバーで **Enterprise Vault Accelerator** マネージャサービスを再起動して、変更を適用します。

部門ユーザーの管理

チャイニーズウォールを有効にしたら、部門の他のロールを割り当てるユーザーに、その部門の部門ユーザーロールを割り当てる必要があります。新しい部門またはフォルダのロールを割り当てる際、利用可能なユーザーの一覧には部門ユーザーロールを割り当てるユーザーのみが表示されます。部門ユーザーは部門ごとに定義され、入れ子になった部門に継承されます。

次の表について考えてみます。この表には株式調査 (EQ) と投資銀行 (IB) の 2 つのトップレベルの部門が表示されています。また、これらの各部門には入れ子になった部門 (EQ-EMEA と IB-EMEA) が存在します。EQ-EMEA 部門には、その部門自体の入れ子になった部門 (EQ-EMEA-EUR) が存在します。

表 4-2 部門ユーザーの設定例

部門	部門ユーザー
株式調査 (EQ)	Adam Allen
	Alex Ash

部門	部門ユーザー
株式調査 (EQ) > EQ-EMEA	Bert Bayer
株式調査 (EQ) > EQ-EMEA > EQ-EMEA-EUR	Chloe Chaplin Christina Cartman
投資銀行 (IB)	Edward Edwin
投資銀行 (IB) > IB-EMEA	Frieda Fawkes

この例では、部門 **EQ-EMEA** の管理者は、新しいレビューアを追加するときに **Adam Allen**、**Alex Ash**、**Bert Bayer** のユーザーからのみ選択することができます。他の部門ユーザーは、管理者がレビューアを追加するときに選択することはできません。管理者がチャイニーズウォールを有効にしていない場合、ユーザーが株式調査部門ではなく投資銀行部門に属している場合でも、すべてのユーザーをレビューアとして追加することができます。

部門ユーザーを管理する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、目的の部門をクリックします。
- 3 [部門ユーザー]タブをクリックします。
- 4 [部門ユーザーの追加]をクリックします。
- 5 部門ユーザーロールを割り当てる従業員またはグループの名前をクリックします。
Shift キーを押しながらブロックの最初と最後の名前をクリックすると、隣接した複数の名前を選択できます。隣接していない複数の名前を選択するには、**Ctrl** キーを押しながら目的の名前をクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。

例外従業員の管理

例外とは、部門内の他の従業員ではないレビューアによる監視が必要な従業員を表します。たとえば、上級管理者の通信は機密性が高いため、さらに上級の人間によるレビューが必要な場合があります。このような状況に対処するには、例外状態を管理者に適用し、適切なレビューアを割り当てます。**Compliance Accelerator** では、各例外従業員は部門内の独立部門として処理されます。例外の作成と管理、例外の通信のレビューには、特別な権限が必要です。

メモ: デフォルトでは、送信者または受信者が例外従業員のアイテムは、指名された例外レビューアのレビューセットに制限されません。これらは、部門レビューセットにも表示できます。例外従業員が部門でのレビューロールも持つ場合には、この状況により、例外従業員が自分のアイテムにマーク付けることが可能になります。この動作は、設定オプション[自己レビューの禁止]を設定するとブロックできます。

p.177 の「[レビューの設定オプション](#)」を参照してください。

例外従業員の指定

例外従業員を設定するには、その部門での例外管理権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンススーパーバイザ、ルール管理者、ユーザー管理者のいずれかのロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

従業員を例外従業員として指定するには

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]ペインで、1 人以上の従業員を例外従業員として指定する部門をクリックします。
- 3 [監視対象従業員]タブをクリックします。
- 4 例外として指定する従業員が[監視対象従業員]リストに表示されない場合は、[従業員の追加]をクリックしてリストから従業員を選択します。
- 5 目的の従業員をクリックし、[例外的設定]をクリックします。
- 6 例外従業員に割り当てるために一人以上の例外レビューアを選択します。

Shift キーを押しながら範囲内の最初と最後の名前をクリックすると、隣接した複数の名前を選択できます。隣接していない複数の名前を選択するには、Ctrl キーを押しながら目的の名前をクリックします。
- 7 [OK]をクリックします。

例外従業員へのより多くの例外レビューアの割り当て

従業員を例外従業員として指定する場合は、**Compliance Accelerator** は例外従業員に 1 人以上のレビューアを割り当てるように要求します。ただし、後でより多くの例外レビューアを割り当てることができます。

例外レビューアを割り当てるには、その部門での例外管理権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンススーパーバイザ、ルール管理者、ユーザー管理者のいずれかのロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

例外従業員により多くの例外レビューアを割り当てる方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、例外従業員を含んでいる部門をクリックします。

- 3 [監視対象従業員]タブをクリックします。
- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - 監視対象従業員のリストで、例外従業員をクリックし、[例外レビューアの追加]をクリックします。一覧で 1 人以上の例外レビューアを選択し、[OK]をクリックします。
Shift キーを押しながら範囲内の最初と最後の名前をクリックすると、隣接した複数の名前を選択できます。隣接していない複数の名前を選択するには、Ctrl キーを押しながら目的の名前をクリックします。
 - 左の[ユーザー]のリストから例外レビューアをドラッグし、監視対象従業員のリストの例外従業員にドロップします。[追加]をクリックします。

例外レビューアを例外従業員の唯一のレビューアとして割り当てる方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[部門]タブをクリックし、次に[監視対象従業員]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、例外従業員を含んでいる部門をクリックします。
- 3 左の[ユーザー]タブをクリックし、前部にそれを持って来ます。
- 4 監視対象従業員のリストから例外従業員をドラッグし、[ユーザー]のリストの目的のレビューアにドロップします。
- 5 [作成]をクリックして、選択したレビューアまたはグループを例外従業員の単独レビューアにすることを確定します。

Compliance Accelerator は以前に例外従業員に割り当てた他のレビューアも削除します。

例外従業員の別の部門への移動

例外従業員を部門間で移動するには、両方の部門で次の権限が必要です。

- 監視対象従業員追加
- 例外管理
- ユーザーアクセス付与

デフォルトでは、部門のユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

例外従業員を別の部門に移動する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、例外従業員を含んでいる部門をクリックします。
- 3 [監視対象従業員]タブをクリックします。

- 4 監視対象従業員のリストから例外をドラッグし、左の[部門]のリストの移動先部門にドロップします。
- 5 例外の古い部門のレビューアがその部門のレビューセットにアクセスすることを許可するかどうか選択します。レビューセットに例外のための未レビューのメッセージが含まれれば、レビューアがレビューセットにアクセスすることを許可する場合があります。
レビュー対象のメッセージが存在する場合、新しい部門では、例外従業員に対する別のレビューセットのリンクが表示されます。

例外状態の解除

従業員を例外として監視する必要がなくなった場合は、例外状態を解除できます。これにより、対象の従業員は通常の監視対象従業員となり、**Compliance Accelerator** はこれらの従業員の通信を通常の方式でキャプチャします。ただし、従業員が例外状態であった期間に **Compliance Accelerator** がキャプチャしたアイテムは、例外レビューセットに保持されます。

従業員の例外状態を解除するには、その部門での例外管理権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンススーパーバイザ、ルール管理者、ユーザー管理者のいずれかのロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

従業員の例外状態を解除する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、例外従業員を含んでいる部門をクリックします。
- 3 [監視対象従業員]タブをクリックします。
- 4 例外従業員をクリックし、[例外状態の削除]をクリックします。
- 5 [削除]をクリックして、従業員の例外状態と指定された例外レビューアを解除することを確定します。
- 6 未レビューの例外従業員のメッセージが存在する場合は、レビューアがそのレビューセットで作業を継続できるかどうかを選択します。

例外レビューアの割り当て解除

ロールをもう実行する必要がないとき従業員から例外レビューアのロールを解除できます。例外従業員に対して割り当てられているレビューアが 1 人のみの場合、例外状態がアクティブである間はこのレビューアの割り当てを解除できません。レビューアを解除する前に従業員から例外状態を解除します。

例外レビューアを解除するには、その部門での例外管理権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンススーパーバイザ、ルール管理者、ユーザー管理者のいずれかのロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

例外レビューアの割り当てを解除する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、例外従業員を含んでいる部門をクリックします。
- 3 [監視対象従業員]タブをクリックします。
- 4 例外従業員の下で例外レビューアのリストを展開します。
- 5 解除するレビューアをクリックし、[削除]をクリックします。
- 6 [削除]をクリックして、例外レビューアを解除することを確定します。

パーティションへの部門のグループ化

部門をパーティションにグループ化して、検索範囲を制限できます。たとえば、この機能は、部門のアイテムのうち特定の他の部門との間で送受信されたアイテムのみを検索する場合などに便利です。

部門パーティションを定義しない場合は、ある部門で開始する検索に、他の部門の従業員のアイテムを含めることができます。パーティションを定義した場合は、同じパーティション内の部門の監視対象従業員が送受信したアイテムしか検索できません。

また、XML 設定ファイルで詳細を指定することによって部門パーティションを作成できます。次に、**Compliance Accelerator** データベースにこのファイルをインポートできます。

p.195 の「[設定データのインポート](#)」を参照してください。

部門パーティションの作成

パーティションを作成するには、部門パーティション管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

部門パーティションを作成する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの「設定」タブをクリックし、次に「部門パーティション」タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの先頭で「新規作成」をクリックします。
「パーティションの詳細」ペインが表示されます。

パーティションの詳細

名前:

説明:

このパーティションの部門:

部門

追加... 削除

保存 キャンセル

- 3 パーティションの名前と説明を入力します。
- 4 「追加」をクリックし、パーティションに追加する部門を選択します。
- 5 「保存」をクリックします。

属性を使った部門の分類

Compliance Accelerator の部門のプロパティを定義する場合、必要に応じて追加の識別情報属性を割り当てることができます。たとえば部門の半数がアメリカにあり、残り半数がヨーロッパにあるとします。利用可能な属性の 1 つである **Country** を使うと、部門が存

在する国を指定できます。部門のプロパティを定義するときにこの属性値を設定することによって、部門にコンテキストが提供され、その管理が若干容易になります。

また **XML** の設定ファイルで詳細を指定することによって部門属性と値を追加できます。次に、**Compliance Accelerator** データベースにこのファイルをインポートできます。

部門属性の設定

標準の **Compliance Accelerator** システムでは、部門に適用できる国、市、部署の属性が用意されています。これらの属性の名前を変更したり、属性を部門に割り当てる際に部門管理者が選択可能な値を指定したりすることができます。

各属性のプロパティを表示するには、システム設定表示権限が必要です。また、各属性のプロパティを変更するには、システム設定修正権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのコンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーにこれらの権限が割り当てられます。

部門属性を設定する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[部門属性]タブをクリックします。

[部門属性]ペインが表示されます。

- 2 左ペインで、設定する属性の名前をクリックします。
- 3 右ペインで、属性の名前と、必要に応じて説明を入力します。
名前には次の文字を使えません。
* ? < > |
- 4 部門のプロパティを定義するときに属性を選択できるようにする場合は、[表示]を選択します。
- 5 事前定義済みのリストから選択する代わりに属性にユーザーが直接値を入力できるようにする場合は、[任意のテキスト値の入力を許可]を選択します。

- 6 部門が入れ子になっている場合、親部門に割り当てられた属性値を変更する場合に子部門で必要な処理を選択します。オプションは次のとおりです。

何もしない	関連付けられた子部門に割り当てられた値は変更されません。
設定されていない場合は子部門に値をコピー	属性の値が設定されていない子部門に対してのみ、同じ値が設定されます。
すべての子部門の値を上書き	属性の値にかかわらず、すべての子部門に対して同じ値が設定されます。

- 7 部門プロパティのページの属性を設定したときユーザーが選択できる値を変更する場合は、次をします。

- 新しい値を追加するには、[新規作成]をクリックし、目的の名前と説明を入力します。
- 既存の値を編集するには、それをクリックし、[編集]をクリックします。**Compliance Accelerator** によって、値を割り当てた部門のプロパティが自動的に更新されます。
- 既存の値を削除するには、それをクリックし、[削除]をクリックします。**Compliance Accelerator** によって、値を割り当てた部門のプロパティから自動的に値が削除されます。

- 8 [保存]をクリックします。

部門への属性の割り当て

部門のプロパティを設定する処理の一環として、最大で 3 つの属性を割り当てることができます。

属性を部門に割り当てるには、部門プロパティ設定権限が必要です。デフォルトでは、部門のユーザー管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

属性を部門に割り当てる方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]ペインで、1 つ以上の属性を割り当てたい部門をクリックします。
- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 プロパティペインの[全般]タブで、[識別情報属性]セクションの必須値を入力します。
- 5 [保存]をクリックします。

アイテムの検索

この章では以下の項目について説明しています。

- [Compliance Accelerator](#) を使った検索について
- [Compliance Accelerator](#) 検索の作成と実行
- 検索基準オプションについて
- 効果的な検索の実行に関するガイドライン
- [Compliance Accelerator](#) 検索の一時停止と再開
- [検索の監視]タブについて
- 例外従業員のアイテムの検索
- 検索対象のアーカイブの選択
- [Compliance Accelerator](#) 検索スケジュールの作成
- 検索するホットワードの定義
- [Compliance Accelerator](#) の電子メールアドレス処理の設定
- [Compliance Accelerator](#) を使ってアーカイブされた [Skype for Business](#) コンテンツの検索

Compliance Accelerator を使った検索について

アイテムのランダムサンプリングの代わりに、ある特定の基準を満たすアイテムを検索し、レビューセットに追加できます。[Compliance Accelerator](#) で単一の部門でのみ実行する検索または複数の部門で実行するアプリケーションレベルの検索を作成できます。この処理には次のものが含まれます。

- 関連するボルトストアでの 1 回以上の検索実行による適した情報の検索。Compliance Accelerator では、検索対象の単語とフレーズ、日付範囲、メッセージのサイズ、作成者と受信者のアドレスなどの選択可能なさまざまな検索基準が用意されています。
- 検索結果の適合性評価と、結果の受け入れまたは拒否。
- 必要なすべての情報を収集するまで、検索の反復。

満足のいく検索結果が得られたら、検出したアイテムのレビューに進みます。

設定時刻に検索を実行したり、自動的に実行する反復検索を設定したりする場合には、検索スケジュールを作成できます。また、Compliance Accelerator でアイテムを検索する Enterprise Vault アーカイブの一覧をカスタマイズできます。

従業員の通信で特定の単語のインスタンスの有無を検索する場合はパスワードとしてそれらを格納できます。次に検索のための基準を定義するとき、リストからパスワードを選択できます。

特定の種類の Skype for Business コンテンツの検索の制限事項

Enterprise Vault 12.2 以降には、Skype for Business インスタントメッセージと会議の通信をアーカイブする機能があります。Enterprise Vault はこの通信を個別の電子メール (.eml) ファイルとしてアーカイブします。これは、Compliance Accelerator で Instant Messaging メッセージタイプになります。

Skype for Business の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、Enterprise Vault がインデックスを作成できない Microsoft 社独自の XML フォーマットで保存されます。したがって、Enterprise Vault または Compliance Accelerator でこの機能を使ってこれらのアイテムのテキストコンテンツを検索できません。

Compliance Accelerator 検索の作成と実行

単一の部門でのみ実行する検索または複数の部門で実行するアプリケーションレベルの検索を作成できます。設定時刻に検索を実行したり、反復検索を設定したりする場合には、検索スケジュールを作成できます。検索を作成する前にスケジュールを作成します。

単一の部門でのみ実行する検索を作成するには、キャプチャメッセージ検索権限が必要です。アプリケーションレベルの検索を作成するには、アプリケーション検索権限が必要です。デフォルトでは、部門のルール管理者ロールまたは例外レビューアロールを持つユーザーに前者の権限が割り当てられます。アプリケーションのアプリケーションユーザー管理者ロールを持つユーザーに後者の権限が割り当てられます。

Compliance Accelerator 検索を作成して実行する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。

- 複数の部門で実行する検索を作成するには、Compliance Accelerator クライアントの[アプリケーション]タブをクリックします。
- 単一の部門で実行する検索を作成するには、Compliance Accelerator クライアントの[部門]タブをクリックし、次に左ペインで目的の部門をクリックします。
- リサーチフォルダで実行する検索を作成するには、Compliance Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックし、次に左ペインで目的のフォルダをクリックします。

Compliance Accelerator によって大量の部門やフォルダが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。

- 2 [検索]タブをクリックします。
- 3 [新規検索]をクリックします。

検索のプロパティペインが表示されます。

- 4 リサーチフォルダで実行する検索を作成していて、左ペインで[すべてのリサーチ]をクリックした場合、Compliance Accelerator は検索に関連付ける部門を選択するように要求します。選択し、[検索]をクリックします。
- 5 目的の検索基準を入力します。
p.71 の「[検索基準オプションについて](#)」を参照してください。

- 6 [保存]をクリックしてすぐに検索を開始するか、またはスケジュール設定済みの検索をキューに登録して決められた時刻に自動的に開始します。

[検索の詳細]ペインは次の情報を提供します。

アーカイブ	Compliance Accelerator によって検索されたアーカイブの名前を示します。
ボリューム	アーカイブを保持するボリュームの ID を表示します。
ボルトストア	アーカイブを含んでいるボルトストアの種類を示します。
状態	各アーカイブの検索の現在の状態を示します。
期間	各アーカイブを検索するために Compliance Accelerator がかけた時間を示します。
ヒット	検索基準に一致する、各アーカイブのアイテム数を示します。
情報	起きたエラーの詳細を提供します。

[表示]一覧のオプションを選択すると、アーカイブ一覧をフィルタ処理できます。たとえば、ヒット数が上位 2000 のアーカイブ、または状態が[エラー]のすべてのアーカイブを表示するようにアーカイブをフィルタ処理することができます。検索の詳細をカンマ区切り値 (CSV) ファイルとしてダウンロードするには、[すべてのアーカイブの検索の詳細をダウンロードする]をクリックします。

- 7 検索が完了したときに、結果の受け入れまたは拒否を選択できます。次の点に注意してください。
- Compliance Accelerator では、検索結果が受け入れられるまでレビューセットにキャプチャしたアイテムは追加されません。[検索結果を自動的に受け入れる]を選択しなかった場合は、結果を手動で受け入れるか、または拒否する必要があります。
 - 検索結果を拒否すると、Compliance Accelerator によってその検索とデータベースからの結果が削除されます。ただし、実際のアイテムはアーカイブに残ります。
 - 受け入れた検索は取り消すことができないため、検索結果は有効な結果であることが重要です。

検索基準オプションについて

Compliance Accelerator は検索基準オプションを次に示す複数のセクションにグループ化します。セクションを展開するか、または省略するには、右の矢印のアイコンをクリックします。

複数のオプションを含む検索を構築する場合、検索のプロパティペインで各オプションが他の検索オプションとどのように対話するかに注意してください。Compliance Accelerator は選択したすべてのオプションを、OR ブール演算子ではなく AND ブール演算子でリンクします。たとえば、条件に次のものが含まれている検索を構築するとします。

- [日付範囲]セクションの日付範囲
- [検索語]セクションの検索用語
- [添付ファイル]セクションのファイル拡張子

この検索結果には、すべての検索基準に一致するアイテムのみが含まれます。Compliance Accelerator では、検索基準の一部のオプションに一致しても、他のオプションには一致しないアイテムは無視されます。

[検索プロパティ]ペインには次のセクションがあります。

- 「[検索]セクション」
- 「[サンプリング]セクション」
- 「[日付範囲]セクション」
- 「[作成者と受信者]セクション」
- 「[検索語]セクション」
- 「[添付ファイル]セクション」
- 「[その他]セクション」
- 「[ポリシー]セクション」
- 「[インテリジェントレビュー]セクション」

[検索]セクション

この[検索]セクションでは、検索の名前と実行時刻を指定します。

コンテキスト	検索を実行する部門またはリサーチフォルダを指定します。アプリケーション全体の検索の場合、これは <すべての部門> です。
名前	検索の名前を指定します（「Daily Message Capture (London)」など）。
検索に基づく	新しい検索のための基準を設定する基礎となる既存の検索を選択することを許可します。

結果の保存先	<p>表示されている場合は、結果を保存する場所を選択できます。結果を保存する新しいフォルダの詳細情報を指定する場合はドロップダウンリストで[<コンテキスト>の新規フォルダ]を選択します。</p> <p>このオプションは、部門にリンクされないフォルダの検索を作成する(左ペインで「マイリサーチ」を選択している)場合にのみ利用可能です。</p>
検索の種類	<p>検索をすぐに実行するか、スケジュール設定済みの時刻に実行するかを指定します。[スケジュール設定済み]を選択すれば、検索が動作する期間を指定できます。またいくつかの既存のスケジュールの 1 つから選択できます。</p> <p>p.87 の「Compliance Accelerator 検索スケジュールの作成」を参照してください。</p> <p>また保証されたサンプル検索を行うことができます。各々の保証されたサンプル検索は、選択されたサンプリング時刻(デフォルトでは午前 1 時)に動作します。検索が監視ポリシーの要求より少数の結果を戻す場合、Compliance Accelerator は不足分を埋め合わせるためにランダムにサンプリングされたアイテムをレビューセットに追加します。したがって、事実上、まったくランダムにサンプリングされたアイテムの代わりに、特定の検索結果の方に重み付けされたより焦点が絞られたレビューセットを作成できます。</p>
検索結果を自動的に受け入れる	<p>検索結果をレビューセットに自動的に追加するかどうかを指定します。このオプションは過去に実行済みの検索を定期的に行う場合に便利です。[検索結果を自動的に受け入れる]を選択した場合、結果を拒否したり、検索基準を変更したりすることはできません。検索で予想した検索結果が得られることを確認するまで、[検索結果を自動的に受け入れる]をクリアしておくことをお勧めします。</p> <p>アーカイブからエラーが返された検索は、この設定にかかわらず、自動的に受け入れられません。</p>
レビュー中の既存のアイテムを含める	<p>検索結果に、以前にキャプチャし、レビューセットに追加したアイテムを含めることができるかどうかを指定します。即時検索またはスケジュール設定済みの検索の場合、他の検索でレビュー中の可能性があるアイテムが結果に含まれるように、このボックスを選択することをお勧めします。</p>

[サンプリング]セクション

[サンプリング]セクションでは、検索結果をサンプリングして、ランダムに選択したアイテムをレビューセットに追加することができます。

Compliance Accelerator はランダムにサンプリングされたアイテムを重複排除しません。

サンプリングの割合	<p>レビューセットに追加する検索結果の割合を指定します。「10.25」などのように小数点以下の値を指定することもできます。</p> <p>部門の所有者が部門プロパティのこの設定をロックするとサンプリング割合を変更できない場合があります。</p>
作成者ごとの最小値	<p>作成者 1 人あたりの、レビューセットに追加するアイテムの最小件数を指定します。ある作成者のアイテムが検索結果にない場合、サンプルには追加されません。選択した部門に属していない作成者も対象となるため、予想よりも多くの検索結果が戻される場合があります。</p>
絶対限度	<p>レビューセットに追加する検索結果の総件数の上限を設定します。このオプションは、[サンプルの割合]フィールドと[従業員ごとの最小値]フィールドの値に優先して適用されます。</p>

[日付範囲]セクション

[日付範囲]セクションでは、アイテムが送受信された日時を基準にアイテムを検索できます。

<p>今日、昨日、最新 7 日間、最新 14 日間、最新 28 日間</p>	<p>選択した期間に送受信されたアイテムのみを検索します。日付範囲は検索が行われる時点(即時検索の場合は当日)を基準にした相対的な範囲です。</p> <p>これらのオプションは、毎日、毎週、2 週間ごと、4 週間ごとに 1 回実行するようにスケジュール設定された反復検索を作成する場合に便利です。たとえば、週に 1 回検索を実行する場合は、[最新 7 日間]を選択すると、検索範囲は前回検索を実行した後の日付に限定されます。</p>
<p>特定の日付範囲</p>	<p>他の日付範囲オプションで指定できる期間よりも長い期間またはより限定された期間に送受信されたアイテムを検索できます。日付を入力するには、[開始日]フィールドと[終了日]フィールドの右側にあるオプションをクリックし、次に目的の日付を選択します。他の日付範囲フィールドとは異なり、[特定の日付範囲]では範囲が固定されています。検索実行時を基準にした相対的な範囲ではありません。</p>
<p>検索の最終実行以降</p>	<p>スケジュール設定済みの検索でのみ、前回の検索実行より後に送受信された新規アイテムを検索できます。このオプションは[今日]や[昨日]などのオプションに類似しています。ただし、それは検索を最初に実行する開始日を明示的に設定できます。</p> <p>デフォルトでは、このオプションを選択すると、前回の検索が実行された日付(初回の検索の場合は開始日)から現在の日付の 1 日前(昨日)までの範囲が検索対象となります。</p>

[作成者と受信者]セクション

[作成者と受信者]セクションでは、検索対象の部門と、検索対象のアイテム方向を指定します。パーティションに整理した部門では、同じパーティションの部門で送受信したアイテムのみが検索されます。

メッセージルート

検索するアイテムが送受信された方向を指定します。選択した部門が送信先または送信元であるアイテムを検索できます。また、選択した部門と他の部門との間で送受信されたアイテムを検索できます。

利用可能なメッセージルートオプションは、指定した日付範囲と、**Compliance Accelerator** がどのように設定されているかによって異なる場合があります。

いずれか/すべて

選択した部門と従業員のいずれかまたはすべてに検索を適用するかどうかを指定します。

継承を使って新しい部門を自動的に含める

アプリケーション全体の検索の場合のみ、選択した部門の子部門に検索を適用するかどうかを指定できます。デフォルトでは、他部門の子部門であるすべての新規部門は、親部門に適用されているすべてのアクティブな反復検索を自動的に継承します。また、反復検索が適用されている部門の下位に既存の部門を移動した場合も同様です。

部門ツリー

検索に含める部門と従業員を指定します。部門名の左側にある矢印をクリックして展開し、入れ子になった部門と例外従業員を表示します。

部門を選択しても、部門の例外従業員は自動的に検索対象とはなりません。例外従業員を検索するには、例外従業員を 1 人ずつ明示的に選択する必要があります。

任意の形式の電子メールアドレス/ドメイン

1 つ以上の電子メールアドレスとドメインを入力できます。1 行に各アドレスまたはドメインを入力すると、[差出人]、[宛先]、[CC]、[BCC]フィールドにそのアドレスまたはドメインのいずれかを含むアイテムが検索されます。すべてのアドレスとドメインを 1 行で入力すると、それらがすべて存在するアイテムが検索されます。

アドレスまたはドメインの前にマイナス記号 (-) を配置すると、検索から除外されます。複数のアドレスまたはドメインを除外するには、それらをすべて 1 行で入力します。

メッセージルートによっては、このフィールドを利用できない場合があります。

[検索語]セクション

[検索語]セクションでは、**Compliance Accelerator** がアイテムの件名と本文で検索する単語またはフレーズを指定します。デフォルトでは、アイテムの件名と内容の両方で単語

を検索するとき、**Compliance Accelerator** は 1 つの基準または両方の基準に一致するアイテムを検索します。ただし、両方の基準に一致するアイテムのみを検索するように **Compliance Accelerator** を設定できます。

件名	指定した単語またはフレーズの一部または全部が、件名行または添付ファイルのファイル名に含まれているアイテムを検索します。
内容	指定した単語またはフレーズの一部または全部がアイテム本文や検索可能な添付ファイルに含まれているアイテムを検索します。

ここで指定した単語またはフレーズは、アイテムの検索結果の確認時にレビューペインでハイライトされます。

検索する単語とフレーズを入力する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- **Compliance Accelerator** の検索は、大文字と小文字を区別しません。
- 正規表現は許可されません。
- 同じ行に複数の単語を入力した場合、**Compliance Accelerator** ではフレーズとして処理されます。
- **[Any of]** オプションまたは **[All of]** オプションを使用して検索基準を絞り込む場合は、各単語をそれぞれ別の行に入力します。

次の例では、**Compliance Accelerator** によって 3 つの単語が **OR** 演算子で結合されます (**「server OR group OR cluster」**)。これらの単語の 1 つ以上を含むすべてのアイテムが検索基準と一致します。

```
Any Of: server
        group
        cluster
```

次の例では、**Compliance Accelerator** によって 3 つの単語が **AND** 演算子で結合されます (**「server AND group AND cluster」**)。この 3 つの単語をすべて含むアイテムのみが検索基準と一致します。

```
All Of: server
        group
        cluster
```

次の例では、**Compliance Accelerator** によって **「server group」** というフレーズと **「cluster」** という単語が **AND** 演算子で結合されます (**「server group' AND cluster」**)。 **「server group」** というフレーズと **「cluster」** という単語の両方を含むアイテムのみが検索基準と一致します。

```
All Of: server group
        cluster
```

- 検索では、アスタリスク(*)を使って 0 文字以上の文字を表すことができます。疑問符(?)をワイルドカードとして使用する場合は、任意の 1 文字を表します。
ワイルドカードでの検索は、検索基準に一致し、Enterprise ボルト 10.0 以降でアーカイブされたアイテムならば、常に検索されます。Enterprise Vault 9.0 以前でアーカイブしたアイテムも検索結果に含まれるようにするには、ワイルドカードの前にワイルドカードではない文字を 3 つ以上入力します。
- 検索結果から次の単語またはフレーズを含んでいるすべてのアイテムを除外することを指定するには、行の先頭にマイナス記号(-)を配置します。たとえば、次の検索語では、「server」と「group」のいずれかを含むが、「cluster」は含まないアイテムが検索されます(「(server AND NOT cluster) OR (group AND NOT cluster)」)。

```
Any Of: server
        group
        -cluster
```

検索語は、除外済みの語句のみで構成することができません。このような単語またはフレーズを指定するときには、検索結果に表示する検索対象な語句も指定する必要があります。

- ホットワードとフレーズが作成されている場合は、[ホットワード]をクリックし、ホットワードまたはフレーズを一覧から選択します。
p.90 の「[検索するホットワードの定義](#)」を参照してください。
- Compliance Accelerator は、プラス記号、マイナス記号、疑問符など、特別な意味がある場合を除いて、検索語の英数字以外の文字を無視します。
たとえば、US@100 という用語の検索は、US@100 だけではなく US 100 と US\$100 のインスタンスも検索します。したがって、検索語に英数字以外の文字を含めると、予想よりも多くの結果が戻される場合があります。

[添付ファイル]セクション

[添付ファイル]セクションでは、指定した数または種類の添付ファイルを含むアイテムを検索できます。

番号

対象となる添付ファイル数を指定します。デフォルトオプション[重要ではない]の場合、0を含む任意の数の添付ファイルを含むアイテムが検索対象となります。その他のオプションを選択する場合、対象となる添付ファイル数を指定する値を 1 つまたは 2 つ入力する必要があります。

ファイル拡張子

検索対象となる添付ファイルの種類を表す拡張子を指定します。各拡張子はスペースで区切って入力します。たとえば、HTML ファイルまたは Microsoft Excel ファイルが添付されているアイテムを検索する場合は、次のように入力します。

.htm .xls

この検索オプションでは、ファイル名のみによって添付ファイルが評価されます。ファイルの種類は確認されません。たとえば、.zip ファイルの拡張子を .zap に変更し、名前を変更したファイルを電子メールの添付ファイルとして送信するとします。Compliance Accelerator は .zip 拡張子の付いた添付ファイルを含むアイテムのみを検索し、名前の変更された添付ファイルを含む電子メールは検索しません。

添付ファイルの内容によっては、Enterprise Vault でインデックス付けしていないために検索できない場合もあります。特に、Fax や音声のようなファイル形式には、インデックス付けできる内容がありません。

Enterprise Vault の一部のレジストリエントリでは、選択したファイルタイプの内容をインデックス付けできません。たとえば、ExcludedFileTypesFromConversion エントリの場合がそれに該当します。詳しくは『レジストリ値』ガイドを参照してください。

Compliance Accelerator でファイル名拡張子を指定した検索を実行する方法について詳しくは、Veritas サポート Web サイトの以下の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100008537>

[その他]セクション

[その他]セクションでは、特定のサイズまたは種類のアイテム、特定の保持カテゴリのアイテムを検索できます。

メッセージサイズ

メッセージストア (Exchange、Domino など) が報告するように、検索する各アイテムのサイズを KB 単位で指定します。アイテムのサイズには添付ファイルのサイズも含まれます。

メッセージの種類

選択した種類のアイテムを検索します。

保持カテゴリ

Enterprise Vault が選択済みの保持カテゴリを割り当てたアイテムを検索します。

[ポリシー]セクション

[ポリシー]セクションでは、任意のポリシー管理ソフトウェアが分類に使ったタグに従ってアイテムを検索できます。

ポリシー

ある特定の分類のポリシーと一致するアイテムの有無を検索できます。複数の種類のポリシーがあります。

- [含める]。ポリシー管理ソフトウェアでレビューセットに含まれるように分類され、最も深刻な非行(ののしり、人種差別、インサイダー取引など)である可能性のあるアイテムです。通常、これらの機能を示すアイテムがレビューセットに含まれるようにすると便利です。
- [除外]。スパムアイテムとニュースレターは、ポリシー管理ソフトウェアがレビューセットから除外するように分類することがあるアイテムの典型的な例です。
- [分類]。ポリシー管理ソフトウェアは、スペイン語のテキストを含むなど特定の性質を表わすアイテムをカテゴリに分類する場合があります。この種類のポリシーは、アイテムをレビューセットに含めるか、またはレビューセットから除外するかの情報を提供しません。

これらのポリシーの種類は相互に排他的ではありません。ポリシー管理ソフトウェアは、同じアイテムに種類が異なる複数のポリシーを適用する場合があります。ただし、含まれるポリシーが他の種類のポリシーに常に優先します。

必須のポリシーの種類を選択し、検索するポリシーの名前を選択します。または、ポリシーの種類として[カスタム]を選択し、1 つ以上のポリシー名を入力します。次のように、複数のポリシー名をカンマで区切ります。

CustomPolicy1,CustomPolicy2

複数のポリシーの検索を選択すると、検索結果にはいずれかのポリシーに一致するアイテムが含まれます。

現在の部門によるフィルタポリシー リストから現在の部門で使用中にはないポリシーを省略できます。

[インテリジェントレビュー]セクション

[インテリジェントレビュー]セクションで、**Compliance Accelerator** の学習エンジンのオプションを選択します。このエンジンにより、**Compliance Accelerator** はレビューアが以前のアイテムに実行したアクションに基づいてアイテムの検索をインテリジェントに行うことができます。たとえば、レビューアがスパムメッセージまたはオフィス不在の応答を関連なしのアイテムとしてマークを付けると、**Compliance Accelerator** は同様の特性を持つアイテムを検出したときにそれらのアイテムを同じ方法で処理できます。

次の点に注意してください。

- インテリジェントレビュー機能を使う検索では、それを使わない検索に比べ、完了するまでに少し長く時間がかかる場合があります。

- リサーチフォルダ内で実行する検索では、関連部門の学習データが使われます。フォルダ検索には独自の学習データがないため、部門の学習データに貢献することはありません。

Compliance Accelerator はアイテムの関連性を判別するためにアイテムのメタデータと送信者から受信者への経路を調べます。ただし、**Compliance Accelerator** はアイテムの内容を評価しません。

学習動作

オプションは次のとおりです。

- [なし]。 **Compliance Accelerator** は、インテリジェントレビューを実装せずに、通常の方法でアイテムを検索します。これがデフォルトのオプションです。
- 検索と優先順位付け **Compliance Accelerator** は、いずれかを優先することなく、関連ありと関連なしの両方のアイテムを検索します。したがって、**10%** のアイテムをキャプチャし、レビューすることを要求する[サンプルの割合]値を選択すると、**Compliance Accelerator** は **10%** をキャプチャしますが、相当な数のアイテムが関連なしとなる可能性があります。
しかし、このオプションを使うと、**Compliance Accelerator** はアイテムをレビューセットに追加するときにそのアイテムに対して[未レビュー (関連なし)]または[未レビュー (関連あり)]のいずれかのステータスを付与します。後で[レビュー]ペインでアイテムをレビューするときに、[未レビュー]ステータスを使ってアイテムをフィルタリングして、関連ありと関連なしを区別できます。
- 検索して関連するコンテンツのみをサンプリングする
Compliance Accelerator は、アイテム全体を検索し、要求された割合をキャプチャするまで関連ありのアイテムのみをキャプチャします。したがって、**10%** のアイテムをキャプチャし、レビューすることを要求する[サンプルの割合]値を選択すると、**Compliance Accelerator** は **10%** (すべて関連ありのアイテム) をキャプチャします。
選択したサンプルの割合を満たすには関連ありのアイテムが少なすぎる場合、**Compliance Accelerator** は関連なしのアイテムで補充します。これは、このオプションと[部門プロパティ]ペインのそれに相当するオプションである[関連するコンテンツのみのサンプル抽出]との重要な違いです。
p.43 の「[部門の作成](#)」を参照してください。

効果的な検索の実行に関するガイドライン

検索の実行時に最適な結果を得るには、次のガイドラインに従ってください。

- 正確な検索を行います。たとえば、作成者または受信者の詳細を含めたり、日付範囲を指定したりします。

- 部門のプロパティで、検索可能なボルトストアの数を制限します。
- ワイルドカードはパフォーマンスに重大な影響を及ぼす可能性があるため、必要な場合にのみ使います。
- 検索語は使い過ぎないようにします。数千もの用語を使うと、検索が繰り返して実行される可能性があります。
- スケジュール設定済みの検索がシステムバックアップと同時に実行されないことを確認します。
- データベースの空きがなくなったり速度が低下したりするのを回避するために、検索は迅速に受け入れるか、拒否します。
- リサーチフォルダで新しい検索をテストし、その後、必要に応じてフォルダを削除します。

Compliance Accelerator 検索の一時停止と再開

必要な権限レベルがある場合、すべての Compliance Accelerator の検索の状態を監視し、必要に応じて検索を一時停止または再開することができます。これは、検索が関連付けられている部門に通常はアクセス権がない場合にも該当します。ただし、通常のアクセス権限がなければ、検索基準または検索結果を表示できません。

検索を一時停止または再開するには、検索監視権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

検索を一時停止または再開する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[監視]タブをクリックします。
- 2 次の 1 つ以上の操作をします。
 - 検索の詳細な状態情報を表示するには、検索名をクリックします。
 - 1 つ以上の検索を一時停止または再送信するには、目的の検索を選択し、[一時停止]または[再送信]をクリックします。

メモ: 広範囲の日付または大量のアーカイブに対して実行している検索を一時停止する場合、Compliance Accelerator では検索を停止するまでに少々時間がかかることがあります。

[検索の監視]タブについて

[検索の監視]タブは、行った検索の状態を示します。まだ進行中の検索を停止、一時停止できます。また、失敗した検索を再送信できます。表 5-1 に示すとおり、このタブにアクセスする方法は複数あります。

表 5-1 [検索の監視]タブにアクセスする方法

表示対象	操作
すべての部門で実行されている検索	Compliance Accelerator クライアントの[監視]タブをクリックします。
1 つの部門でのみ実行されている検索	1 Compliance Accelerator クライアントの[部門]タブをクリックします。 2 左ペインで目的の部門をクリックします。 3 [検索]をクリックします。
1 つ以上のリサーチフォルダで実行されている検索。	1 Compliance Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。 2 左ペインで目的のリサーチフォルダをクリックするか、[すべてのリサーチ]をクリックしてすべてのフォルダの検索の状態を表示します。 3 [検索]をクリックします。

[検索の監視]タブは 3 つのペインに分けられます。

- 先頭のフィルタペインは、名前、状態、日付と種類で検索をフィルタ処理することを可能にします。必要なフィルタオプションを選択し、次に右の[フィルタの適用]ボタンをクリックします。フィルタオプションをクリアするにはボタンを再びクリックします。
- 中央のペインは、選択したフィルタオプションと一致する検索をリストします。このペインに表示される情報は、[検索の監視]タブに表示されている内容によって異なります。

名前	検索を表します。
部門/フォルダ	表示されている場合は、検索が実行された部門またはフォルダを表します。
提出者	検索を送信した人を識別します。
実行日	検索が開始した日時を示します。
ヒット	検索基準に一致するアイテム数を示します。

サンプリング対象	保証されたサンプル検索の場合のみ、 Compliance Accelerator が不足分を埋め合わせるために検索結果に追加した、ランダムにサンプリングされたアイテムの数を示します。これは、検索が監視ポリシーの要求より少数の結果を戻す場合に必要です。
関連するサンプリング対象	Compliance Accelerator のインテリジェントなレビュー機能で関連があると識別されたアイテムの数を示します。
重複	Compliance Accelerator が重複として識別したアイテムの数を示します。
対象アーカイブ	Compliance Accelerator が検索したアーカイブの数を示します。
状態	検索の状態を示します。
検索の種類	検索の種類を示します。
Enabled	表示されている場合は、スケジュール設定済みの検索と保証されたサンプル検索が現在有効になっていることを示します。検索が有効になっていない場合、実行されません。

- 中央のペインで検索をクリックすると、下のペインは次の情報を提供します。

アーカイブ	Compliance Accelerator によって検索されたアーカイブの名前を示します。
インデックスボリューム ID	アーカイブを保持するボリュームの ID を表示します。
ボルトストア	アーカイブを含んでいるボルトストアの種類を示します。
状態	各アーカイブの検索の現在の状態を示します。
期間	各アーカイブを検索するために Compliance Accelerator がかけた時間を示します。
ヒット	検索基準に一致する、各アーカイブのアイテム数を示します。
情報	起きたエラーの詳細を提供します。

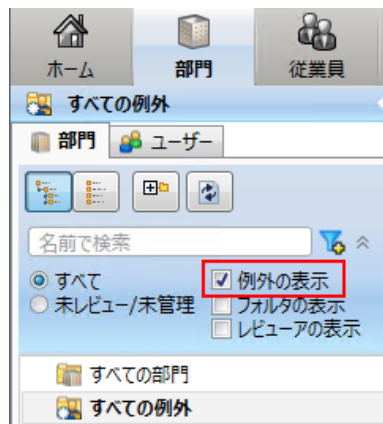
[表示]一覧のオプションを選択すると、アーカイブ一覧をフィルタ処理できます。たとえば、ヒット数が上位 2000 のアーカイブ、または状態が[エラー]のすべてのアーカイブを表示するようにアーカイブをフィルタ処理することができます。検索の詳細をカンマ区切り値 (CSV) ファイルとしてダウンロードするには、[すべてのアーカイブの検索の詳細をダウンロードする]をクリックします。

例外従業員のアイテムの検索

複数の部門に対するアプリケーション検索を作成する場合、明示的に指示しなければ、Compliance Accelerator はそれらの部門の例外従業員を検索しません。別の方法で例外従業員のアイテムを検索する場合は、次の手順に従ってください。

例外従業員のアイテムを検索する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、フィルタのオプション[例外の表示]を選択します。



- 3 検索するアイテムがある例外従業員の名前をクリックします。
- 4 [検索]タブをクリックします。
- 5 通常の方法で新しい検索を作成し、結果を受け入れます。

Compliance Accelerator によって、受け入れた結果が例外従業員のレビューセット内に格納されます。このレビューセットは、部門の残りの従業員のレビューセットとは区別されています。このセットにアクセスできるのは、例外従業員に割り当てられた例外レビューアだけです。

メモ: デフォルトでは、送信者または受信者が例外従業員のアイテムは、指名された例外レビューアのレビューセットに制限されません。これらは、部門レビューセットにも表示できます。例外従業員が部門でのレビューロールも持つ場合には、この状況により、例外従業員が自分のアイテムにマーク付けることが可能になります。この動作は、設定オプション[自己レビューの禁止]を設定するとブロックできます。

p.177 の「[レビューの設定オプション](#)」を参照してください。

検索対象のアーカイブの選択

Compliance Accelerator でアイテムを検索する Enterprise Vault アーカイブの一覧をカスタマイズできます。たとえば、すべての検索から無関係な要素を含むアーカイブを除外すると効率的な場合があります。

任意の部門で行う検索で利用可能なデフォルトのグローバルなアーカイブの一覧を設定するほかに、個々の部門の検索可能なアーカイブをカスタマイズできます。

グローバルなアーカイブの一覧を設定するには、アプリケーションのシステム設定修正権限が必要です。また、部門レベルのアーカイブの一覧を設定するには、部門の部門プロパティ設定権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのコンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーにシステム設定修正権限が割り当てられ、部門のユーザー管理者ロールを持つユーザーに部門プロパティ設定権限が割り当てられます。

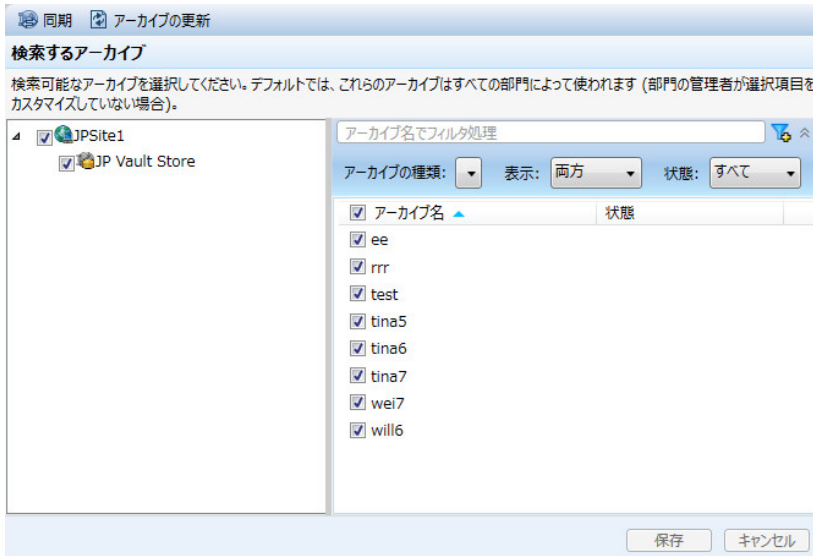
検索対象のアーカイブを選択する方法

1 次のいずれかの操作を行います。

- すべての部門で利用可能なデフォルトのアーカイブの一覧を設定するには、Compliance Accelerator クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[アーカイブ]タブをクリックします。
- 単一の部門でのみ検索するアーカイブの一覧を設定するには、[部門]タブをクリックし、左ペインで目的の部門をクリックします。その後で[アーカイブ]タブをクリックします。

Compliance Accelerator によって大量の部門が一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。部門を名前でフィルタ処理するだけでなく、それらと関連付けされるリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを選択できます。

2 検索を実行するアーカイブを選択します。



メモ: 多くのアーカイブが現在の選択およびフィルタ基準と一致する場合、**Compliance Accelerator** はそれらをすべてリストするのに時間をかけることがあります。このような状況では、**Compliance Accelerator** はリストするアーカイブの数を減らすために基準の変更を求めるメッセージを表示することがあります。メッセージに従って基準を変更するか、[すべてのアーカイブを表示]をクリックして、アーカイブをすべてリストすることができます。現在のセッション中、このペインに戻るたびにこのメッセージが表示されないようにするには、[このセッションでは今後表示しない]を選択してから[すべてのアーカイブを表示]をクリックします。

デフォルトでは、**Compliance Accelerator** は 50,000 以上のアーカイブが現在の基準と一致するときこのメッセージを表示します。このしきい値を変更するには、[ロードするアーカイブの数[この]しきい値を超えたらアーカイブペインに警告を表示する]という設定オプションを設定してください。

p.166 の「[全般設定オプション](#)」を参照してください。

次の方法で、アーカイブの追加と除外を行います。

- 単一の部門でのみ検索するアーカイブの一覧を設定するには、[この部門に対して検索可能なアーカイブをカスタマイズします]を選択します。
- 左側のボルトストアを選択するとアーカイブが検索に含まれ、クリアすると検索から除外されます。

- 左側のボルトストアをクリックすると、関連付けられているアーカイブが右側に一覧表示されます。次に、追加するアーカイブを選択し、除外するアーカイブをクリアします。

[状態]列には、アーカイブ移動操作の一部として **Enterprise Vault** 管理者による各アーカイブのコピー、移動、削除が行われたかどうかが表示されます。

Compliance Accelerator によって大量のアーカイブが一覧表示される場合は、右ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。

- 右ペインの先頭の[アーカイブ名]ボックスを選択またはクリアして、すべての利用可能なアーカイブを含めるか、または除外します。

3 [保存]をクリックします。

Compliance Accelerator 検索スケジュールの作成

検索は、すぐに実行したり、スケジュール設定して後で実行したりすることができます。たとえば、オフピーク期間に広範な検索を実行したり、同じ検索を繰り返して実行したりする必要がある場合には、この機能が便利です。スケジュール設定の検索を作成するには、最初に検索スケジュールを定義し、検索基準の 1 つとして選択します。

メモ: **SQL Server** エージェントサービスが検索スケジュールの管理を担当するため、このサービスが実行されていることを確認する必要があります。**SQL Server** エージェントサービスの設定方法について詳しくは『インストールガイド』を参照してください。

新しい検索スケジュールの設定

新しい検索スケジュールを設定するには、スケジュール管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションルール管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

新しい検索スケジュールを設定する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[検索スケジュール]タブをクリックします。
- 2 [新規作成]をクリックします。
[スケジュールの詳細]ペインが表示されます。

- 3 スケジュールの名前と、必要に応じて説明を入力します。
- 4 [有効化]を選択すると、新しい検索基準を定義するときスケジュールを選択できるようになります。
- 5 目的のスケジュールの種類を選択します。オプションは次のとおりです。

SQL Server エージェントの起動時に起動	SQL Server エージェントサービスの起動直後に実行されます。
CPU がアイドル状態のときに起動	システムがアイドル状態のときに実行されます。CPU アイドルスケジュールについて詳しくは SQL Server Management Studio のヘルプでジョブのスケジュール設定に関する説明を参照してください。

1 回	スケジュールに設定した時刻に 1 回のみ実行されます。このオプションを選択すると、さらにいくつかのフィールドが表示されます。[日付]フィールドをクリックして、目的の日付を選択します。[時刻]フィールドに、24 時間式の時刻を「 <i>hh:mm</i> 」という形式で入力します。
反復	<p>スケジュールに指定した間隔で自動的に実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [実行]。日、週、月単位の間隔を定義します。 ■ [日単位の間隔]。指定した期間にスケジュール実行する頻度を定義します。 ■ [期間]。指定した日の特定の期間に対するスケジュールの制限を定義します。

スケジュールタイプが[1 回]または[反復]の検索では、指定する時間はクライアントコンピュータではなく、Compliance Accelerator サーバーの時間です。

6 [保存]をクリックします。

検索の反復スケジュールの例

次のスケジュールを使う検索は、スケジュールに指定した間隔で自動的に実行されます。

現在から毎日午前 2 時に実行するスケジュールを作成する方法

- 1 [日単位]を選択し、[間隔: n 日ごと]フィールドに 1 と入力します。
- 2 [次の頻度で 1 回実行]を選択し、[(時刻)]フィールドに 02:00:00 と入力します。
- 3 [終了日なし]を選択します。

3 月 1 日から 8 月 2 日までの期間に月曜日の午前 9 時から午後 6 時まで、3 時間おきに実行するスケジュールを作成する方法

- 1 [週単位]を選択し、[月]を選択します。
- 2 [実行頻度]を選択し、3 と入力して、[時間]を選択します。
- 3 [開始時刻]フィールドに 09:00 と入力し、[終了時刻]フィールドに 18:00 と入力します。
- 4 [開始日]に 3 月 1 日、[終了日]に 8 月 2 日を選択します。

現在から隔月の 1 日午後 9 時に実行するスケジュールを作成する方法

- 1 [月単位]と[日]を選択し、[日]フィールドに 1、[カ月ごと]フィールドに 2 と入力します。
- 2 [次の頻度で 1 回実行]を選択し、[(時刻)]フィールドに 21:00 と入力します。
- 3 [終了日なし]を選択します。

検索するホットワードの定義

ホットワードとは、従業員のアイテムで検索できる事前定義済みの単語またはフレーズです。検索を作成する場合、検索対象となるホットワードはアイテムの件名と本文のいずれかまたは両方で選択できます。

ホットワードをホットワードセットにグループ化すると、ホットワードの管理が簡単になります。たとえば、ホットワードセットを使うと、対応していない言語のアイテムを監視したり、職業倫理に反するアイテムを監視したりすることができます。ホットワードやホットワードセットをアプリケーション全体レベルで定義するとすべての部門に適用されます。部門レベルで定義すると、その部門に対してのみ適用されます。

Compliance Accelerator には、いくつかの XML ファイルがあり、事前定義済みのホットワードとフレーズが収録されています。これらのファイルをグローバルなホットワードとフレーズとしてシステムにインポートし、必要に応じて修正できます。

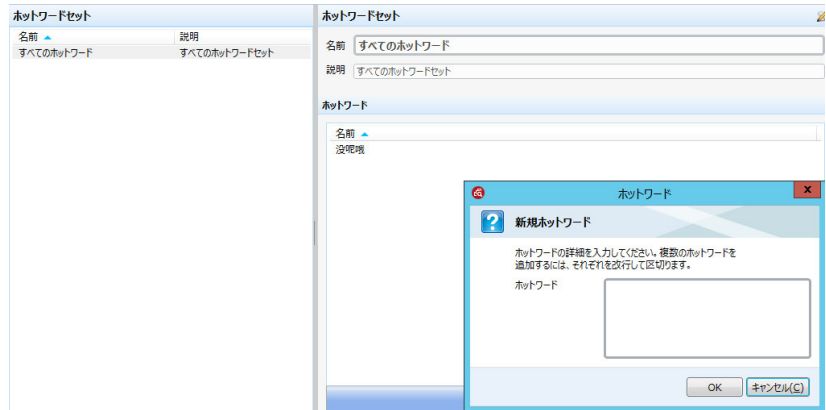
ホットワードの追加

グローバルなホットワードを追加するには、アプリケーションのホットワード追加権限が必要です。また、部門レベルのホットワードを追加するには、部門のホットワード追加権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションルール管理者ロールを持つユーザーに前者の権限が割り当てられ、部門のルール管理者ロールを持つユーザーに後者の権限が割り当てられます。

ホットワードを追加する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - グローバルなホットワードを追加するには、**Compliance Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ホットワード]タブをクリックします。
 - 部門レベルのホットワードを追加するには、[部門]タブをクリックし、次に左ペインで目的の部門をクリックします。その後で[ホットワード]タブをクリックします。
- 2 新しいホットワードを追加するホットワードセットを選択するか、またはあらゆるセットと関連付けされないホットワードを追加するために[すべてのホットワード]を選択します。

- 3 右の[パスワード]フィールドで、[新規作成]をクリックします。



- 4 ホットワードとフレーズを入力します。入力する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 各単語およびフレーズは 100 文字まで可能で、新しい行にする必要があります。
- フレーズは二重引用符で囲みます。二重引用符で囲んだフレーズを Microsoft Word などのプログラムからコピーして貼り付ける場合は、巻き引用符 (スマートクォート) を直線の引用符に置き換えてください。Compliance Accelerator では、巻き引用符を二重引用符として認識しません。
- 他の文字を表すには、単語またはフレーズの末尾にワイルドカード文字を付加します。アスタリスク (*) は 0 文字以上の文字を表し、疑問符 (?) は 1 文字を表します。たとえば、パスワードの **commodit*** は、「commodity」と「commodities」の両方に一致します。

ワイルドカード文字を追記する対象となる単語またはフレーズの最初の 3 文字以上を入力する必要があります。

検索基準に追加するパスワードとフレーズに、ワイルドカード文字を必要以上に使わないでください。ワイルドカード文字を使いすぎると、検索が複雑になります。検索に時間がかかり、メモリが過度に消費される可能性があります。

- Compliance Accelerator では、パスワードまたはフレーズに含めるすべての句読記号、または % や \$ などの他の特殊文字は無視されます。たとえば、**US@100** は **US@100** だけでなく、**US 100** と **US\$100** にも一致します。
- 特定の単語またはフレーズを含むすべてのアイテムを検索結果から除外するよう指定するには、パスワードまたはフレーズの先頭にマイナス記号を (-) を配置します。たとえば、次の場合を考えてみます。

buy -commodit*

このフレーズに一致するのは、「buy」という単語を含み、「commodity」または「commodities」という単語を含まないアイテムだけです。

終了したら、[OK]をクリックします。

- 5 [保存]をクリックします。

既存のホットワードの編集

必要に応じて既存のホットワードまたはフレーズを変更できます。変更したホットワードが受け入れ済みの検索に含まれている場合は、その検索基準でホットワードを表示するときに変更が反映されます。

グローバルなホットワードを編集するには、アプリケーションのホットワード修正と削除権限が必要です。また、部門レベルのホットワードを編集するには、部門のホットワード修正と削除権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションルール管理者ロールを持つユーザーに前者の権限が割り当てられ、部門のルール管理者ロールを持つユーザーに後者の権限が割り当てられます。

既存のホットワードを編集する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - グローバルなホットワードを編集するには、**Compliance Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ホットワード]タブをクリックします。
 - 部門レベルのホットワードを編集するには、[部門]タブをクリックし、次に左ペインで目的の部門をクリックします。その後で[ホットワード]タブをクリックします。
- 2 [すべてのホットワード]をクリックします。
- 3 右の[ホットワード]フィールドで、ホットワードをクリックし、[編集]をクリックします。
- 4 必要に応じて単語またはフレーズを変更し、[OK]をクリックします。
- 5 [保存]をクリックします。

ホットワードの削除

ホットワードが不要になった場合、そのホットワードを削除できます。ホットワードを削除すると、自動的にすべてのホットワードセットからも削除されます。

グローバルなホットワードを削除するには、アプリケーションのホットワード修正と削除権限が必要です。また、部門レベルのホットワードを削除するには、部門のホットワード修正と削除権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションルール管理者ロールを持つユーザーに前者の権限が割り当てられ、部門のルール管理者ロールを持つユーザーに後者の権限が割り当てられます。

ホットワードを削除する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。

- グローバルなパスワードを削除するには、**Compliance Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[パスワード]タブをクリックします。
 - 部門レベルのパスワードを削除するには、[部門]タブをクリックし、次に左ペインで目的の部門をクリックします。その後で[パスワード]タブをクリックします。
- 2 [すべてのパスワード]をクリックします。
 - 3 [パスワード]フィールドで、削除するパスワードをクリックします。
Shift キーを押しながら範囲の最初と最後のパスワードをクリックすると、隣接した複数のパスワードを選択できます。隣接していない複数のパスワードを選択するには、Ctrl キーを押しながら目的のパスワードをクリックします。
 - 4 [削除]をクリックします。
 - 5 [保存]をクリックします。

パスワードセットの追加

パスワードと同様に、パスワードセットをアプリケーション全体レベルで定義するとすべての部門に適用されます。部門レベルで定義すると、その部門に対してのみ適用されます。

グローバルなパスワードセットを追加するには、アプリケーションのパスワード追加権限が必要です。また、部門レベルのパスワードセットを追加するには、部門のパスワード追加権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションルール管理者ロールを持つユーザーに前者の権限が割り当てられ、部門のルール管理者ロールを持つユーザーに後者の権限が割り当てられます。

パスワードセットを追加する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - グローバルなパスワードセットを追加するには、**Compliance Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[パスワード]タブをクリックします。
 - 部門レベルのパスワードセットを追加するには、[部門]タブをクリックし、次に左ペインで目的の部門をクリックします。その後で[パスワード]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの左上で[新規作成]をクリックします。
- 3 パスワードセットの名前と省略可能な説明を入力します。
名前にはスペース文字を使えます。

- 4 ホットワードをセットに含むように選択するためにパスワードフィールドの下部で[追加]をクリックします。

Shift キーを押しながら範囲の最初と最後のパスワードをクリックすると、隣接した複数のパスワードを選択できます。隣接していない複数のパスワードを選択するには、Ctrl キーを押しながら目的のパスワードをクリックします。終了したら、[OK]をクリックします。

- 5 [保存]をクリックします。

既存のパスワードセットの編集

パスワードセットの名前と説明の変更、パスワードセットへの単語の追加、既存の単語の削除を行うことができます。

グローバルなパスワードセットを編集するには、アプリケーションのパスワード修正と削除権限が必要です。また、部門レベルのパスワードセットを編集するには、部門のパスワード修正と削除権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションルール管理者ロールを持つユーザーに前者の権限が割り当てられ、部門のルール管理者ロールを持つユーザーに後者の権限が割り当てられます。

既存のパスワードセットを編集する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - グローバルなパスワードセットを編集するには、**Compliance Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[パスワード]タブをクリックします。
 - 部門レベルのパスワードセットを編集するには、[部門]タブをクリックし、次に左ペインで目的の部門をクリックします。その後で[パスワード]タブをクリックします。
- 2 編集するパスワードセットをクリックします。
- 3 次の 1 つ以上の操作をします。
 - 1 つ以上のパスワードを作成し、パスワードセットに追加するには、パスワードフィールドの[新規作成]をクリックし、1 行に各パスワードを入力します。
 - パスワードセットに 1 つ以上の既存のパスワードを追加するには、パスワードフィールドの[追加]をクリックし、次に目的のパスワードを選択します。
 - セットから 1 つ以上のパスワードを削除するには、パスワードフィールドでパスワードを選択し、[削除]をクリックします。
- 4 [保存]をクリックします。

ホットワードセットの削除

ホットワードセットが不要になった場合、そのホットワードセットを削除できます。ホットワードセットを削除してもそれに含まれるホットワードは削除されません。受け入れ済みの検索で使われているホットワードセットを削除すると、削除したホットワードセットはその検索基準では表示されなくなります。

グローバルなホットワードセットを削除するには、アプリケーションのホットワード修正と削除権限が必要です。また、部門レベルのホットワードセットを削除するには、部門のホットワード修正と削除権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションルール管理者ロールを持つユーザーに前者の権限が割り当てられ、部門のルール管理者ロールを持つユーザーに後者の権限が割り当てられます。

ホットワードセットを削除する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - グローバルなホットワードセットを削除するには、**Compliance Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ホットワード]タブをクリックします。
 - 部門レベルのホットワードセットを削除するには、[部門]タブをクリックし、次に左ペインで目的の部門をクリックします。その後で[ホットワード]タブをクリックします。
- 2 削除するホットワードセットを選択します。
- 3 ウィンドウの先頭で[削除]をクリックします。
- 4 続行する場合は、再び[削除]をクリックします。

事前定義済みホットワードのインポート

Compliance Accelerator には、いくつかの XML ファイルがあり、事前定義済みのホットワードとフレーズが収録されています。Hotwords (English).xml と Hotphrases (English).xml。これらのファイルを **Compliance Accelerator** にインポートすると、ホットワードの編集や削除、新しいホットワードの追加を行うことができます。

パフォーマンスを上げるために、目的の単語のみを含むようにホットワード一覧を短くします。事前定義済み一覧のすべての単語を検索すると、**Compliance Accelerator** の検索速度が大幅に遅くなります。

事前定義済みホットワードをインポートする方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[インポート設定]タブをクリックします。
- 2 [設定ファイル]フィールドで、インポートする XML ファイルへの絶対パスを入力するか、[参照]をクリックしてインポートするファイルを選択します。パスには最大 250 文字まで入力できます。

通常、提供されるファイルはいずれも Compliance Accelerator サーバーの次のフォルダにあります。

```
C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault Business  
Accelerator\AcceleratorAdminWeb\Installation
```

ファイルがリモートコンピュータに格納されている場合は、そのファイルへの UNC パスまたは NTFS パスを指定できます。次に例を示します。

```
\\server2\EVBA\AcceleratorAdminWeb\Installation\Hotwords  
(English).xml
```

- 3 続行する前に以前のインポートの情報を消去する場合は、[インポート前のログをクリア]を選択します。
- 4 [インポート]をクリックします。

Compliance Accelerator によってファイルの内容がグローバルなホットワードとフレーズとしてインポートされ、グローバルなホットワードセット ([Default Hotwords]と [Default Hotphrases]) が作成されます。

Compliance Accelerator の電子メールアドレス処理の設定

Enterprise Vault がメッセージをアーカイブする際は、いくつかの方法を使って送信者と受信者の電子メールアドレスが企業の内部であるか外部であるかを判断します。Enterprise Vault は、送受信の方向 (内部、インバウンド、またはアウトバウンド) に関する情報を使ってメッセージのメタデータプロパティをバビュレートします。Compliance Accelerator は、その後にメッセージを取得する際に Enterprise Vault がメッセージに追加したメタデータ情報からメッセージの送受信の方向を特定します。

各種の Enterprise Vault アーカイブタスクがアドレスが内部であるか外部であるかを特定する方法

Enterprise Vault ジャーナルタスクがアーカイブしたメッセージに対しては、設定されている内容に基づいてタスクが電子メールアドレスを内部アドレスまたは外部アドレスとして処理する方法が決まります。したがって、Exchange ジャーナルタスクの場合は、タスクが Exchange サーバーにログオンしたときに使うシステムメールボックスを指定する必要があります。ジャーナルタスクは、ドメイン名がシステムメールボックスアカウントにリストされ

ている SMTP ドメインに一致する電子メールアドレスを検出すると、そのアドレスを内部アドレスと見なします。たとえば、システムメールボックスに次の SMTP アドレスがリストされているとします。

- VaultAdmin@ourcompanyplc.com
- VaultAdmin@ourcompanyinc.com

次のすべてのアドレスは内部アドレスとして認識されます。

- *@ourcompanyplc.com
- *@[*.]ourcompanyplc.com
- *@ourcompanyinc.com
- *@[*.]ourcompanyinc.com

ここで、[*.] は、john.doe@sales.emea.ourcompanyplc.com のように、文字列が繰り返してもよいことを示します。その他のアドレスは外部アドレスと見なされます。

SMTP アーカイブタスクでは異なります。このタスクでメッセージの方向を正しく設定するには、Enterprise Vault が企業の内部であると見なす SMTP ドメインを指定する必要があります。

内部 SMTP ドメインを指定する方法

次のいずれかの方法を使って Enterprise Vault が内部として扱う SMTP ドメインを指定します。これらの方法は、Exchange と Domino のジャーナルタスク、SMTP アーカイブタスクなどのすべての Enterprise Vault アーカイブタスクで使うことができます。

- Enterprise Vault Administration Console では、Enterprise Vault サイトのプロパティで、[内部 SMTP ドメインのリスト]と呼ばれる詳細 SMTP 設定を構成します。内部ドメインを追加する場合に推奨される方法です。詳しくは、Enterprise Vault の『管理者ガイド』を参照してください。
- タスクに関連付けられているユーザーに必要なドメインに SMTP エイリアスアドレスを追加します。これは、Active Directory、Exchange 管理者、または Domino LDAP ディレクトリに必要な応じて行うことができます。

Compliance Accelerator を使ってアーカイブされた Skype for Business コンテンツの検索

Compliance Accelerator は、Enterprise Vault がアーカイブした Skype for Business の対話を検索できます。ただし、Compliance Accelerator はこれを実行するために Skype for Business ユーザーのセッション開始プロトコル (SIP) のアドレスを必要とします。

ユーザーの SIP アドレスが SMTP アドレスと異なる場合、または SIP アドレスしかない場合、Active Directory からの SIP アドレスを取得するように Compliance Accelerator を設定する必要があります。Compliance Accelerator はこのアドレスを通常の処理の一部として取得して、ユーザーのプロファイルを対応する Active Directory アカウントと同期できます。

メモ: SIP アドレスの同期を有効にすると処理が多少複雑になるので、Compliance Accelerator の検索の一部のパフォーマンスに影響することがあります。Skype for Business が有効になっているユーザーごとに、この検索で余分な電子メールアドレスを処理する必要があります。

Active Directory から SIP アドレスを取得するように Compliance Accelerator を設定する方法

- 1 Compliance Accelerator サーバーで Accelerator マネージャの Web サイトを開きます (http://server_name/EVBAAAdmin)。
- 2 ページの下部にある[システム設定]をクリックします。
- 3 [グローバル設定]ページで、[設定]リストの[プロファイルの同期]を選択します。
- 4 [Active Directory と同期するときに SIP アドレスを取得する]オプションを[オン]に設定します。

SIP アドレスの同期が完了した後に、Compliance Accelerator ストレージサーバーのコンプライアンスのサンプリング処理で SIP アドレスが考慮されるまで数分かかることがあります。遅延時間は、この処理を Compliance Accelerator カスタマーデータベースからの設定データと同期する頻度によって決まります。更新間隔のデフォルトは 60 分ごとですが、[ランダムキャプチャ]設定の[古い設定タイムアウト(分)]で調整できます。

手動によるアイテムのレビュー

この章では以下の項目について説明しています。

- [Compliance Accelerator](#) を使ったレビューについて
- [レビューペイン](#)について
- [\[自己レビューの禁止\]](#)オプションで例外従業員のレビューアクティビティを制限する方法
- [レビューペインのアイテムのフィルタ処理](#)
- [アイテムへのレビューマークの割り当て](#)
- [コメントのアイテムへの追加](#)
- [アイテムの履歴の表示](#)
- [アイテムの印刷可能バージョンの表示](#)
- [元のアイテムのダウンロード](#)
- [クリップボードへのアイテムリストのコピー](#)
- [レビューペインの概観の変更](#)
- [レビューペインのユーザー設定の設定](#)
- [アイテムのエスカレーション](#)
- [再利用するためのレビューコメントの格納](#)

Compliance Accelerator を使ったレビューについて

検索を実行して関連する可能性のあるアイテムを収集した後、選択された個人が検索結果をレビューできます。アイテムを確認した後で、レビューアが適切な状態マークをアイテムに割り当て、必要に応じてコメントを追加します。アイテムを複数回レビューしたり、他のレビューアがコメントを追加したり、割り当てられたマークを変更したりできます。

部門にスーパーバイザを割り当てる場合は、レビューアが適用したマークとコメントをスーパーバイザが評価し、評価マークとコメントを追加できます。

標準の Compliance Accelerator システムには、部門レビューア、エスカレーションレビューア、例外レビューア、下級レビューアなど、多数の事前定義済みレビューロールが付属しています。これらのロールには次の特徴があります。

- 下級レビューアロール以外のすべてのロールではユーザーがアイテムにレビューマークを割り当てることができます。
- 下級レビューアはアイテムとレビュー履歴を表示できますが、レビューマークの割り当てと変更はできません。ただし、下級レビューアは他のユーザーがレビューしたアイテムに評価マークを割り当てることができます。
- 例外レビューアは割り当てられた例外従業員のアイテムのみを表示できます。
- エスカレーションレビューアは部門内の他のレビューアがより詳細なレビューを行うためにより高レベルの権限のレビューアにエスカレーションしたことを通知するアイテムを受信できます。

レビューペインにアクセスする方法

- ◆ Compliance Accelerator クライアントの[レビュー]タブをクリックします。

特定の種類の Skype for Business コンテンツのレビューの制限事項

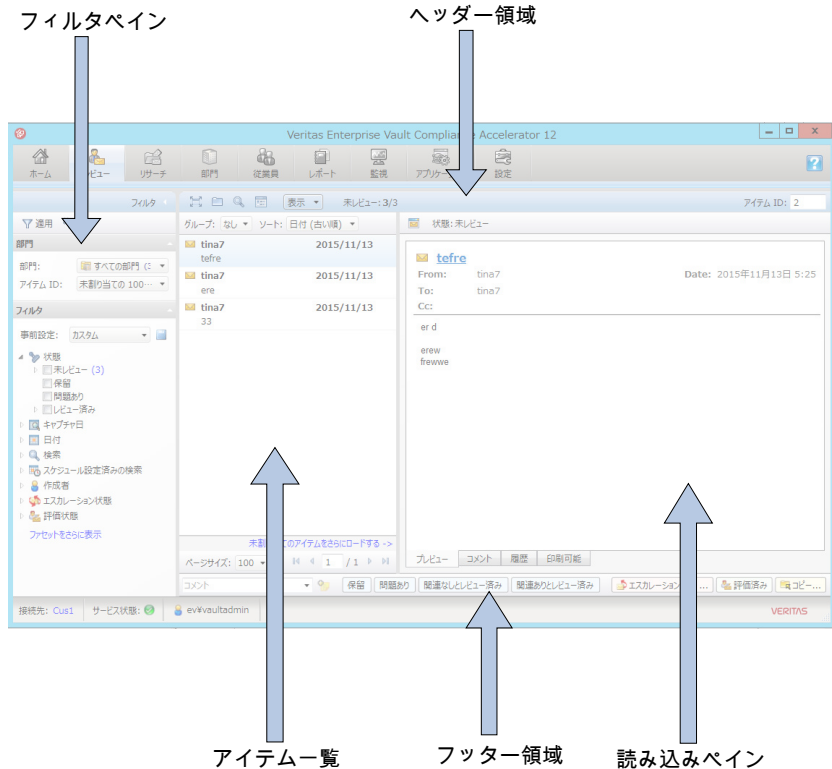
Enterprise Vault 12.2 以降には、Skype for Business インスタントメッセージと会議の通信をアーカイブする機能があります。Enterprise Vault はこの通信を個別の電子メール (.eml) ファイルとしてアーカイブします。これは、Compliance Accelerator で Instant Messaging メッセージタイプになります。

Skype for Business の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、Enterprise Vault がインデックスを作成できない Microsoft 社独自の XML フォーマットで保存されます。これは、ホワイトボードと投票が Compliance Accelerator の[レビュー]ペインに表示される方法に次のように影響します。

- アイテムのコンテンツが XML 添付ファイルとして格納されます。
- ホワイトボードの印刷可能バージョンのプレビューまたは表示は行えません。投票の質問は表示できますが、それらへの回答は表示できません。

レビューペインについて

レビューペインはレビューセットのアイテムを見直し、マーク付けすることを可能にします。ペインは次の領域に分かれています。



以下のセクションでは、レビューペインの各領域について説明します。

- 「ヘッダー領域」
- 「フィルタペイン」
- 「アイテム一覧」
- 「閲覧ペイン」
- 「フッター領域」

ヘッダー領域

ヘッダー領域には、ビューをカスタマイズするオプションと別のアイテムを選択して表示するオプションが表示されます。



Compliance Accelerator のウィンドウの上部のボタンバーを隠すことによってレビューペインを最大化します。このボタンを再度クリックすると、ボタンバーが復元されます。



詳細な調査を行うためにリサーチフォルダにコピーしたアイテムを表示できます。

p.120 の「[リサーチフォルダについて](#)」を参照してください。



現在選択されているアイテムに基づく検索を実行できます。



レビューペインの環境設定を設定します。

p.114 の「[レビューペインのユーザー設定の設定](#)」を参照してください。

表示

閲覧ペインを隠したり位置を変更したり、ペインに表示するテキストのサイズを設定したりすることができます。

未レビュー

リストのうち、まだレビューしていないアイテム数を示します。

アイテム

ハイライトされたアイテムの **Compliance Accelerator ID** を表示します。レビュー対象のアイテムの ID を知っていたら、それをここに入力し、**Enter** キーを押してそのアイテムを表示します。

グループ

日付、作成者、件名、ポリシー処理、または関連性によってリストのアイテムをグループ化します。

左の下矢印ボタンまたは上矢印ボタンのクリックによってグループのアイテムを表示するか、または隠します。

ソート

アイテムをグループ化しないことを選択したリストでは日付、作成者、件名、ポリシー処理、または関連性によってアイテムをソートできます。



現在のアイテムを原型でダウンロードし、適切なアプリケーションで開きます。またアイテムを右クリックして[元の表示]をクリックすることによってアイテムをダウンロードできます。



印刷のために現在のアイテムを送信します。

マーク

現在のアイテムに割り当て済みのマークを示します。

状態

現在のアイテムの状態を表示します。

フィルタペイン

フィルタペインはリストのアイテムをフィルタ処理できる多数の基準を提供します。フィルタの各オプションの隣の番号は、選択したフィルタを適用するとき **Compliance Accelerator** がアイテムリストに追加する一致するアイテム数を示します。

p.106 の「[レビューペインのアイテムのフィルタ処理](#)」を参照してください。

アイテム一覧

アイテム一覧は選択したフィルタのオプションと一致するレビューセット内のアイテムを示します。リストの下部にあるコントロールを使用してアイテムのページをめくったり、ページごとに表示するアイテムの最大数を指定します。未レビューアイテムは太字で表示されます。

色が青になっているアイテムはいずれも、部署に関連付けられているリサーチフォルダにあります。関連性でアイテムをソートすることを選択すると、関連なしのアイテムがグレーの背景付きで表示されます。

メモ: **Compliance Accelerator** はアイテムの日時の値を協定世界時 (UTC) として格納します。ただし、アイテムリストと右の[プレビュー]ペインでは、コンピュータのローカルタイムゾーンの設定に従ってこれらの値を変換します。その結果、異なるタイムゾーンの 2 人の **Compliance Accelerator** レビューアに対して、同じアイテムに異なる日時が表示されることがあります。

これは予測どおりの動作であり、**Microsoft Outlook** などのアプリケーションがアイテムの日時を表示する方法と同じです。

閲覧ペイン

閲覧ペインの下部のタブには次の機能があります。

プレビュー	現在のアイテムの HTML のプレビューを表示します。
コメント	現在のアイテムにレビューアが割り当てたコメントを示します。
履歴	現在のアイテムのコメントと監査履歴を表示します。
印刷可能	現在のアイテムの印刷可能バージョンを表示します。

フッター領域

フッター領域には、あるアイテムから別のアイテムにナビゲートする機能とマークとコメントをアイテムに適用する機能があります。



レビューするアイテムの最初のページを表示します。



レビューするアイテムの前のページを表示します。**Alt+z** キーを押すと同じ機能を実行できます。

$n(m)$

現在表示されているページの番号とページの合計数を示します。
特定のページに移動するには、フィールドに番号を入力して
Enter キーを押します。



レビューするアイテムの次のページを表示します。**Alt+x** キーを
押すと同じ機能を実行できます。



レビューするアイテムの最後のページを表示します。

コメント

コメントを入力して選択されたアイテムに追加できます。

アイテム一覧では、1 つ以上のコメントがアイテムに追加されると
[存在するコメント]列にコメントインジケータ記号が表示されます。

保留、問題あり、レビュー済み、
関連なしとレビュー済み、関連
ありとレビュー済み

選択されたアイテムに必要なマークを付けます。

一括レビュー処理適用権限があれば複数のアイテムに一度に
マーク付けできます。



表示されている場合は、1 人以上のエスカレーションレビューア
に選択アイテムを割り当て、さらに監査とレビューを行うことがで
きます。



表示されている場合、コンプライアンススーパーバイザはアイテム
を評価済みとしてマーク付けできます。



表示されている場合は、レビューセットから 1 つ以上のアイテム
を削除できます。



表示されている場合は、他のレビューアが参照できるように、リ
サーチフォルダの選択アイテムかすべてのアイテムをレビューセッ
トにコミットできます。



表示されている場合は、エスカレーションアイテムを別のエスカ
レーションレビューアに割り当てることができます。



表示されている場合は、作業が終わり次第エスカレーションアイ
テムをクローズすることができます。クローズしたアイテムは別の
エスカレーションレビューアに表示されますが、他のエスカレー
ションレビューアは、部門レビューアがアイテムを再エスカレーシ
ョンしないと、処理を実行できません。



表示されている場合は、現在のレビューセットの選択アイテムま
たはすべてのアイテムのコピー先リサーチフォルダを選択できま
す。

[自己レビューの禁止]オプションで例外従業員のレビューアクティビティを制限する方法

Compliance Accelerator の部門レビューアロールを持つユーザーを例外従業員としても指定している場合、そのユーザー自身が送信または受信したアイテムをレビューできないようにすることができます。デフォルトでは、Compliance Accelerator は、そのようなユーザーが自分のアイテムをレビューすることを許可します。この場合、例外従業員が非例外従業員に送信したアイテムが、次のレビューセットの両方に表示される可能性があります。

- 例外レビューアのレビューセット (送信者が例外従業員であるため)。例外従業員はこのレビューセットにアクセスできません。
- 部門レビューセット (受信者が例外従業員ではないため)。アイテムを送信した例外従業員は、部門レビューアロールによってこのレビューセットにアクセスし、アイテムにレビューマークを割り当てることができる可能性があります。

この動作は、設定オプション[自己レビューの禁止]を設定するとブロックできます。

p.177 の「[レビューの設定オプション](#)」を参照してください。

[自己レビューの禁止]オプションを設定すると、例外従業員として指定されている部門でアイテムをレビューする Compliance Accelerator ユーザーに次のような制限がかけられます。

- これらのユーザーは、自分が送信または受信したアイテムに対するプレビュー、マーク付け、コメント追加を実行できません。たとえば、表示をブロックされているメッセージのプレビューを試みたときに、次のメッセージが表示されます。

You are not authorized to review this item.
Contact your administrator for help.

また、これらのユーザーは、印刷可能バージョンでのアイテムの表示、アイテムの履歴の表示、元の形式でのダウンロード、他のレビューアが追加したコメントの表示を実行できません。

- これらのユーザーが複数のアイテムを一度にマーク付けしたり、複数のアイテムに一度にコメントを追加したりした場合、Compliance Accelerator では、そのユーザーがレビューを許可されているアイテムのみが処理されます。そのユーザーに対して表示がブロックされているアイテムは無視されます。これらの場合、一括レビューされたアイテムを Compliance Accelerator で処理するのに通常より時間がかかります。
- 部門レビューセット内のアイテムに対するマーク付けやコメント追加の制限は、リサーチフォルダにも適用されます。ただし、例外従業員は、自分のアイテムをリサーチフォルダから部門レビューセットにコミットしたり、リサーチフォルダからそれらのアイテムを削除したり、別のリサーチフォルダにコピーしたりできる可能性があります。

[自己レビューの禁止]オプションで最良の結果を得るには、次の点に留意してください。

- [自己レビューの禁止]オプションは、すべての **Compliance Accelerator** カスタマーに適用される、アプリケーション全体を対象としたオプションです。
- このオプションは、自分のアイテムの自己レビューを引き続き許可されるエスカレーションレビューアには適用されません。そのため、部門内で例外従業員にも指定されているユーザーには、エスカレーションレビューアのロールを割り当てないようにします。ただし、ユーザーに 1 つの部門内でエスカレーションレビューアのロールを割り当て、その従業員を別の部門で例外従業員に指定することは可能です。
- 可能な場合は、例外従業員を他のレビューアまたはスーパーバイザの代行には指定しないでください。例外従業員は、自分のアイテムのレビューをブロックされているために、すべての代行責任を果たせない可能性があります。
- レビューするアイテムを他の人に明示的に割り当てる場合は注意が必要です。例外従業員が送信または受信したアイテムをその例外従業員に割り当てても、例外従業員はそれらのアイテムをレビューできません。
- 例外従業員に指定されている部門内でレビューロールも持つユーザーは、**Compliance Accelerator** がメールボックスアーカイブからレビューセットに追加したアイテムを自己レビューできます。ただし、**Compliance Accelerator** がジャーナルアーカイブからレビューセットに追加したアイテムの場合は自己レビューできません。

レビューペインのアイテムのフィルタ処理

レビューペインの左側にあるオプションは、レビューを行うアイテムをフィルタ処理できる多数の基準を提供します。

レビューペインのアイテムをフィルタ処理する方法

- 1 [モード]ドロップダウンリストで、レビューセットのアイテムの標準レビューを実行するか、またはエスカレーションメッセージのレビューを実行するかを選択します。






[エスカレーションメッセージのレビュー]モードはエスカレーションレビューアのみが利用可能です。エスカレーションレビューアは、さらに評価するためにその他のレビューアによってエスカレーションされたアイテムを表示、マーク付けできます。
- 2 フィルタペインの先頭の[部門]ドロップダウンリストで、レビューセットにアイテムを表示する部門またはフォルダを選択します。

3 [アイテム]ドロップダウンリストで、レビューするアイテムのグループを選択します。オプションは次のとおりです。

一時的な割り当て	このオプションでは、レビューセット内の特定の数のアイテムを予約できます。作業が完了するまで、他のレビューアはこれらのアイテムを参照できません。
すべてのアイテム	<p>このオプションでは、アイテムが他のレビューアに割り当てられている場合でも、レビューセットのすべてのアイテムを表示できます。</p> <p>このオプションを使うと、他のレビューアの作業と重複することがあります。したがって、他のレビューアが同時に作業していない場合、またはマーク付けせずにアイテムを参照する場合にのみこのオプションを選択することを推奨します。</p>

4 [フィルタ]セクションでは、適用するファセット(アイテムの分類)を選択します。利用可能な値を表示するには、ファセットの名前または名前の左側にある矢印をクリックします。

次の表は利用可能なすべてのファセットをリストしたものです。

	Author	アイテムを送信した人の名前を基準にアイテムを選択します。
	キャプチャ日	指定した期間に Compliance Accelerator がキャプチャしたアイテムを選択します。
	キャプチャ方法	<p>Compliance Accelerator がアイテムをキャプチャしてレビューセットに追加した方法を基準にアイテムを選択します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [検索]。検索後にキャプチャされたアイテムを選択します。 ■ [ランダムサンプリング]。指定した監視ポリシーに従って、Compliance Accelerator がキャプチャしてレビューセットに追加したアイテムを選択します。 ■ [アドホック]。リサーチフォルダに追加されたアイテムを選択します。 ■ [保証されたサンプル検索]。保証されたサンプル検索の結果を選択します。
	コメント	レビューアがコメントを追加したアイテムを選択します。
	日付	作成された日付を基準にアイテムを選択します。



Direction

指定した方向に送受信されたアイテムを選択します。オプションは次のとおりです。

- [内部]。作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテムを選択します。
- [外部インバウンド]。作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織内部の人間であるアイテムを選択します。
- [外部アウトバウンド]。作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織外部の人間であるアイテムを選択します。



エスカレーション実行者

アイテムをエスカレーションレビューア宛てにエスカレーションしたユーザーを基準にアイテムを選択します。



エスカレーションメッセージ所有者

アイテムを担当するエスカレーションレビューアを基準にアイテムを選択します。



エスカレーション状態

アイテムがエスカレーションレビューア宛てにエスカレーションされたかどうか、またはその後レビューアによってクローズされたかどうかを基準にアイテムを選択します。



マーク付けの最終実行者

アイテムに最後にマークを割り当てたレビューアを基準にアイテムを選択します。



添付ファイルの数

アイテムの添付ファイルの数を基準にアイテムを選択します。



ポリシー

ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーによってアイテムを選択します。



ポリシーの処理

ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーの処理によってアイテムを選択します。この処理は次のいずれかです。

- [含める](レビューセットのキャプチャを要求または提案する)。
- [除外](レビューセットのキャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進する)。



スケジュール設定済みの検索

1 つ以上のスケジュール設定済みの検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。



検索

1 つ以上の検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。



サイズ (KB)

サイズ (KB) を基準にアイテムを選択します。



状態

アイテムの状態([保留]、[問題あり]など)を基準にアイテムを選択します。



種類

種類を基準にアイテムを選択します。

次の点に注意してください。

- 各ファセット値にはハイパーリンクが設定されています。このハイパーリンクをクリックすると、その値が選択され、それに応じてただちにアイテム一覧がフィルタ処理されます。フィルタから削除するには、再びそのファセット値をクリックします。同じファセット内で 1 つ以上の値がすでに選択されている場合は、別の値をクリックすると他の値が選択解除されます。ただし、別のファセット内で選択されている値は影響を受けません。
- ファセット値の横にある数字は、一致するアイテムの数を示します。フィルタの適用後、アイテム一覧に存在するアイテムの数を示す数字が **Compliance Accelerator** によって更新されます。たとえば、最初の状態では、[作成者]ファセット値にレビューセット全体の一致するアイテムの数が表示されているとします。その後、[状態]ファセット値を[未レビュー]に設定してからこのフィルタを適用すると、[作成者]の値が更新され、各作成者の未レビューのアイテムの数のみが表示されます。
ファセット値がイタリック体のフォントで表示される場合、一致するアイテムは現在のアイテム一覧に存在しません。
- 1 つのファセットに 2 つ以上の値を選択すると、**Compliance Accelerator** はいずれかの値に一致するアイテムを検索します。たとえば、[保留]と[問題あり]の両方の値を選択することで、そのいずれかの状態にあるすべてのアイテムを表示するように選択できます。
2 つ以上の異なるファセットに値を選択すると、**Compliance Accelerator** はすべてのファセットに一致するアイテムを検索します。たとえば、[状態]の値に[保留]、[種類]の値に[Exchange]を選択すると、状態が[保留]で、かつ種類が[Exchange]であるアイテムのみが一致します。
- ファセットに選択可能な値が多数ある場合は、**Compliance Accelerator** は最も関連のある値の簡略一覧を表示します。一覧の最後にある青いハイパーリンクをクリックすることによって、さらに値をリストに追加できます。
- レビューペインのアイテムのフィルタ処理で同じファセット設定を頻繁に使う場合は、[事前設定]フィールドの右にある[保存]ボタンをクリックすることによって、その設定を事前設定として保存できます。その後、ドロップダウンリストから事前設定を選択することによってこの設定を簡単に適用できます。
- ファセット値を右クリックすることによって、アイテムにマークを適用できます。たとえば、特定の作成者を基準にすべてのアイテムにマーク付けするには、一覧にあるその作成者の名前を右クリックしてから[アイテムをすべてマーク付け]をクリックします。

5 フィルタペインの先頭で[適用]をクリックします。

アイテムへのレビューマークの割り当て

レビュー処理の一部として、レビューに問題がなかったこと、または問題があるため問い合わせる必要があることを示す状態マークを各メッセージに割り当てます。

割り当てられた権限によって、一度に複数のメッセージに状態マークを割り当てることができるかどうかが決まります。一度に複数のメッセージにマーク付けするには、一括レビュー処理適用権限が必要です。また、一度に 1 つのメッセージにマーク付けするには、レビュー処理適用権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンススーパーバイザ、部門レビューア、例外レビューアは両方の権限を所有します。

ヒント:

- アイテムリストでは、未レビューアイテムのヘッダーは太字のフォントで表示されます。
- 左ペインのオプションを右クリックして目的のマークを選択することによって、ある特定のフィルタのオプションと一致するすべてのアイテムにすばやくマーク付けできます。
- 一覧ビューのアイテムを右クリックすると、レビューセット内のアイテムに一括でマーク付けする追加コマンドにアクセスできます。

レビューマークをアイテムに割り当てる方法

- 1 レビューペインで、マークを付けるアイテムを選択します。

複数の隣接したアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のアイテムをクリックします。隣接していないアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のアイテムをクリックします。すべてのアイテムを選択するには、**Ctrl+A** を押します。

- 2 ペインの右下にある目的のマークをクリックします。しばらくすると、**Compliance Accelerator** によってアイテムの状態が変更されます。

コメントのアイテムへの追加

アイテムにレビューマークを割り当てるだけでなく、コメントを追加できます。

割り当てられた権限によって追加できるコメントの種類が決まります。独自レビューコメント追加権限がある場合には、自分自身の言葉でコメントを追加できます。標準レビューコメント追加権限を持つ場合には、事前設定済みの一覧から追加するコメントを選択できます。デフォルトでは、コンプライアンススーパーバイザ、部門レビューア、例外レビューアのロールを持つユーザーに両方の権限が割り当てられます。

コメントをアイテムに追加するには

- 1 レビューペインで、コメントを追加する 1 つ以上のアイテムを選択します。
- 2 権限レベルに応じて、ペインの下にある[コメント]フィールドに新しいコメントを入力するか、事前定義済みコメントの一覧から選択します。
- 3 [コメント]フィールドの右側にあるボタンをクリックします。

Compliance Accelerator はコメントを追加したことを示すためにアイテムリストの[存在するコメント]列にコメントインジケータを表示します。

アイテムに割り当て済みのコメントを表示するために読み込みペインの下部で[コメント]タブをクリックします。また、アイテムリストの列をカスタマイズしてアイテムのコメントを表示する列を追加できます。

アイテムの履歴の表示

Compliance Accelerator では、選択アイテムにレビューアがマークやコメントを割り当てた日時のような選択アイテムの履歴の情報に簡単にアクセスできます。

アイテムの履歴を表示するには

- 1 レビューペインで、履歴を表示するアイテムを選択します。
- 2 読み込みペインの下部で[履歴]タブをクリックします。

Compliance Accelerator は次の詳細を表示します。

- 件名、日付、送信者と受信者の詳細
- Microsoft Exchange、Bloomberg などのアイテムの種類、アイテムの方向 (内部、外部インバウンドまたは外部アウトバウンド)
- Compliance Accelerator でアイテムをキャプチャした部門
- Compliance Accelerator でアイテムをキャプチャした日時と方法
- Compliance Accelerator 内のアイテムの ID
- アイテムのアーカイブ元場所
- アイテムの処理状態の履歴。この履歴は、アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビューア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。レビューセットからリサーチフォルダにコピーしたアイテムの履歴を表示している場合、状態履歴リストで青になっているイベントは、フォルダにアイテムをコピーする前に実行されました。

メモ: レビューアがアイテムのプレビューや印刷可能バージョンを表示したとき、または元の形式でアイテムをダウンロードしたときにログに記録するには、[アイテム履歴でプレビュー処理をログ記録] 設定オプションを設定する必要があります。

p.177 の「[レビューの設定オプション](#)」を参照してください。

- アイテムが評価またはエスカレーションされた日時に関する追加情報 (適切な権限がある場合)
- ポリシー管理ソフトウェアがアイテムのタグ付けに使ったポリシーとポリシー処理
- SMTP アイテムの場合は、Enterprise Vault が X-header に追加した属性情報

アイテムの印刷可能バージョンの表示

印刷に適した形式でアイテムの内容を表示できます。

アイテムの印刷可能バージョンを表示する方法

- 1 レビューペインで、印刷するアイテムを選択します。
- 2 読み込みペインの下部で[印刷可能]タブをクリックします。

Compliance Accelerator はアイテムの印刷可能バージョンを表示します。

アーカイブからアイテムを削除した場合、Discovery Accelerator にそのメタデータが表示されますが、その内容は表示されません。

- 3 印刷のためにアイテムを送信するには閲覧ペインの先頭で[印刷]ボタンをクリックします。

元のアイテムのダウンロード

アイテムから作成される HTML を表示するほかに、元の形式でコンピュータにアイテムをダウンロードできます。レビューアが割り当てたコメントなどの監査情報はダウンロードされたアイテムには含まれません。アイテムと監査情報の両方取得する場合は、Compliance Accelerator からアイテムをエクスポートする必要があります。

アイテムをダウンロードするには、メッセージレビュー権限が必要です。デフォルトでは、すべてのレビューアとスーパーバイザにこの権限が割り当てられています。

アイテムの元のバージョンをダウンロードする方法

- ◆ レビューペインで次のいずれかの操作をします。
 - ダウンロードするアイテムをクリックし、次に読み込みペインの上の[元のアイテムの表示]ボタンをクリックします。

- アイテムを右クリックして[元の表示]をクリックします。

Compliance Accelerator によってアイテムがコンピュータにダウンロードされ、適切なアプリケーションを使って表示されます。

クリップボードへのアイテムリストのコピー

アイテムリストの 1 行またはすべての行を Windows のクリップボードにコピーして、Microsoft Excel などの表計算アプリケーションに貼り付けることができます。コピー情報には、各アイテムの Enterprise Vault 保存セット ID など、Compliance Accelerator のリストには表示されない追加情報が含まれます。アイテムリストの一部の列を非表示に設定したとしても、すべての情報がコピーされます。

クリップボードへアイテムリストをコピーする方法

- 1 レビューペインで次のいずれかの操作をします。
 - アイテムリストの単一行をコピーするには、行を右クリックして[アイテムの詳細をクリップボードにコピーします]をクリックします。
 - すべての行をコピーするには、最初に **Ctrl+A** を押してすべての行を選択します。それから右クリックして[アイテムの詳細をクリップボードにコピーします]をクリックします。
- 2 情報を貼り付けるアプリケーションを開きます。
- 3 通常の方法で情報を貼り付けます。

レビューペインの概観の変更

作業方法に合うように、またアイテムをすばやく見つけるのに役立つように、レビューペインの外観をカスタマイズできます。

表 6-1 レビューペインをカスタマイズする方法

用途	操作
利用可能空間を占有するためにレビューペインを展開します。	アイテムリストの上の[レビュー画面の展開]ボタンをクリックします。
読み込みペインの位置を変更します。	次にアイテムリストの上の[表示]をクリックし、[読み込みペインのレイアウト]をポイントし、目的の位置を選択します。 メインウィンドウの下部か右側に読み込みペインを置か、またはそれをメインウィンドウから取り外し、新しいウィンドウで内容を表示することができます。

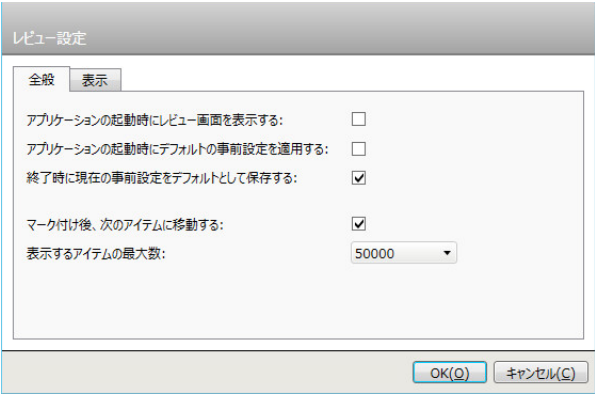
用途	操作
読み込みペインのテキストのサイズを変更します。	アイテムリストの上の[表示]をクリックし、[読み込みペインのテキストのサイズ]をポイントし、目的のサイズを選択します。
アイテムリストの列を表示または非表示にします。	アイテムリストの列見出しを右クリックし、[列を選択]をポイントし、表示または非表示にする列を選択します。それから[変更を適用]をクリックします。
アイテムリストのアイテムをソートします。	列のエントリによってアイテムをソートするためにアイテムリストの列見出しをクリックします。 列見出しの矢印の方向はエントリがソートされるのは昇順かまたは降順かを示します。
日付、作成者、件名、またはポリシー処理によってアイテムをグループ化します。	アイテムリストの上の[グループ]フィールドで目的のオプションを選択します。 グループの左側にある矢印をクリックしてグループのアイテムを表示または非表示にします。
1 ページに表示するアイテムの最大数を指定します。	アイテムリストの下の[ページサイズ]フィールドで、対象となるアイテムの数を選択します。

レビューペインのユーザー設定の設定

Compliance Accelerator が提供する広範な機能を使って、レビューペインの外観と操作をカスタマイズできます。

レビューペインのユーザー設定を設定する方法

- 1 レビューペインのヘッダー領域の[レビュー設定]ボタンをクリックします。
[レビュー設定]ダイアログボックスが表示されます。



2 [全般]タブで目的のオプションを選択します。オプションは次のとおりです。

アプリケーションの起動時にレビュー画面を表示する	選択すると、 Compliance Accelerator を起動したときにレビューペインに直接進むことができます。
アプリケーションの起動時にデフォルトの事前設定を適用する	選択すると、アイテム一覧のアイテムにデフォルトのフィルタのオプションが適用されます。
終了時に現在の事前設定をデフォルトとして保存	選択すると、レビューペインのためのデフォルトオプションとして現在のフィルタのオプションを保存します。
マーク付け後、次のアイテムに移動	選択すると、アイテムにマーク付けするときに、 Compliance Accelerator によってリストの次のアイテムが自動的に表示されます。
表示するアイテムの最大数	レビューペインで表示できるアイテム数の制限を設定します。

3 [表示]タブで目的のオプションを選択します。オプションは次のとおりです。

フォント	レビューペインのすべてのボタンとラベルで使うフォントを設定します。
アイテム一覧のフォント	アイテム一覧で使うフォントを設定します。
読み込みペインのフォント	読み込みペインで使うフォントを設定します。

アイテム一覧の表示の種類	<p>Compliance Accelerator が単一行または複数行のどちらのレイアウトで一覧にアイテムを表示するかを指定します。複数行レイアウトでは、アイテム情報は 2 行以上 で表示されます。最初の行には送信者が表示され、2 行目 にはアイテムのヘッダーの[件名]フィールドのテキストが表示されます。</p> <p>[自動]を選択すると、単一行でヘッダーを表示するには画面の領域が不足している場合に Compliance Accelerator は自動的に複数行レイアウトに切り替えます。</p>
読み込みペインの検索語をハイライト	<p>検索語のハイライトを有効または無効にします。</p>
テキスト入力にポップアップを使う	<p>レビューペインのテキスト入力フィールド ([コメント]フィールドなど) に文字を入力するときの動作を指定します。このオプションを選択すると、文字を入力する際に別のポップアップウィンドウにその文字が表示されます。これによって、新しい文字の入力時にも前の文字は表示されたままになるため、一度にすべての文字を表示できます。</p>
処理ボタンのテキストを表示しない	<p>選択すると、プレビューペインの下にある処理ボタンのテキストラベルは削除されます。</p>
読み取りペインに元の場所を表示する	<p>選択すると、現在のアイテムのアーカイブ元の場所に関する追加情報がプレビューペインの上に表示されます。</p>

4 [OK]をクリックします。

アイテムのエスカレーション

Compliance Accelerator では、さらに評価するためにエスカレーションレビューアと呼ばれる 1 つ以上レベルが高い権限のレビューアに、レビュー対象のアイテムをエスカレーションできます。アイテムをエスカレーションした後は、権限によって許可されるレビュー処理を引き続き実行できます。たとえば、必要な権限があれば、レビューマークを割り当てたり、エスカレーションされたアイテムにコメントを追加したりできます。ただし、エスカレーションレビューアがこのエスカレーションアイテムをオープンしている間はアイテムを再びエスカレーションできません。

すべてのエスカレーションアイテムはすべてのエスカレーションレビューアに表示されます。

アイテムをエスカレーションするには、メッセージエスカレーション権限が必要です。デフォルトでは、例外レビューアと部門レビューアにこの権限が割り当てられています。

アイテムをエスカレーションする方法

- 1 レビューペインで、エスカレーションする 1 つ以上のアイテムを選択します。
- 2 ペインの右下にある[エスカレーション]ボタンをクリックします。
- 3 アイテムを割り当てる一人以上のエスカレーションレビューアを選択します。[デフォルト]オプションを選択すると、**Compliance Accelerator** は、部門内でデフォルトで指定されているレビューアにエスカレーションアイテムを割り当てます。
- 4 [OK]をクリックします。

エスカレーションアイテムの他のエスカレーションメッセージレビューアへの割り当て

エスカレーションメッセージレビューアは、別のエスカレーションメッセージレビューアがそのアイテムの所有権を持つように、自分宛てにエスカレーションされたアイテムを再割り当てできます。他のエスカレーションメッセージレビューアは、エスカレーションアイテムの所有権がなくてもアイテムを処理できます。ただし、**Compliance Accelerator** ではレビューセットのフィルタ処理ができるのはエスカレーションアイテムの所有者であるため、所有権を再割り当てすることによって、重要でないアイテムを取り除くことができます。

エスカレーションアイテムを別のエスカレーションメッセージレビューアに割り当てる方法

- 1 レビューペインの左の[モード]ドロップダウンリストで、[エスカレーションメッセージのレビュー]が選択されていることを確認します。
- 2 別のレビューアに割り当てる 1 つ以上のアイテムを選択します。
- 3 ペインの右下にある[別のレビューアに割り当てます]ボタンをクリックします。
- 4 アイテムを割り当てる一人以上のエスカレーションレビューアを選択します。[デフォルト]オプションを選択すると、**Compliance Accelerator** は、部門内でデフォルトで指定されているエスカレーションレビューアにアイテムを割り当てます。
- 5 [OK]をクリックします。

エスカレーションアイテムのクローズ

エスカレーションレビューアは、作業が終了したらエスカレーションアイテムをクローズすることができます。クローズしたアイテムは別のエスカレーションレビューアに表示されますが、他のエスカレーションレビューアは、部門レビューアがアイテムを再エスカレーションしないと、処理を実行できません。

エスカレーションアイテムをクローズする方法

- 1 レビューペインの左の[モード]ドロップダウンリストで、[エスカレーションメッセージのレビュー]が選択されていることを確認します。
- 2 クローズする 1 つ以上のアイテムを選択します。
- 3 ペインの右下にある[クローズ]ボタンをクリックします。

再利用するためのレビューコメントの格納

複数のアイテムを処理する場合、同じコメントを何度も入力するのはレビューアにとって面倒な作業です。レビューアが作業対象のアイテムに適用できる共通のコメントテキストを格納すると、レビュー処理を高速化できます。これらのレビューアには、設定するコメントを適用するための標準レビューコメント追加権限が必要であることに注意してください。

レビューコメントを設定するには、レビューコメント管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのアプリケーションルール管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

レビューコメントを格納する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの [アプリケーション] タブをクリックし、次に [レビューコメント] タブをクリックします。
- 2 [新規コメント] をクリックします。
[レビューコメントの詳細] ペインが表示されます。

レビューコメントの詳細

概略 (省略可能): 適用するコメントとしてレビューアが確認する内容です。指定しない場合、完全なコメントが短縮されて概略になります:

レビューコメントは、コメントとして実際に適用される内容です:

- 3 右側にあるペインで、100 文字まで含んでいるコメントの省略可能な概略を入力します。
この概略はレビューペインの下部の [コメント] フィールドに表示されます。概略を入力しない場合、**Compliance Accelerator** はコメントの内容を短縮して概略として表示します。
- 4 レビューコメントフィールドにコメントの全文を入力します。これは 1024 文字まで含むことができます。
- 5 [保存] をクリックします。

リサーチフォルダを使った作業

この章では以下の項目について説明しています。

- [リサーチフォルダについて](#)
- [リサーチフォルダの作成](#)
- [リサーチフォルダのプロパティの編集](#)
- [アイテムのリサーチフォルダへのコピー](#)
- [リサーチフォルダのアイテムのレビュー](#)
- [リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート](#)
- [リサーチフォルダへのアクセス権の付与](#)
- [部門レビューセットへのリサーチフォルダ内アイテムのコミット](#)
- [リサーチフォルダからのアイテムの削除](#)
- [フォルダの削除](#)

リサーチフォルダについて

1 つ以上のリサーチフォルダを作成すると、他のレビューアに追加の作業をさせることなく、対象となるアイテムのみを作業できます。たとえば、インサイダー取引の疑いのある事実を追跡しているとします。大量の検索結果を他のレビューアが参照できるレビューセットに追加せずに、リサーチフォルダから検索を実行し、その結果をリサーチフォルダに格納できます。そして、通常の方法でアイテムをレビューしてマーク付けしたり、オフラインでレビューするためにそのアイテムをエクスポートしたりすることができます。

最終的にアイテムのレビューを完了したら、他のレビューアが参照できるように部門レビューセットにアイテムをコミットできます。

必要に応じて、他のユーザーと一緒にレビューを行えるように、他のユーザーに自分のリサーチフォルダへのアクセス権を付与することもできます。ユーザーに付与された権限によって、フォルダからアイテムをエクスポートできるかどうか、アイテムを検索して追加できるかどうか、アイテムをレビューしてマーク付けできるかどうかが決まります。

リサーチフォルダの作成

Compliance Accelerator ではフォルダを作成するためのいくつかの方法を提供しています。次に説明する方法の他にも、検索基準を定義するとき、検索結果を受け入れるとき、アイテムをレビューするときにも新しいフォルダを作成できます。

リサーチフォルダを作成するには

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、[すべてのリサーチ]をクリックします。
- 3 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。

フォルダのプロパティペインが表示されます。

フォルダ

名前:

フォルダ名

部門

エクスポートの詳細

アイテム ID の桁数:

6

アイテム ID の接頭辞:

例の表示

出力フォルダ:

C:\

保存

キャンセル(C)

- 4 [名前]フィールドで、フォルダ名を入力します。
- 5 [部門]フィールドで、フォルダを関連付けする部門を選択します。この部門でのアドホック検索実行権限が必要です。
- 6 フォルダからエクスポートするアイテムを格納する場所を指定します。
- 7 [保存]をクリックします。

リサーチフォルダのプロパティの編集

フォルダのプロパティを変更する必要がある場合は、次の手順に従ってプロパティを変更できます。他のユーザーのフォルダの名前を変更する場合は、そのフォルダの所有権が必要です。

リサーチフォルダのプロパティを編集する方法

- 1 [リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、編集するフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]をクリックします。
- 4 必要に応じてフォルダを編集します。
- 5 [保存]をクリックします。

アイテムのリサーチフォルダへのコピー

アイテムの詳細なリサーチを行うために、レビューセットから個人用フォルダにアイテムをコピーできます。そのアイテムをレビューしてマーク付けし、オフラインでレビューするためにアイテムをエクスポートしたり、コピーされたアイテムに関連するアイテムを検索したりすることができます。

アイテムをレビューセットから自分のフォルダにコピーするには、その部門のアドホック検索実行権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンススーパーバイザ、部門レビューア、例外レビューアにこの権限が割り当てられています。

アイテムをリサーチフォルダにコピーする方法

- 1 レビューペインで、フォルダにコピーする 1つ以上のアイテムを選択します。

複数の隣接したアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のアイテムをクリックします。隣接していないアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のアイテムをクリックします。すべてのアイテムを選択するには、**Ctrl+A** を押します。
- 2 プレビューペインで[処理]をクリックして、[コピー]をポイントします。
- 3 アイテムをコピーするコピー先フォルダを選択します。

- 4 選択したアイテムのみをコピーするか、レビューセット内のすべてのアイテムをコピーするかを選択します。
- 5 [コピー]をクリックします。

リサーチフォルダのアイテムのレビュー

フォルダ内のアイテムは、レビューセット内のアイテムをレビューする方法とまったく同じ方法でレビューできます。

いずれのケースも、アイテムにレビューマークとコメントを適用し、さらに評価するためにそのアイテムをエスカレーションレビューアにエスカレーションさせることができます。ただし、フォルダ内のアイテムを評価済みとしてマーク付けすることはできません。

メモ: フォルダからエスカレーションするすべてのアイテムは、関連付けられている部署のレビューセットに自動的にコミットされます (アイテムがそこに存在していない場合)。

フォルダのアイテムをレビューするには、そのフォルダのレビュー権限が必要です。デフォルトでは、フォルダフルコントロールロールまたはフォルダレビューロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダのアイテムをレビューする方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、レビューするアイテムのフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [レビューに移動]をクリックします。
- 5 レビューペインで、通常の方法でアイテムをレビューします。

p.101 の「[レビューペインについて](#)」を参照してください。

リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムをエクスポートする必要があります。アイテムは PST、Domino NSF データベース、HTML、MSG、ZIP などのいくつかの形式でエクスポートできます。HTML 形式でエクスポートすると、各アイテムのレビューマーク情報もエクスポートされます。

アイテムは、エクスポートしても状態が変わらないため、エクスポート後も処理を続けることができます。

フォルダからアイテムをエクスポートするには、そのフォルダのメッセージエクスポート権限が必要です。デフォルトでは、フォルダフルコントロールロールまたはフォルダエクスポートロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダからアイテムをエクスポートするには

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、一部のアイテムをエクスポートするフォルダをクリックします。
- 3 [エクスポート]タブをクリックします。
- 4 [新規作成]をクリックします。
- 5 実行に必要な詳細情報とフィルタ情報を入力します。

メモ: エスカレーションしたアイテムをエクスポート用に選択するためにフィルタを使うことはできません。エスカレーションしたアイテムは関連付けられている部署のレビューセットにコピーされます (アイテムがそこに存在していない場合)。ただし、この処理によって、リサーチフォルダの元のバージョンにエスカレーション済みのマークは付けられません。

Compliance Accelerator は、クライアントを実行するコンピュータのフォルダではなく、**Compliance Accelerator** サーバーのフォルダにアイテムをエクスポートします。同じ出力フォルダとエクスポート実行名を使って複数回実行すると、**Compliance Accelerator** は実行するたびにレポート概略を上書きします。そのため、実行するごとに異なる名前を設定することを推奨します。

出力フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。

- 6 [適用]をクリックします。
- 7 特定の数のアイテムをエクスポートするために[OK]をクリックします。
- 8 処理が終了するのをしばらく待ってから、**Compliance Accelerator** サーバーの出力フォルダを参照し、エクスポートされたアイテムを取り込みます。

リサーチフォルダへのアクセス権の付与

他のユーザーにロールを割り当てることによって、他のユーザーに自分のフォルダへのアクセス権を付与できます。たとえば、フォルダのアイテムのレビューとマーク付けを行うユーザーは、そのフォルダのレビューロールを持っている必要があります。他のロールでは、フォルダからアイテムをエクスポートすることと、新しいアイテムを検索してフォルダに追加することができます。フルコントロールロールでは、これらのすべての権限が 1 つのロールに統合されます。

他のユーザーに自分のフォルダへのアクセス権を付与するには、そのフォルダのロールの割り当て権限が必要です。デフォルトでは、フォルダフルコントロールロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダへのアクセス権を他のユーザーに付与する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、アクセス権を付与するフォルダをクリックします。
- 3 [ロールの割り当て]タブをクリックします。
- 4 ロールを割り当てるユーザーの名前をクリックします。
ユーザーがリストに表示されなければ、ペインの先頭で[追加]をクリックし、次にそれに追加するユーザーを選択します。
- 5 右ペインで次のいずれかの操作をします。
 - 新しいロールを割り当てるために[追加]をクリックします。
 - 選択したロールを削除するために[削除]をクリックします。
- 6 [保存]をクリックします。

部門レビューセットへのリサーチフォルダ内アイテムのコミット

リサーチフォルダでアイテムの作業を終えると、すべての部門レビューアが参照できるように、そのアイテムを部門レビューセットにコミットできます。Compliance Accelerator では、アイテム本体のほかに、アイテムに適用したすべてのレビューマーク、評価マーク、コメントがコミットされます。実際は、何らかの方法でマーク付けされたアイテムのみがコミットできます。[未レビュー]状態のアイテムはコミットできません。

コミットするアイテムの種類に応じて、評価済みフォルダメッセージコミット権限またはレビュー済みフォルダメッセージコミット権限が必要です。デフォルトでは、フルコントロールロールまたはメッセージコミットロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

部門レビューセットにリサーチフォルダ内のアイテムをコミットする方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、コミットするアイテムのフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [レビューに移動]をクリックします。
- 5 レビューペインで、コミットする 1 つ以上のアイテムを選択します。
隣接した複数のアイテムを選択するには、Shift キーを押しながら範囲内の最初と最後のアイテムをクリックします。隣接していない複数のアイテムを選択するには、Ctrl キーを押しながら目的のアイテムをクリックします。
- 6 プレビューペインの下で[フォルダから部門にアイテムをコミットします]ボタンをクリックします。

- 7 アイテムのほかに、アイテムに適用されたすべてのレビューマーク、評価マーク、コメントをコミットするかどうか選択します。

また、選択アイテムのみをコミットするか部門のすべてのアイテムをコミットするか、部門レビューセットにアイテムをコミットした後、フォルダからそれらを削除するかどうかを選択できます。
- 8 [コミット]をクリックします。

リサーチフォルダからのアイテムの削除

アイテムが不要になった場合、そのアイテムをリサーチフォルダから削除できます。

アイテムにレビューマークやコメントを適用している場合、**Compliance Accelerator** では、アイテムを削除する前にそのアイテムを部門レビューセットにコミットするオプションが表示されます。

リサーチフォルダからアイテムを削除する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、削除するアイテムがあるフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [レビューに移動]をクリックします。
- 5 レビューペインで、削除する 1 つ以上のアイテムを選択します。

隣接した複数のアイテムを選択するには、**Shift** キーを押しながら範囲内の最初と最後のアイテムをクリックします。隣接していない複数のアイテムを選択するには、**Ctrl** キーを押しながら目的のアイテムをクリックします。
- 6 プレビューペインの下にある[削除]ボタンをクリックします。
- 7 選択したアイテムのみを削除するか、フォルダ内のすべてのアイテムを削除するかを選択します。

また、アイテムを削除する前に、部門レビューセットにレビューマーク、評価マーク、コメントをコミットするかどうかを選択できます。
- 8 [削除]をクリックします。

フォルダの削除

フォルダが不要になった場合、そのフォルダを削除できます。

フォルダを削除するには、フォルダ削除権限が必要です。

フォルダを削除する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、[すべてのリサーチ]をクリックします。
- 3 削除する 1 つ以上のフォルダを選択します。

複数の隣接したフォルダを選択するには、最初のフォルダをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のフォルダをクリックします。隣接していないフォルダを選択するには、最初のフォルダをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のフォルダをクリックします。すべてのフォルダを選択するには、**Ctrl+A** を押します。

- 4 [削除]をクリックします。
- 5 続行する場合は、[フォルダの削除]をクリックします。

アイテムのエクスポート

この章では以下の項目について説明しています。

- アイテムのエクスポートについて
- エクスポート実行
- 同時エクスポート実行数の制限について
- エクスポート実行を最適化する方法
- 例外従業員のレビューセットからのアイテムのエクスポート
- エクスポート ID を [Microsoft Outlook](#) で表示

アイテムのエクスポートについて

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムを **Compliance Accelerator** からエクスポートする必要があります。**Compliance Accelerator** は内容のエクスポート用に多数のファイル形式をサポートしています。すべての内容を、元の形式で、または内容から作成される **HTML** としてエクスポートできます。

特定の種類のコンテンツのエクスポートの制限事項

特定の種類のコンテンツを **HTML** 形式でエクスポートする際には、次の制限事項に注意します。

- 電子メールメッセージに埋め込まれたイメージは、これらのメッセージの **HTML** エクスポートでは正しく表示されない場合があります。最適な結果を得るために、埋め込みイメージが含まれるメッセージを元の形式でエクスポートするか、単一の個人用フォルダ (**.pst**) ファイルにカプセル化することをお勧めします。
- **Skype for Business** の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、**Enterprise Vault** がインデックスを作成できない **Microsoft** 社独自の **XML** フォーマットで保存されま

す。その結果、**Compliance Accelerator** レビューセットからホワイトボードの HTML レンダリングをエクスポートすると、その内容は空白になります。同様に、投票の HTML エクスポートにも、投票の質問に対する回答は含まれませんが、質問自体は含まれます。

エクスポート実行

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムを **Compliance Accelerator** からエクスポートする必要があります。出力形式は **PST**、**Domino NSF** データベース、**HTML**、**MSG**、**ZIP** などの複数の形式から選択できます。アイテム自身およびその処理状態の履歴の両方をエクスポートする場合は **HTML** にエクスポートします。この履歴は、アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビューア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。

選択アイテムをエクスポートすることに加えて、**Compliance Accelerator** はまた **HTML** 形式、平文形式と **XML** 形式のレポートを出力します。3 つのすべてのレポートには、エクスポートしたアイテムが一覧表示されます。さらに、**HTML** レポートではそれらのアイテムへのハイパーリンクが提供されます。

部門からアイテムをエクスポートするには、メッセージエクスポート権限が必要です。デフォルトでは、部門内のすべてのレビューアとスーパーバイザにこの権限が割り当てられています。ただし、エスカレーションアイテムをエクスポートするオプションは、エスカレーションメッセージエクスポート権限を持つユーザーのみが利用可能です。デフォルトでは、エスカレーションレビューアロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

エクスポートを実行する方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、アイテムをエクスポートする部門をクリックします。

Compliance Accelerator によって大量の部門が一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。部門を名前でフィルタ処理するだけでなく、それらと関連付けられるリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを選択できます。

- 3 [エクスポート]タブをクリックします。
- 4 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。
[エクスポートの詳細]ペインが表示されます。

エクスポートの詳細

名前:

出力フォルダ:

アイテムの選択

アイテム ID:

メッセージの種類:

☒ Microsoft Exchange
☐ インスタントメッセージ
☐ SMTP
☐ Domino
☐ Bloomberg
☐ 未指定/v.6 より前のアイテム
☐ ファイルシステム
☐ FAX
☐ SharePoint
☐ IMAP (インターネットメール)
☐ ソーシャル

メッセージの方向:

すべて

キャプチャ方法:

すべて

ポリシーの処理:

☒ 含める
☒ 除外する
☒ 処理なし
☒ 指定しない

キャプチャ日:

すべて

検索:

すべて

現在の処理状態:

すべて

現在の処理状態作成者:

すべて

エスカレーション状態:

すべて

エスカレーションメッセージ所有者:

すべて

エスカレーション実行者:

すべて

現在の評価状態:

すべて

現在の評価状態所有者:

すべて

ポリシー:

すべて

適用

キャンセル

- 5 [名前]フィールドで、実行の名前を入力します。

ここに指定する名前は **Compliance Accelerator** が実行からの出力を格納するサブフォルダの名前になります。

- 6 [出力フォルダ]フィールドで、実行からの出力を格納する **Compliance Accelerator** サーバーのフォルダへのパスを入力します。

フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。

Compliance Accelerator は、指名したフォルダのサブフォルダの実行からの出力を保存します。

- 7 [アイテムの選択]フィールドで、エクスポートするアイテムを選択します。

オプションは次のとおりです。

アイテム ID エクスポートする各アイテムの ID を指定します。アイテムの ID を指定するには、レビューペインのアイテムを表示します。

メッセージの種類 **Microsoft Exchange** または **Domino** のような種類によってアイテムを選択します。

メッセージの方向	特定の方向に送受信されているアイテムを選択します。
キャプチャ方法	キャプチャされ、監視ポリシーによりレビューセットに追加されたアイテム([ランダムサンプリング])または検索結果としてキャプチャされたアイテム([検索])を選択します。
ポリシーの処理	<p>ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーの処理によってアイテムを選択します。</p> <p>この処理は次のいずれかです。[含める](キャプチャを要求または提案する)、[除外](キャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進する)、[処理なし](アイテムは通常のランダムサンプリングの対象である)。</p>
キャプチャ日	指定した期間に Compliance Accelerator がキャプチャしたアイテムを選択します。
検索	特定の検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。
現在の処理状態	アイテムの処理状態([未レビュー]、[保留]、[問題あり]など)を基準にアイテムを選択します。
現在の処理状態作成者	アイテムに最後にレビューマークを割り当てたユーザーを基準にアイテムを選択します。
エスカレーション状態	アイテムがエスカレーションレビュー宛てにエスカレーションされたかどうか、その後レビューによってクローズされたかどうかを基準にアイテムを選択します。
エスカレーションメッセージ所有者	アイテムを担当するエスカレーションレビューを基準にアイテムを選択します。
エスカレーション実行者	アイテムをエスカレーションレビュー宛てにエスカレーションしたユーザーを基準にアイテムを選択します。
現在の評価状態	スーパーバイザによる評価が行われたかどうかを基準にアイテムを選択します。このオプションは、評価状態適用権限を持つスーパーバイザに対してのみ表示されます。
現在の評価状態作成者	アイテムに最後にマークを割り当てたスーパーバイザを基準にアイテムを選択します。このオプションは、評価状態適用権限を持つスーパーバイザに対してのみ表示されます。
ポリシー	ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使った特定のポリシーによってアイテムを選択します。

8 Exchange または SMTP ジャーナルアイテムのジャーナルエンベロープ (P1) の受信者情報をエクスポートレポートに含める場合は、[ジャーナル受信者をレポートに

含める]を選択します。これには、受信者が[宛先]、[CC]、[BCC]のいずれのフィールドで指定されているかに関係なく、各アイテムのすべての受信者がリストされます。

Compliance Accelerator では、**Domino** ジャーナルアイテムの受信者情報は含まれません。

- 9 アイテムを元の形式でエクスポートするか、HTML としてエクスポートするか、ZIP ファイルで収集するかを選択します。
- [元の種類]をクリックすると **Microsoft Exchange** アイテムは個別の **MSG** ファイルとして出力し、**SMTP** アイテムは個別の **EML** ファイルとして出力するか、または個人用の単一フォルダの(.pst)ファイルにすべてカプセル化できます。
[PST]をクリックすると、**Compliance Accelerator** にファイルのパスワードと最大ロールオーバーサイズを設定できる追加オプションが複数表示されます。パスワードは英数字のみを含むことができます。各 PST ファイルのデフォルトサイズは 600 MB です。20 GB を超えることはできません。
 - [HTML]をクリックすると、**Compliance Accelerator** にコメントや処理状態の履歴を含めることを選択できる追加オプションが複数表示されます。この履歴は、各アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビューア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。

メモ: レビューアがアイテムのプレビューや印刷可能バージョンを表示したとき、または元の形式でアイテムをダウンロードしたときにログに記録するには、[アイテム履歴でプレビュー処理をログ記録]設定オプションを設定する必要があります。

p.177 の「[レビューの設定オプション](#)」を参照してください。

- [Zip]をクリックすると、各 ZIP ファイルの最大ロールオーバーサイズを設定できます。デフォルトは 1024 MB (1 GB)です。
ZIP ファイルにすべての種類のアイテムをエクスポートできます。ただし、**Domino** アイテムをエクスポートする場合は最初に **Compliance Accelerator** でアイテムを **Domino NSF** データベースに収集してから ZIP ファイルに追加します。
- 10 [エクスポートするアイテムの数]フィールドでは、必要なアイテムの数を入力します。**Compliance Accelerator** が最も古いアイテムをエクスポートすることに注意してください。たとえば、100 のアイテムをエクスポートすることを選択した場合、**Compliance Accelerator** は選択したオプションと一致する 100 の最も古いアイテムをエクスポートします。
- 11 ファイルシステムアイテムまたは **Domino** アイテムをエクスポートするときに、変更または誤って削除できないようにそれらのアイテムを読み取り専用にする場合は、[読み取り専用]を選択します。

- 12 [適用]をクリックします。
- 13 エクスポートが終了したら、**Compliance Accelerator** サーバーの出力フォルダを開いて、エクスポートされたアイテムを取り込みます。また、このフォルダはエクスポートしたアイテムをリストするレポートを含んでいます。

同時エクスポート実行数の制限について

デフォルトでは、4 つまでの実行を同時に行うことができます。追加の実行を行おうとした場合、**Compliance Accelerator** はアクティブな実行のいくつかを完了するまでキューにそれらを保持します。それからそれらを開始した順序で追加の実行を行います。実行の最大数がすでに進行中の間、優先度が高い実行を行う必要があれば、開始できるように **Compliance Accelerator** の管理者にそれらの実行の 1 つを停止するように頼むことができます。

Compliance Accelerator 管理者は次の[エクスポート/提出物生成]設定オプションを設定することによって行うことが可能である同時実行の最大数を変更できます。

- 提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数
- カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数

これらの設定オプションにアクセスするには、**Compliance Accelerator** クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[設定値]タブをクリックします。行うことができる同時実行の最大数は[カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数]を[提出物生成実行ごとの低提出物生成スレッドの数]で割ったものです。

p.162 の「[エクスポートまたは提出物生成の設定オプション](#)」を参照してください。

エクスポート実行を最適化する方法

アイテムのエクスポート時に最善の結果を得るには、次のガイドラインに従ってください。

- **Compliance Accelerator** サーバーにある高速ドライブにエクスポートします。
- 一度に複数のエクスポートを実行しないようにします。これが回避できない場合は、異なるドライブに各実行からの出力を格納します。
- 可能な場合、元の形式で電子メールメッセージをエクスポートします。これは、メッセージを 1 つの個人用フォルダの (.pst) ファイルにカプセル化するよりも非常に高速です。
HTML 形式でのアイテムのエクスポートは、必要な場合にのみ行います。
- 何らかの理由でエクスポートが失敗した場合は、[再エクスポート]機能よりも[再試行]機能を優先して使います。

例外従業員のレビューセットからのアイテムのエクスポート

例外従業員のレビューセットからアイテムをエクスポートする手順は、標準的なエクスポート手順とは少し異なります。

例外従業員のレビューセットからアイテムをエクスポートするには

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[部門]タブをクリックします。
- 2 左の[部門]のペインで、フィルタのオプション[例外の表示]を選択します。
- 3 エクスポートするアイテムがある例外従業員の名前をクリックします。
- 4 [エクスポート]タブをクリックします。
- 5 通常の方法で新しいエクスポート実行を作成します。
- 6 エクスポートが終了したら、出力フォルダを参照し、エクスポートされたアイテムを取り込みます。

エクスポート ID を Microsoft Outlook で表示

エクスポートされた個人用フォルダ (.pst) ファイルを Microsoft Outlook で表示する場合に、Compliance Accelerator が各アイテムに割り当てたエクスポート ID が表示されると便利な場合があります。Outlook の表示にカスタムの列を追加すると、この ID を表示できます。

[PST の[エクスポート ID]列の名前]という設定オプションでは、カスタム列のラベルを設定できます。デフォルトのラベルは通し番号です。(**「通し番号」**と表示されます。)

p.162 の「[エクスポートまたは提出物生成の設定オプション](#)」を参照してください。

エクスポート ID を Microsoft Outlook で表示する方法

- 1 Outlook でエクスポートされた .pst ファイルを開きます。
- 2 Outlook の列見出しを右クリックし、[フィールドの選択]をクリックします。
- 3 [新規作成]をクリックします。
- 4 [新しいフィールド]ダイアログボックスの[名前]フィールドに「通し番号」を入力して、[OK]をクリックします。
- 5 [フィールドの選択]ダイアログボックスを閉じます。
- 6 Outlook の列見出しを右クリックし、[現在のビューの編集]をクリックします。

- 7 [フィールド]をクリックして、[対象となるフィールドグループ]の一覧を選択し、[ユーザー定義フィールド]を選択します。
- 8 表示されたフィールドの一覧に通し番号を追加し、[OK]を 2 回クリックしてダイアログボックスを閉じます。

レポートの作成と表示

この章では以下の項目について説明しています。

- [Compliance Accelerator レポートについて](#)
- [Compliance Accelerator レポートの作成](#)
- [利用可能な Compliance Accelerator のレポート](#)
- [既存のレポートの表示](#)
- [レポートの削除](#)
- [OData Web サービスを使った Compliance Accelerator データセットの表示について](#)

Compliance Accelerator レポートについて

Compliance Accelerator では、Compliance Accelerator ユーザーのロールと担当、レビューアとスーパーバイザの進捗状況に関する広範なレポート機能が提供されます。

レポートを印刷するほかに、XML、カンマ区切り値 (CSV)、Acrobat (PDF)、Web アークアイブ (MHTML)、Excel、TIFF を含む多数の形式でレポートをエクスポートできます。

Compliance Accelerator レポートの作成

新しいレポートを生成するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、部門ロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

Compliance Accelerator レポートを作成する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの左上で[新規作成]をクリックします。

- 3 [種類]フィールドで、作成するレポートの種類を選択します。
p.137 の「[利用可能な Compliance Accelerator のレポート](#)」を参照してください。
場合によっては、レポートの種類を選択すると、追加のフィールドが表示され、レポートの範囲を定義できます。
- 4 [名前]フィールドで、50 文字までを含む重複しない名前を入力します。
- 5 必要であれば、250 文字までを含む省略可能な説明を入力します。
- 6 残りのレポートのパラメータを設定し、[適用]をクリックします。
- 7 **Compliance Accelerator** がレポートを生成したら、それを表示するために左ペインのレポート名をダブルクリックします。

利用可能な **Compliance Accelerator** のレポート

表 9-1 では、**Compliance Accelerator** に用意されているレポートについて説明します。

表 9-1 利用可能な **Compliance Accelerator** のレポート

レポート名	表示内容
[コンプライアンススーパーバイザの担当]レポート	各コンプライアンススーパーバイザが担当する部門。レポートには、これらの各部門のレビューも一覧表示されます。 p.139 の「 [コンプライアンススーパーバイザの担当]レポート 」を参照してください。
[部門ロールの詳細]レポート	選択した各部門に対するレビュー設定とロールの割り当てに関する情報。 p.139 の「 [部門ロールの詳細]レポート 」を参照してください。
[部門ロールの概略]レポート	選択した各部門に対するレビュー設定の概略。 p.140 の「 [部門ロールの概略]レポート 」を参照してください。
[部門ごとの差分サンプリングの概略]レポート	選択したサンプリング期間における、選択した部門の監視対象従業員のサンプリングアクティビティに関する情報。 p.141 の「 [部門ごとの差分サンプリングの概略]レポート 」を参照してください。
[ユーザーごとの実効ロール]レポート	選択したユーザーにロールが割り当てられているすべての部門および割り当てられているロール。 p.142 の「 [ユーザーごとの実効ロール]レポート 」を参照してください。

レポート名	表示内容
[部門/従業員ごとのレビューの証拠]レポート	<p>選択した部門または従業員について、必要な数と割合のランダムにサンプリングされたアイテムがキャプチャされ、レビューされたという証拠。</p> <p>p.142 の「[部門/従業員ごとの <i>message type</i> レビューの証拠]レポート」を参照してください。</p>
[部門ごとのアイテムの経過時間]レポート	<p>選択した部門について、未レビューまたはレビュー保留のいずれかであるアイテムの数。</p> <p>p.143 の「[部門ごとのアイテムの経過時間]レポート」を参照してください。</p>
[メッセージの統計の概略]レポート	<p>選択した各部門および例外従業員について、サンプリングされたアイテムの合計数とアイテムの種類ごとの詳細。</p> <p>p.143 の「[メッセージの統計の概略]レポート」を参照してください。</p>
[メッセージの概略]レポート	<p>各部門でレビュー用に Compliance Accelerator でキャプチャしたアイテムの数と、種類ごとの詳細。</p> <p>p.144 の「[メッセージの概略]レポート」を参照してください。</p>
[部門ごとの監視対象 ID]レポート	<p>各監視対象従業員について、レビューのためにキャプチャされたアイテムの数。</p> <p>p.144 の「[部門ごとの監視対象 ID]レポート」を参照してください。</p>
[部門ごとの問題があるアイテム]レポート	<p>各部門について、問題があるアイテム (レビューアが[問題あり]とマーク付けしたアイテム) の概略。</p> <p>p.145 の「[部門ごとの問題があるアイテム]レポート」を参照してください。</p>
[部門ごとの担当]レポート	<p>各部門について、所有者、監視対象従業員、部門レビューア、エスカレーションレビューア、コンプライアンススーパーバイザ。</p> <p>p.145 の「[部門ごとの担当]レポート」を参照してください。</p>
[レビューアごとの担当]レポート	<p>各レビューアについて、そのレビューアがアイテムをレビューする部門、およびその部門の他のレビューア。</p> <p>p.146 の「[レビューアごとの担当]レポート」を参照してください。</p>
[部門ごとのレビューアクティビティの概略]レポート	<p>選択したレポート期間に Compliance Accelerator がキャプチャした各種別のアイテムの合計数。</p> <p>p.146 の「[部門ごとのレビューアクティビティの概略]レポート」を参照してください。</p>

レポート名	表示内容
[部門ごとのレビューアのアクティビティ]レポート	各部門について、エスカレーション済み、問題あり、レビュー済み、未レビューのアイテム数など、レビューセットのアイテムの状態。 p.147 の「 [部門ごとのレビューアのアクティビティ]レポート 」を参照してください。
[レビューアのアクティビティの詳細]レポート	各部門について、各レビューアのレビューセットのアイテムの状態。 p.147 の「 [レビューアのアクティビティの詳細]レポート 」を参照してください。
[レビューアのマップ]レポート	レビューアがレビューを行う各部門のレビューの必要条件および監視対象従業員。 p.148 の「 [レビューアのマップ]レポート 」を参照してください。
[未レビューの部門]レポート	部門レビューアが割り当てられていない部門。 p.149 の「 [未レビューの部門]レポート 」を参照してください。
[未管理の部門]レポート	コンプライアンススーパーバイザが割り当てられていない部門。 p.149 の「 [未管理の部門]レポート 」を参照してください。

[コンプライアンススーパーバイザの担当]レポート

[コンプライアンススーパーバイザの担当]レポートには、各コンプライアンススーパーバイザが担当する部門が一覧表示されます。レポートには、これらの各部門のレビューアも一覧表示されます。

このレポートは、選択した各コンプライアンススーパーバイザに次の情報を提供します。

表 9-2 [コンプライアンススーパーバイザの担当]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
部門	ユーザーがコンプライアンススーパーバイザである部門。
レビューア	各部門のレビューア。
この代理として	必要に応じて、各レビューアが代行となる主レビューア。

[部門ロールの詳細]レポート

選択した各部門について、[部門ロールの詳細]レポートはレビュー設定とロールの割り当てに関する情報を提供します。

このレポートは、選択した各部門について次の情報を提供します。

表 9-3 [部門ロールの詳細]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
部門の設定	
メッセージの種類	<p>Compliance Accelerator が部門レビューセットに追加することがあるアイテムの種類。Exchange、Fax、Domino、SMTP の場合は、レポートには 3 つのアイテムの種類が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 内部: 作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテム。 ■ 外部インバウンド: 作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織内部の人間であるアイテム。 ■ 外部アウトバウンド: 作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織外部の人間であるアイテム。
レビューの必要条件	キャプチャされ、レビューセットに追加される各従業員のアイテムの割合。
メッセージの上限	キャプチャしてレビューセットに追加する各従業員のアイテム数に制限を設定したかどうか。
すべてのメッセージの種類について	部門内のすべての従業員の監視を有効にしているか、無効にしているか (監視)、レビューセットの合計アイテム数に制限を設定しているかどうか (上限設定)、およびレビューセットのアイテム数を制限している場合はその制限値 ([メッセージの総数の上限])。
この部門のロールが割り当てられているユーザー/グループ	
ユーザー/グループ	部門のロールを担当するユーザーまたはグループ。
ロール	ユーザーまたはグループが担当するロール。
ロールの割り当ての詳細	ユーザーがロールをどのように取得したか。明示的な割り当て、親部門からの継承、またはグループのメンバー所属。

[部門ロールの概略]レポート

選択した各部門について、[部門ロールの概略]レポートはレビュー設定の概略を提供します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-4 [部門ロールの概略]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
メッセージの種類	<p>Compliance Accelerator が部門レビューセットに追加することがあるアイテムの種類。Exchange、Fax、Domino、SMTP の場合は、レポートには 3 つのアイテムの種類が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 内部: 作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテム。 ■ 外部インバウンド: 作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織内部の人間であるアイテム。 ■ 外部アウトバウンド: 作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織外部の人間であるアイテム。
レビューの必要条件	キャプチャされ、レビューセットに追加される各従業員のアイテムの割合。
メッセージの上限	キャプチャしてレビューセットに追加する各従業員のアイテム数に制限を設定したかどうか。
すべてのメッセージの種類について	部門内のすべての従業員の監視を有効にしているか、無効にしているか (監視)、レビューセットの合計アイテム数に制限を設定しているかどうか (上限設定)、およびレビューセットのアイテム数を制限している場合はその制限値 ([メッセージの総数の上限])。

[部門ごとの差分サンプリングの概略]レポート

選択したサンプリング期間について、[部門ごとの差分サンプリングの概略]レポートは、選択した部門の監視対象従業員のサンプリングアクティビティの概略を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-5 [部門ごとの差分サンプリングの概略]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
監視対象従業員	監視対象従業員の名前。
メッセージの総数	監視対象従業員が送受信したアイテムの合計数。
ポリシーサンプリング	ポリシー管理ソフトウェアが「含める」にタグ付けしたレビューセット内のアイテムの数と割合。
検索サンプリング	保証されたサンプル検索がサンプリングしたアイテムの数と割合。
ランダムサンプリング	Compliance Accelerator がランダムにサンプリングしたアイテムの数と割合。

フィールド	表示内容
サンプリングの合計	サンプリングされたアイテムの合計数と割合。

[ユーザーごとの実効ロール]レポート

[ユーザーごとの実効ロール]レポートは、選択したユーザーにロールが割り当てられているすべての部門および割り当てられているロールの一覧を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-6 [ユーザーごとの実効ロール]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
部門	ユーザーがロールを割り当てられている部門の名前。
ロール	ユーザーが担当する部門のロール。
詳細	ユーザーがロールをどのように取得したか。明示的な割り当て、親部門からの継承、またはグループのメンバー所属。

[部門/従業員ごとの *message type* レビューの証拠]レポート

選択した部門または従業員について、[レビューの証拠]レポートは、必要な数と割合の選択された種類のアイテムがキャプチャされ、レビューされたという証拠を提供します。これらのレポートはランダムにサンプリングされたアイテムのみを含んでいます。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-7 [部門/従業員ごとのレビューの証拠]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
監視対象従業員	監視対象従業員の名前。
メッセージの総数	監視対象従業員が送受信した、指定した種類のアイテムの合計数。
キャプチャ済み	Compliance Accelerator で収集された従業員のアイテムの数と割合。
未レビュー	未レビューアイテムの数。
保留	保留中の状態であるアイテムの数。
問題あり	問題ありの状態であるアイテムの数。
レビュー済み	レビュー済みの状態であるアイテムの数。

フィールド	表示内容
レビュー割合	レビュー済みのアイテムの割合。

[部門ごとのアイテムの経過時間]レポート

選択した部門について、[部門ごとのアイテムの経過時間]レポートは、未レビューまたはレビュー保留のいずれかであるアイテムの数を示します。このレポートは、各アイテムが最初にキャプチャされてからレビューを待機した期間も示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-8 [アイテムの経過時間]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
合計 - 部門名	未レビューまたはレビュー保留のいずれかであるアイテムを含んでいる部門の名前。
キャプチャ経過時間の範囲内にあるメッセージの数	30 日間の各期間について、最初にキャプチャされたときから未レビューまたはレビュー保留のいずれかであるアイテムの数。合計には、90 日以上未レビューまたはレビュー保留であったアイテムは含まれていません。

[メッセージの統計の概略]レポート

選択した各部門および例外従業員について、[メッセージの統計の概略]レポートは、サンプリングされたアイテムの合計数とアイテムの種類ごとの詳細を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-9 [メッセージの統計の概略]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
部門名	Compliance Accelerator での部門の名前。レビューセットのサンプリングされたアイテムのリストを表示する部門名をクリックします。

フィールド	表示内容
メッセージの種類 (Exchange 内部など)	<p>Compliance Accelerator が部門レビューセットに追加することがあるアイテムの種類。Exchange、Fax、Domino、SMTP の場合は、レポートには 3 つのアイテムの種類が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 内部: 作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテム。 ■ 外部インバウンド: 作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織内部の人間であるアイテム。 ■ 外部アウトバウンド: 作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織外部の人間であるアイテム。
サンプリングの合計	すべての種類のサンプリングされたアイテムの合計数。

[メッセージの概略]レポート

[メッセージの概略]レポートは、各部門でレビュー用に **Compliance Accelerator** でキャプチャしたアイテムの数と、種類ごとの詳細に関する情報を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-10 [メッセージの概略]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
部門: 部門名	アイテムの数を示す部門の名前。部門名をクリックすると、レビューセット内のアイテムの詳細情報が表示されます。
メッセージの種類/メッセージ	Compliance Accelerator がレビューのためにキャプチャしたアイテムの種類と数。アイテムの種類またはアイテムの数をクリックすると、該当するアイテムの一覧が表示されます。

[部門ごとの監視対象 ID]レポート

各監視対象従業員について、[部門ごとの監視対象 ID]レポートは、レビューのためにキャプチャされたアイテムの数を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-11 [監視対象 ID]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
企業 ID	わかっている場合は、従業員の社内 ID。

フィールド	表示内容
合計	Compliance Accelerator がレビューのためにキャプチャした従業員のアイテムの合計数。合計には、ランダムにサンプリングされたアイテム、ポリシーでキャプチャされたアイテム、保証されたサンプル検索でキャプチャされたアイテムが含まれます。
未レビュー	従業員のレビュー待ちのアイテムの数。
レビュー済み	従業員のレビュー済みのアイテムの数。

[部門ごとの問題があるアイテム]レポート

各部門について、[部門ごとの問題があるアイテム]レポートは、問題があるアイテム (レビューアが[問題あり]とマーク付けしたアイテム) の概略を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-12 [問題があるアイテム]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
アイテム ID	Compliance Accelerator がアイテムに割り当てた識別番号。
送信日	アイテムが送信された日時。
コメント	Compliance Accelerator レビューアがアイテムに追加した最後のコメント。
送信者	アイテムを送信した人。
受信者	アイテムの受信者。 Compliance Accelerator は、可能であれば受信者すべてをリストしますが、受信者の数が多いときにはリストが切り捨てられる場合があります。

[部門ごとの担当]レポート

各部門について、[部門ごとの担当]レポートは、所有者、監視対象従業員、部門レビューアなどを一覧表示します。レビューアのいない部門は「(未レビュー)」として表示されます。代行レビューアについては[**reviewer_name** の代理として]というタグが表示されます。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-13 [部門ごとの担当]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
所有者	部門の所有者 (通常、 Compliance Accelerator のメインシステム管理者)。
監視対象従業員	Compliance Accelerator が監視している部門の従業員。
部門レビューア	部門でレビューとアイテムのマーク付けを実行できる Compliance Accelerator ユーザー。
エスカレーションレビューア	部門レビューアがさらに評価するためにアイテムをエスカレーションできる Compliance Accelerator のユーザー。
コンプライアンススーパーバイザ	部門レビューアの作業を評価し、部門の例外従業員を管理できる Compliance Accelerator ユーザー。

[レビューアごとの担当]レポート

各 **Compliance Accelerator** レビューアについて、[レビューアごとの担当]レポートは、レビューアがアイテムをレビューできる部門、およびその部門の他のレビューアを一覧表示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-14 [レビューアごとの担当]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
部門	ユーザーがレビューアのロールを割り当てられている部門。
追加のレビューア	部門の他のレビューアの名前。
この代理として	必要に応じて、各レビューアが代行として作業している主レビューアまたはスーパーバイザ。

[部門ごとのレビューアクティビティの概略]レポート

[部門ごとのレビューアクティビティの概略]レポートは、選択したレポート期間に **Compliance Accelerator** がキャプチャした各種類のアイテムの合計数を示します。また、このレポートはこれらのアイテムのレビューの状態も示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-15 [レビューアクティビティの概略]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
Total	Compliance Accelerator がレポート期間内にキャプチャした、指定された種類のアイテムの合計数。
未レビュー	未レビューアイテムの数。
Reviewed (関連あり)	レビューアが[レビュー済み (関連あり)]のマークを付けたアイテムの数。
Pending	レビューアが[保留]としてマーク付けしたアイテムの数。
Questioned	レビューアが[問題あり]としてマーク付けしたアイテムの数。

[部門ごとのレビューアのアクティビティ]レポート

各部門について、[部門ごとのレビューアのアクティビティ]レポートは、エスカレーション済み、問題あり、レビュー済み、未レビューのアイテム数など、レビューセットのアイテムの状態を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-16 [部門ごとのレビューアのアクティビティ]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
レビュー状態/メッセージ	Compliance Accelerator がレビューのためにキャプチャしたアイテムの状態と数。アイテムの状態またはアイテムの数をクリックすると、該当するアイテムの一覧が表示されます。

[レビューアのアクティビティの詳細]レポート

各部門について、[レビューアのアクティビティの詳細]レポートは、各レビューアのレビューセットのアイテムの状態を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-17 [レビューアのアクティビティの詳細]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
レビューア	レビューアの名前。またはレビュー待ちのアイテムの場合は「レビューアなし」。

フィールド	表示内容
メッセージの状態	マーク付けの状態（[問題あり]、[関連ありとレビュー済み]、[関連なしとレビュー済み]）とエスカレーションの状態（[エスカレーション済み]）。
メッセージ	指定した状態のアイテムの数、およびこのレビューアがマーク付けまたはエスカレーションしたアイテムの合計数。
委任の詳細	必要に応じて、各レビューアが代行として作業している主レビューアまたはスーパーバイザ。
マーク付けアクティビティの合計: 部門名	すべての部門レビューアがマーク付けしたレビューセットのアイテムの合計数。
エスカレーションアクティビティの合計: 部門名	すべての部門レビューアが、さらに評価するために上位の権限を持つレビューアにエスカレーションしたレビューセットのアイテムの合計数。

[レビューアのマップ]レポート

[レビューアのマップ]レポートは、レビューアがレビューを行う各部門のレビューの必要条件および監視対象従業員を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-18 [レビューアのマップ]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
メッセージの種類	<p>Compliance Accelerator が部門レビューセットに追加することがあるアイテムの種類。Exchange、Fax、Domino、SMTP の場合は、レポートには 3 つのアイテムの種類が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 内部: 作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテム。 ■ 外部インバウンド: 作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織内部の人間であるアイテム。 ■ 外部アウトバウンド: 作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織外部の人間であるアイテム。
レビューの必要条件	キャプチャされ、レビューセットに追加される各従業員のアイテムの割合。
メッセージの上限	キャプチャしてレビューセットに追加する各従業員のアイテム数に制限を設定したかどうか。

フィールド	表示内容
すべてのメッセージの種類について	部門内のすべての従業員の監視を有効にしているか、無効にしているか (監視)、レビューセットの合計アイテム数に制限を設定しているかどうか (上限設定)、およびレビューセットのアイテム数を制限している場合はその制限値 ([メッセージの総数の上限])。
部門名の監視対象従業員	<p>各監視対象従業員について、キャプチャされ、レビューセットに追加される従業員のアイテムの割合。レポートのこの領域には、次の情報も表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 必要に応じて、従業員に割り当てた例外レビューアの名前。 ■ 従業員の監視が中断されたかどうか。Compliance Accelerator は、従業員の監視を一時的に停止したとしても、中断された従業員はまだ追加した部署に属していると考えられます。 ■ 従業員を含む部門に適用している上限から従業員が除外されるかどうか。

[未レビューの部門]レポート

[未レビューの部門]レポートは、部門レビューアが割り当てられていない部門を一覧表示します。一覧表示されるのはユーザーがレポート表示権限を持っている部門のみです。このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 9-19 [未レビューの部門]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
部門名	Compliance Accelerator での部門の名前。レビューセットのサンプリングされたアイテムのリストを表示する部門名をクリックします。
所有者	部門の所有者 (通常、 Compliance Accelerator のメインシステム管理者)。

[未管理の部門]レポート

[未管理の部門]レポートは、コンプライアンススーパーバイザが割り当てられていない部門を一覧表示します。一覧表示されるのはユーザーがレポート表示権限を持っている部門のみです。

既存のレポートの表示

Compliance Accelerator はレポートの内容を表示し、印刷し、Excel、Acrobat (PDF)、XML、カンマ区切り値 (CSV) のような形式でエクスポートすることを容易にします。レポートは、その作成時点におけるデータのスナップショットです。レポートを後で表示してもレポート内のデータは更新されないため、最新のデータを表示する場合は新しいレポートを作成する必要があります。

既存のレポートを表示するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、部門ロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

既存のレポートを表示するには

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 中央のペインで、表示するレポートをクリックします。Compliance Accelerator は右側にある[詳細]タブで選択したレポートの情報を提供します。

左ペインのオプションを選択することによって、レポートのリストをフィルタ処理できます。代わりに、中央のペインの先頭の[レポートの検索]フィールドで、レポートの名前や説明で検索するキーワードを入力します。
- 3 レポートの内容を表示するために[プレビュー]タブをクリックします。
- 4 次の 1 つ以上の操作をします。
 - レポート内で、特定のページに移動するか、特定の語を見つけるか、または拡大のレベルを調整するには、プレビューペインの先頭でナビゲーションコントロールをクリックします。
 - レポートをエクスポートするには、対象となる形式を選択し、[エクスポート]をクリックします。Compliance Accelerator はレポートファイルのための場所を選択するためにプロンプトを表示します。
 - レポートのコンテンツを更新するには、[更新]をクリックします。
 - レポートを印刷するには、[印刷]をクリックし、次に印刷のオプションを選択します。

レポートの削除

レポートが不要になった場合、そのレポートを Compliance Accelerator から削除できます。

レポートを削除するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、部門ロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

注意: 誤って削除したレポートをリカバリできません。

レポートを削除する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、削除するレポートをクリックします。
- 3 ウィンドウの左上で[レポートの削除]をクリックします。
- 4 [はい]をクリックして、レポートを削除することを確定します。

OData Web サービスを使った Compliance Accelerator データセットの表示について

Compliance Accelerator クライアントでレポートを作成したり表示したりするだけでなく、OData (Open Data) Web サービスで Compliance Accelerator の設定情報やカスタマーデータベースを開示できます。必要に応じて、OData と互換性のあるレポートツールでこの情報を使ってレポートを作成できます。このようなレポートツールには Excel/PowerQuery や SSRS (Microsoft SQL Server Reporting Services) などがあります。

この機能について詳しくは、『[Best Practices for Enhanced Accelerator Reporting](#)』のホワイトペーパーを参照してください。

利用可能な Compliance Accelerator データセット

表 9-20 には、OData Web サービスを使って表示できる Compliance Accelerator データセットが示されています。

表 9-20 利用可能な Compliance Accelerator データセット

データセット	表示内容
ActionStatusDetail	レビューアが 1 つ以上の部署のアイテムで実行した処理の履歴。
Customers	Compliance Accelerator が部署の詳細、ユーザーサーバーロール、検索結果などを格納する SQL Server データベースに関する情報。
Departments	指定したカスタマーと関連付けられた 1 つ以上の部署の情報。
DifferentialSamplingSummaryByDepartment	選択した部署の監視対象従業員のサンプリングアクティビティ。
EscalationHistory	特定のアイテムのエスカレーション履歴。

データセット	表示内容
GuaranteedSamplingSummary	Enterprise Vault によって Compliance Accelerator に送信済みの保証されたサンプリング統計データに関する情報。
ItemAgingByDepartment	未レビューまたはレビュー保留のいずれかであるアイテムの数。
QuestionedItems ByDepartment	疑わしいアイテム(レビューアが[問題あり]とマーク付けしたアイテム)の概略。
ReviewActivitySummary	選択したレポート期間に Compliance Accelerator がキャプチャした各種類のアイテムの合計数。また、このレポートはこれらのアイテムのレビューの状態も示します。
ReviewerActivity ByDepartment	エスカレーション済み、問題あり、レビュー済み、未レビューのアイテム数など、レビューセットのアイテムの状態。
ReviewerActivityBy DepartmentDetailed	状態、方向、メッセージの種類、作成者などのレビューセットアイテムの詳細。
ReviewerActivityByReviewer	各レビューアのレビューセットアイテムの状態とレビューアに関する情報。
ReviewerActivityDetail	1 つ以上の部署における各レビューアのレビューセットアイテムの状態。
ReviewerActivityItemDetailed	レビューセットを操作したレビューアの情報と各メッセージの詳細。
ReviewerNotes	指定した部署のレビューセットのアイテムにレビューアが割り当てたメモの情報。
SamplingSummary	Enterprise Vault によって Compliance Accelerator に送信されたサンプリング統計データに関する情報。
StatisticalSamplingSummary	Enterprise Vault によって Compliance Accelerator に送信された統計サンプリングデータに関する情報。

Compliance Accelerator データベースへのアクセス

Web ブラウザのアドレスバーに以下のアドレスをタイプするとデータセットにアクセスできます。いずれの場合も、**server_name** は Compliance Accelerator サーバーソフトウェアをインストールしたサーバーの名前です。

- 利用可能なすべてのデータセットの一覧にアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/CAReporting/OData`
- 各データセットに含まれるすべてのフィールドと利用可能なすべてのデータセットの一覧にアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/CAReporting/OData/$metadata`
- 特定のデータセットにアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/CAReporting/OData/dataset_name`

Microsoft Excel での OData サービスの使用

以下の指示は Microsoft Excel 2010 と 2013 を対象としています。Microsoft Power Query for Excel アドインがインストールされていることを確認してください。このアドインは Microsoft 社の Web サイトの次のページからダウンロードできます。

<https://www.microsoft.com/download/details.aspx?id=39379>

Microsoft Excel で OData サービスを使うには

- 1 Microsoft Excel を開きます。
- 2 新しい空白のワークブックを作成します。
- 3 [Power クエリー] タブで、[外部データを入手] グループの [他のソースから] をクリックして、[OData データフィード] をクリックします。
- 4 [OData フィード] ダイアログボックスページの [URL] ボックスで、次のようにデータフィードの Web サイトアドレスを指定します。

`http://server_name/CAReporting/OData/dataset_name(parameter=value)`

次に例を示します。

`http://ca.mycompany.com/CAReporting/OData/ActionStatusDetail
(customerID=2,departmentID=8,itemID=32)`

メモ: データセットを表示するために必要な必須パラメータを指定する場合は注意してください。Customers データセットを除いて、すべてのデータセットに必須パラメータがあります。これらについては、各データセットのオンラインヘルプを参照してください。

- 5 資格情報を求められたら、入力してログインします。クエリーエディタが開きます。
- 6 クエリーエディタで、データセットで利用できるレコードを表示します。必要に応じてクエリーを編集します。
- 7 [クローズとロード]をクリックして、Excel のデータセット情報を表形式でインポートします。

Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS)での OData サービスの使用

以下の指示は SSRS (Microsoft SQL Server Reporting Services) を対象としています。

Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS)で OData サービスを使う方法

- 1 レポートビルダを開きます。
- 2 XML 接続タイプとして新規データソースを追加します。
- 3 [接続文字列]ボックスに、次のようにデータフィードの URL を指定します。
`http://server_name/CAReporting/OData/dataset_name(parameter=value)?$format=application/atom+xml`

次に例を示します。

`http://ca.mycompany.com/CAReporting/OData/Customers(customerID=1)?$format=application/atom+xml`

- 4 資格情報を入力して、データソースに接続します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 上記のデータソースを使ってデータセットを追加します。
- 7 [レポートに埋め込まれたデータセットを使う]を選択します。
- 8 リストからデータセットを選択します。
- 9 クエリーを次のように設定します。

```
<Query>
  <ElementPath IgnoreNamespaces="true">
    feed{/entry{/content{/properties
  </ElementPath>
</Query>
```

- 10 [フィールドの更新]をクリックします。
- 11 SSRS レポートのレポートデータとして新規データセットを使います。

Compliance Accelerator のカスタマイズ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [従業員の詳細の同期に使う Windows ドメインの指定](#)
- [レビュー処理の状態のカスタマイズ](#)
- [Compliance Accelerator システム設定オプションの設定](#)
- [レビューペインの列のカスタマイズ](#)

従業員の詳細の同期に使う Windows ドメインの指定

Compliance Accelerator が従業員と従業員グループの詳細を同期するときに使う複数の Windows ドメインを指定できます。新しい従業員を追加し、対応する Windows アカウントを参照するとき、ドメインは選択可能なリストにも表示されます。

Windows ドメインを指定するには、システム設定修正権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのコンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

従業員の詳細の同期に使う Windows ドメインを指定する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[アカウント情報]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。
[ドメイン情報]ペインが表示されます。

- 3 [ドメイン名 (NetBIOS)]フィールドで、Active Directory ドメインの NetBIOS 名を入力します。
- 4 [完全修飾ドメイン名を入力してください]フィールドで、NetBIOS 名にマップする DNS の完全修飾ドメイン名を入力します。
- 5 ドメインに接続するとき特定のアカウントを使う場合は、[アカウント情報]領域でアカウントの名前そしてパスワードを入力します。

デフォルトでは、Active Directory と同期すると、Compliance Accelerator は Accelerator マネージャサービスが動作しているサービスアカウントを使います。

- 6 グローバルカタログを自動検索するのではなく、特定のサーバーを使うように Compliance Accelerator を設定するには、[次のグローバルカタログサーバーを使う]を選択し、次に必要なサーバーを指定します。
- 7 [保存]をクリックします。

レビュー処理の状態のカスタマイズ

Compliance Accelerator の[レビュー]ペインで、アイテムの状態を表示するときに使う状態名をカスタマイズできます。

表 A-1 デフォルトの状態名とアクセスキー

処理状態	評価状態	エスカレーション状態
未レビュー	未評価	未エスカレーション
保留 (Alt+P)	評価済み (Alt+A)	エスカレーション済み (Alt+E)
問題あり (Alt+Q)		クローズ (Alt+C)
関連ありとレビュー済み (Alt+R)		
関連なしとレビュー済み (Alt+I)		

これらの状態名と説明は変更できます。ほとんどの場合、異なるアクセスキーを割り当てることができます。Alt キーと組み合わせてアクセスキーを押すと、レビューアは特定の状態マークをレビューペインのアイテムに割り当てることができます。たとえば、Alt+R のキーの組合せは通常保留のマークをアイテムに割り当てます。このペインで、レビューアが次のアイテムまたは前のアイテムを選択するときに使うナビゲーションキーも変更できます。

レビュー状態を設定するには、システム設定修正権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

レビュー処理の状態のカスタマイズする方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[レビュー状態]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、変更する状態マークやナビゲーションキーの名前をクリックします。
メッセージに[未レビュー]、[未評価]、[未エスカレーション]のマークは付けられないので、[レビュー]ペインにはこれらの状態のアクセスキーやボタンはありません。
- 3 新しい詳細情報を入力します。
[レビュー]ペインの状態マークボタンには名前が表示されます。そのため、ページが正常に表示されるように短い名前を設定することを推奨します。
- 4 [保存]をクリックします。

Compliance Accelerator システム設定オプションの設定

Compliance Accelerator では、アプリケーションの外観とパフォーマンスをカスタマイズする何百もの設定オプションが提供されます。これらの設定オプションは、表 A-2 に示すように、カテゴリに分類されます。

表 A-2 カテゴリごとの設定

カテゴリ	機能
アドホック検索	ユーザーが自身のリサーチフォルダから開始できる検索を設定します。
診断	Compliance Accelerator トラブルシューティング機能を有効または無効にします。
文書の変換	Compliance Accelerator がレビューペインのプレビューウィンドウでアイテムを開くことができない場合にレビューペインに表示するエラーメッセージをカスタマイズします。
エクスポート/提出物生成	オフラインでレビューするために Compliance Accelerator からアイテムをエクスポートまたは提出物を生成するときの出力を設定します。
全般	Compliance Accelerator の一般オプションを設定します。
ホームページ	Compliance Accelerator のホームページの外観を制御します。
アイテムのプリフェッチキャッシング	Compliance Accelerator プリフェッチキャッシング機構の主な設定を行います。この機構はレビューペインのアイテムのレンダリング速度を上げることを目的としています。
アイテムのプリフェッチキャッシング (詳細)	プリフェッチキャッシング機構の詳細な設定を行います。
ポリシーの統合	Compliance Accelerator をポリシー管理ソフトウェアと統合し、フラグアイテムをレビューセットに含める、またはレビューセットから除外するかを調整します。
プロファイルの同期	ユーザープロファイルとそれに対応する Active Directory アカウントまたは Domino ディレクトリアカウントの Compliance Accelerator による同期方法を制御します。
ランダムキャプチャ	メッセージのランダムサンプリングを設定します。
レビュー	レビューペインの外観や機能をカスタマイズします。
検索	Compliance Accelerator の検索機能を最適化します。

カテゴリ	機能
セキュリティ	Compliance Accelerator でユーザーがアクセス可能な対象に対するチャイニーズウォール型セキュリティ制限を実装します。Compliance Accelerator 検索スケジュールの作成者と所有者に SQL Server の sysadmin としてログオンさせるかどうか也可以选择できます。
システム	Enterprise Vault をインストールしてデータのアーカイブを開始した日付などを記録します。
ボルトディレクトリの同期	Compliance Accelerator と Enterprise Vault アーカイブの同期間隔を設定します。

設定を変更するには、システム設定修正権限が必要です。デフォルトでは、コンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

Compliance Accelerator のシステム設定オプションを設定する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[設定値]タブをクリックします。
- 2 関連付けされた設定を一覧表示するためにセクション名の左のプラス記号をクリックします。

または、ウィンドウの先頭にあるフィルタフィールドに文字を入力し、それらの文字を含んでいる設定オプションの有無を検索します。たとえば **Colour** と入力し、名前にこの単語を含むすべてのオプションを検索します。
- 3 設定の値を変更するには、次の順序で操作します。
 - [値]列の値をクリックします。
 - 目的の値を設定します。
 - [値]列の外をクリックします。
- 4 すべての目的のオプションを設定したら、[保存]をクリックします。
- 5 [再起動が必要]列でチェックマークが付いている設定を変更したら、変更を適用するために Compliance Accelerator サーバーの Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを再起動します。

アドホック検索の設定オプション

次の設定を使って、ユーザーが作成したリサーチフォルダから検索を開始するように設定できます。

アドホック検索の接頭辞

ユーザーがレビューセットに保存するアドホック検索の名前に追加する接頭辞を指定します。

アドホック検索結果からのヒットの削除を許可	レビューセットに検索を受け入れる前にユーザーがフォルダ検索からアイテムを削除できるかどうかを指定します。デフォルトで、 Compliance Accelerator はユーザーがアイテムを削除することを可能にします。
監査履歴をコミットせずにアイテムをコミットすることをユーザーに許可	アイテムに関連付けされたレビューマークとコメントをコミットせずに、レビューアがアイテムをリサーチフォルダからレビューセットにコミットできるかどうかを指定します。このオプションは[アイテムのコミット中にすべての監査履歴をコミット]を選択した場合にのみ使われます。デフォルトでは、レビューセットにアイテムをコミットするとき、 Compliance Accelerator はユーザーがコメントとマークをコミットすると予想します。
アイテムのコミット中にすべての監査履歴をコミット	レビューアが個人用フォルダからレビューセットにアイテムをコミットするとき完全な監査履歴をコミットしなければならないかどうかを指定します。デフォルトでは、 Compliance Accelerator ではコミットする要素をユーザーが任意で選択できます。
フォルダのエクスポート権限用に部門のエクスポート権限を要求	フォルダ内のエクスポート機能を、関連付けされている部門でエクスポートの権限を持つユーザーに限定するかどうかを指定します。デフォルトでは、 Compliance Accelerator がユーザーにこの権限を要求することはありません。
フォルダのレビュー権限用に部門のレビュー権限を要求	フォルダ内のレビュー機能を、関連付けされている部門でレビュー権限を持つユーザーに限定するかどうかを指定します。デフォルトでは、 Compliance Accelerator がユーザーにこの権限を要求することはありません。
フォルダの検索権限用に部門の検索権限を要求	フォルダ内の検索機能を、関連付けされている部門で検索権限を持つユーザーに限定するかどうかを指定します。デフォルトでは、 Compliance Accelerator がユーザーにこの権限を要求することはありません。
代行に共有フォルダを表示	主レビューアがアクセス権を持つフォルダに代行レビューアがアクセスできる範囲を制御します。デフォルトでは、主レビューアが所有するすべてのフォルダについて、代行レビューアは自動的に利用可能になります。ただし、主レビューアがアクセス権を持つその他のフォルダは利用できません。代行レビューアにこれらの共有フォルダへのアクセス権を付与するには、この設定を変更します。

診断の設定オプション

次の設定を使って、Compliance Accelerator トラブルシューティング機能を有効または無効にします。

パフォーマンス 모니터の有効化

Compliance Accelerator パフォーマンスデータを報告するかどうかを指定します。このデータは、Windows のパフォーマンスモニターユーティリティで参照できます。

トレースの有効化

すべてのサーバー処理をイベントログに記録するかどうかを指定します。Compliance Accelerator によってすべてのエラーメッセージと警告メッセージがログに常に記録されるため、イベントログへのトレースは情報イベントのみに適用されます。

重複排除情報の保存

Compliance Accelerator サーバーの Compliance Accelerator プログラムフォルダの DeduplicationInfo サブフォルダ (通常、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault Business Accelerator\DeduplicationInfo) に重複排除情報ファイルを生成するかどうかを指定します。これらの重複排除情報ファイル (平文および XML 形式) は、Veritas のサポートチームが重複排除関連の問題を処理するときに役立ちます。この設定はデフォルトでクリアされ、Compliance Accelerator はこのファイルを作成しません。

検索基準を保存

Compliance Accelerator サーバーの Compliance Accelerator プログラムフォルダの SearchCriteria サブフォルダに検索基準ファイルを生成するかどうかを指定します。平文と XML 形式のこれらのファイルは、Veritas のサポートチームが検索関連の問題を処理するときに役立ちます。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこのファイルを作成しません。

p.203 の「[Compliance Accelerator の検索で予期しない結果が返される](#)」を参照してください。

XML 検索アイテムを保存してコミット

アイテムの XML ファイルを保存して、サーバーのサブフォルダの下のデータベースにコミットするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator は XML ファイルを保存しません。

XML 検索結果を保存

Compliance Accelerator サーバーの Compliance Accelerator プログラムフォルダの SearchResults サブフォルダに検索結果ファイル (検索対象の各 Enterprise Vault アーカイブにつき 1 つ) を生成するかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこのファイルを作成しません。

文書の変換の設定オプション

Compliance Accelerator 次の設定を使って、クライアントのレビューペインに表示されるエラーメッセージをカスタマイズします。

変換エラー

Compliance Accelerator がレビューペインのレビューウィンドウにアイテムを表示できない場合に、エラーメッセージを表示するように指定します。各メッセージには最大 200 文字まで入力できます。

エクスポートまたは提出物生成の設定オプション

次の設定を使って、ユーザーがオフラインでレビューするために Compliance Accelerator からアイテムをエクスポートするときの出力を設定します。

エクスポートされたファイルシステムアイテムに通し番号を追加

Enterprise Vault がファイルシステムアーカイブ (FSA) によってアーカイブした、エクスポートされた各アイテムのファイル名に、アイテムを識別する通し番号を追加するかどうかを指定します。

オプションは次のとおりです。

- 0. 通し番号を省略します。
- 1. ファイル名の先頭に通し番号を追加します。このオプションはデフォルトのオプションです。
- 2. ファイル名の末尾に通し番号を追加します。

エクスポートされたファイルシステムアイテムに常に日付スタンプを追加

Enterprise Vault がファイルシステムアーカイブ (FSA) によってアーカイブした、エクスポートされた各アイテムのファイル名に、最終変更日のスタンプを追加するかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator は日付スタンプを追加します。

自動再試行: 最大再試行回数

何らかの理由で失敗したエクスポート実行を Compliance Accelerator が繰り返す試行の最大数を指定します。値を 0 (ゼロ) に設定すると、Compliance Accelerator は再実行を停止します。

自動再試行: 再試行までの最小時間 (分)	<p>失敗したエクスポート実行または提出物生成実行を自動再試行する最小間隔を分単位で指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator は 5 分間隔で再試行します。</p> <p>Compliance Accelerator は、この値に再試行の回数を掛けることに注意します。したがって、この値が 5 の場合、最初の再試行は、5 分後に行われ、その後の再試行は、10 分後、15 分後、といったように増加していきます。</p>
カスタム変換拡張子	<p>Compliance Accelerator の外部で表示するためにアイテムをエクスポートする場合に作成するファイル名の拡張子を指定します。たとえば、Microsoft Excel 形式のエクスポートファイルの拡張子には .xls を指定します。</p>
カスタム変換ファイル	<p>ファイルをカスタム形式でエクスポートするときに使うテンプレートファイル名を指定します。たとえば、アイテムを Microsoft Excel 形式でエクスポートするためのテンプレートファイルを作成している場合、ファイル名として ExcelReport.xslt と入力できます。</p>
デフォルトのエクスポートフォルダ	<p>エクスポートされたアイテムに使う Compliance Accelerator サーバーのデフォルトフォルダを指定します。デフォルトのエクスポートフォルダを指定しない場合、Compliance Accelerator は c:\¥Compliance Accelerator Export¥customer_name フォルダを使用します。</p> <p>フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。</p>
デフォルトの提出物生成状態	<p>エクスポート実行時にデフォルトの現在の状態として設定する状態を指定します。</p> <p>次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0. 該当なし。 ■ 1. 保留 ■ 2. レビュー済み ■ 3. 問題あり
PST と MSG に Unicode をデフォルトで 使用	<p>PST ファイルと MSG ファイルを Unicode (Outlook 2003 以降) と ANSI (Outlook 97 から 2002) のどちらの形式でエクスポートするかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はアイテムを Unicode 形式でエクスポートします。</p>

Domino エクスポートテンプレート	ファイルを Notes Database Template (NTF) ファイルにエクスポートするときにテンプレートとして使うファイルの名前を指定します。デフォルトのファイル名は accelexp.ntf です。
Domino ID ファイル	ファイルを NTF ファイルにエクスポートするときにローカルの Domino 認証で使う .id ファイルの名前を指定します。デフォルトのファイル名は Accelerator.id です。
Domino パスワード	ファイルを NTF ファイルにエクスポートするときにローカルの Domino 認証で使うパスワードを指定します。
提出物生成スレッドの有効化	すべてのエクスポート機能と提出物生成機能を有効と無効のどちらにするかを指定します。デフォルトでは、 Compliance Accelerator はこの機能を有効にします。
HTML 変換ファイル	XSL スタイルシートをダウンロード、編集、アップロードできます。このスタイルシートは、 Compliance Accelerator が HTML 形式で生成するすべてのエクスポートレポートのテンプレートとして使われます。
処理速度の遅いデバイスに格納されたアイテムの提出物生成の最大再試行回数	Compliance Accelerator がテープドライブなどのオフラインデバイスからアイテムを取り込む試行回数を指定します。 1 から 1000 までの値を入力します。デフォルト値は 120 です。
処理速度の遅いデバイスに格納されたアイテムを再試行する最小間隔 (分)	オフラインデバイスからのアイテムの取り込みを試行する場合、 Compliance Accelerator が何分間隔で再試行するかを指定します。 1 から 300 までの値を入力します。デフォルト値は 5 です。
提出物生成レポートのスレッド数	Compliance Accelerator がエクスポート実行のレポートの生成に割り当てるスレッドの番号を指定します。デフォルトは 5 です。

提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数	<p>Compliance Accelerator によって各エクスポート実行または提出物生成実行に割り当てられている SQL 接続プール内のスレッド数を指定します。1 から 25 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 25 です。</p> <p>[カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数] 設定も参照してください。</p> <p>同時に行なうことができるエクスポート実行または提出物生成実行の最大数を判断するには、[カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数] を [提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数] で割ります。たとえば、前者の設定に 100 を指定し、後者の設定に 25 を指定した場合、最大で 4 つのエクスポート実行が提出物生成実行を同時に行なうことができます。それ以上のエクスポート実行または提出物生成実行を行なおうとした場合、Compliance Accelerator は必要な数のスレッドが利用可能になるまでキューにそれらを保持します。</p>
RunDate による提出物生成の検索順序	<p>エクスポート実行の基準を設定するときに Compliance Accelerator がリストする検索の順序を設定します。名前順または実行日順で検索をソートできます。デフォルトでは、Compliance Accelerator は名前順でソートします。</p>
PST の[エクスポート ID]列の名前	<p>Microsoft Outlook で、Compliance Accelerator エクスポート ID を表示する列のラベルを指定します。デフォルトのラベルは「通し番号」です。個人用フォルダ (.pst) のファイルとして Compliance Accelerator からアイテムをエクスポートして、このファイルを Outlook にインポートすると、アイテムのエクスポート ID がこの列に表示されます。</p> <p>p.134 の「エクスポート ID を Microsoft Outlook で表示」を参照してください。</p>
PST フォルダ名	<p>Compliance Accelerator からエクスポートした個人用フォルダ (.pst) ファイルをインポートした後でアイテムを配置する Outlook フォルダを指定します。</p>
レポートのチャンクサイズ	<p>各レポートファイルに一覧表示するエクスポートされたアイテム数を指定します。デフォルトは 25000 です。</p>

エクスポート実行時に PST バージョンのオプションを表示	エクスポート実行を行う際に、Compliance Accelerator がユーザーに PST バージョン (Outlook 97 - 2002 (ANSI) または Outlook 2003 (Unicode)) を選択するように要求するメッセージを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はメッセージを表示しません。
TAB 変換ファイル	XSL スタイルシートをダウンロード、編集、アップロードできます。このスタイルシートは、Compliance Accelerator がタブ区切り形式で生成するすべてのエクスポートレポートのテンプレートとして使われます。
カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数	エクスポート実行または提出物生成実行を行なうときに Compliance Accelerator が割り当てる、カスタマーあたりのスレッドの最大数を指定します。50 から 1000 までの値を入力します。デフォルト値は 100 です。 [提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数]設定も参照してください。

全般設定オプション

次の設定を使って、Compliance Accelerator の全般オプションを設定します。

[ユーザーの追加] ページの更新間隔	Compliance Accelerator が [ユーザーの選択] ダイアログボックスを更新する頻度を秒単位で指定します。このダイアログボックスは Compliance Accelerator に追加するユーザーアカウントを選択することを可能にします。このダイアログボックスは、従業員のプロパティのページの [参照] をクリックすると表示されます。1 から 300 の範囲で値を指定し、デフォルト値は 10 です。
ロードするアーカイブの数が [この] しきい値を超えたらアーカイブペインに警告を表示する	Compliance Accelerator クライアントの [検索するアーカイブ] ペインにロードするアーカイブの数に対してしきい値の数を指定します。アーカイブの数が現在の選択と一致し、フィルタ基準がこのしきい値を超える場合、基準を変更してアーカイブの数を減らす警告メッセージが表示されます。50,000 から 200,000 の範囲で値を指定します。デフォルト値は 50,000 です。
検索での重複排除の有効化	検索結果のアイテムを重複排除するかどうかを指定します。この設定はデフォルトで選択され、Compliance Accelerator はアイテムを重複排除します。Compliance Accelerator はランダムにサンプリングされたアイテムを重複排除しないことに注意してください。

アカウントセレクト内の「\$」で終わる Active Directory アカウントを非表示	Active Directory アカウントを選択する Compliance Accelerator の領域で、名前が文字 \$ で終了するアカウントを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこのアカウントを表示します。
サンプリングヒットなしでフィルタに検索を一覧表示	検索によってアイテムをフィルタ処理するとき、アイテムを取得できなかった検索をリストから省くかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこの検索を表示します。
名の後に姓を表示	従業員の姓と名を表示する順序を指定します。デフォルトでは、名は姓の前に表示されます。名前が通常反対になる日本のような国で作業する場合は、このオプションをクリアすることもできます。
フィルタに検索サンプル数を表示	レビューペインのような Compliance Accelerator の領域で、リストにある各検索の名前にサンプルサイズを追記するかどうかを指定します。したがって検索で 200 のヒットがあり、監視ポリシーでキャプチャされたアイテムの 10 % をレビューセットに追加する必要がある場合、Compliance Accelerator は [My Search [20]] のように検索を表示します。 デフォルトでは、Compliance Accelerator はサンプルサイズを表示します。

ホームページの設定オプション

次の設定を使って、Compliance Accelerator のホームページの外観を制御します。

ホームページの[例外]を一覧表示	Compliance Accelerator のホームページに個々の例外の一覧を表示と非表示のどちらにするかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator は例外を一覧表示します。
ホームページに表示するエクスポートの最大数	Compliance Accelerator がアプリケーションのホームページに一覧表示できるエクスポート実行数の制限を設定します。デフォルトは 30 です。
ホームページに表示する検索の最大数	Compliance Accelerator がアプリケーションのホームページに一覧表示できる検索数の制限を設定します。デフォルトは 30 です。
ホームページに表示するタスクの最大経過時間 (日数)	Compliance Accelerator がアプリケーションのホームページに表示できる、タスク用のデータの最大経過時間を指定します。デフォルトは 30 日です。

[全コンテナ]の[レビュー]リンクを表示	Compliance Accelerator のホームページの[メッセージのレビュー]列の最上部に[すべての部門]リンクを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこのリンクを表示します。
[エスカレーション]の[全コンテナ]の[レビュー]リンクを表示	Compliance Accelerator のホームページの[エスカレーションメッセージ]列の最上部に[すべての部門]リンクを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこのリンクを表示します。
ホームページにフォルダを表示	Compliance Accelerator のホームページの個々のリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はフォルダを一覧表示します。
レビューアの統計をレビューアに表示	アプリケーションのホームページで、レビューアが他のレビューアの統計を参照できるかどうかを指定します。デフォルトでは、すべてのレビューアが統計を参照できます。

アイテムのプリフェッチキャッシュの設定オプション

次の設定を使って、Compliance Accelerator プリフェッチキャッシュ機構を設定します。このしくみは、ユーザーがレビューするように選択した時間に各アイテムを取り込むかわりに、毎晩スケジュールされた時間帯にボルトストアからアイテムを取り込み、キャッシュします。そのため、キャッシュによってレビューペインのアイテムのレンダリング速度を上げることができます。キャッシュのサイズ、場所、その他の特性を指定できます。

非常に集中的にアイテムをレビューする環境でパフォーマンスを最適化するために、次のことを推奨します。

- 利用可能な中で最速のストレージを使い、パーティションに空きがないものは除外して I/O の競合がないようにします。
- パーティションサイズに一致するキャッシュ内での最大サイズを設定します。
- キャッシュの有効期限を 365 日間に設定します。
- HTML と MSG でアイテムを完全に取り込むようにキャッシュを設定します。アイテムをエクスポートする必要がない場合は、HTML だけでアイテムを取り込むように選択できます。

[アイテムのプリフェッチキャッシュ]オプションは一般的に使われるキャッシュのオプションです。また[アイテムのプリフェッチキャッシュ (詳細)]も設定できます。

キャッシュの有効化

プリフェッチキャッシュを有効と無効のどちらにするかを指定します。デフォルトでは、**Compliance Accelerator** はキャッシュを無効にします。したがって、プリフェッチは実行されず、キャッシュにアイテムがあっても、キャッシュはアイテムの取り込みに使われません。アイテムを有効にレビューする、または遅いストレージに接続してエクスポートを実行する **Compliance Accelerator** データベースのキャッシュを有効にするだけです。

キャッシュはデータベース全体で有効または無効のどちらかであることを注意します。

キャッシュの場所

キャッシュを格納するフォルダのローカルパスまたはネットワーク共有パスを指定します。**Compliance Accelerator** は、このフォルダ内で `AcceleratorPrefetch_CustomerId` というサブフォルダにプリフェッチされたファイルを格納します。次の点に注意してください。

- 可能な場合、ローカルパスを指定することが推奨されます。ネットワーク共有パスを指定する必要がある場合は、マップしたドライブではなく、常に **UNC** パスを使います。
- フォルダはすでに存在している必要があります。**Compliance Accelerator** はフォルダを作成しません。
- ホスティング環境では、複数のカスタマーが同じフォルダを共有することはできません。

キャッシュアイテムの最大経過日数 (日)

アイテムが **Compliance Accelerator** によって自動的にキャッシュから削除されるまでキャッシュに残る日数を指定します。アイテムの経過日数は、キャッシュ内のファイルの作成時刻に基づき、**Compliance Accelerator** がアイテムをキャプチャした時刻や、アイテムが最初に送信された時刻は関係ありません。デフォルトの経過日数は **5 日間**です。

キャッシュに空きがなくなった場合、**Compliance Accelerator** はアイテムの最大経過日数よりも前にキャッシュからアイテムを削除することがあります。

キャッシュの最大サイズ (MB)

キャッシュの最大サイズ (MB) を指定します。デフォルトは **1000 MB** です。[キャッシュアイテムの最大経過日数 (日)] 設定の値が大きいほど、より多くのアイテムを収容できるようにキャッシュの最大サイズの値を大きくする必要があります。

プリフェッチの終了時刻 (サーバーのローカル時間)	<p>Compliance Accelerator がアイテムのプリフェッチを停止する時刻を指定します。デフォルトは 05:00 です。プリフェッチがアクティブになる時間帯を決定するには、この設定を[プリフェッチの開始時刻]とともに選択します。キャッシュ作成を行わない期間を設定すると、この期間に Enterprise Vault のバックアップなど他の保守活動を行うことができます。</p> <p>プリフェッチを常にアクティブにするには、このオプションと[プリフェッチの開始時刻]に同じ時刻を設定します。</p>
プリフェッチの開始時刻 (サーバーのローカル時間)	<p>Compliance Accelerator がアイテムのプリフェッチを開始する時刻を指定します。デフォルトは 20:00 です。プリフェッチがアクティブになる時間帯を決定するには、この設定を[プリフェッチの終了時刻]とともに使います。キャッシュ作成を行わない期間を設定すると、この期間に Enterprise Vault のバックアップなど他の保守活動を行うことができます。</p> <p>プリフェッチを常にアクティブにするには、このオプションと[プリフェッチの終了時刻]に同じ時刻を設定します。</p>

アイテムのプリフェッチキャッシュ (詳細) の設定オプション

これらの設定では、**Compliance Accelerator** プリフェッチキャッシュ機能の設定用の追加詳細オプションが表示されます。この設定は、[アイテムのプリフェッチキャッシュ]オプションとともに使います。

キャッシュの暗号化	<p>ファイルをキャッシュに格納する前に暗号化するかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はキャッシュを暗号化しません。</p>
キャッシュのパージ時刻 (サーバーのローカル時間)	<p>Compliance Accelerator がキャッシュのハウスキーピング (主に古いアイテムの削除) を実行する時刻を指定します。デフォルトの時刻は午後 7 時です。</p>
キャプチャの最大経過日数 (日)	<p>キャプチャされたアイテムのうち、指定された日数よりも古いアイテムをキャッシュから除外します。デフォルトは 3 日です。この設定は、プリフェッチが最初に有効になるとき、または一定期間無効だった後に再度有効になる場合にだけ影響します。</p>
アイテムのフェッチの最大試行回数	<p>Compliance Accelerator がアイテムのプリフェッチを試行する最大回数を指定します。デフォルトは 10 です。</p>

キャッシュに格納するアイテムの最大サイズ (バイト)	Compliance Accelerator がプリフェッチ可能なアイテムのサイズとアイテムの一部に対して限度を設定します。1 アイテムまたはアイテムの一部がこの限度を超えると、そのアイテムは無視されます。デフォルトは 10 MB です。たとえば、サイズが 10 MB 以下の複数のファイルが添付され、合計のサイズが限度の 10 MB をはるかに超えるアイテムであっても、Compliance Accelerator はプリフェッチします。
アイテムのフェッチを再試行するまでの最小時間 (分)	Compliance Accelerator がアイテムのプリフェッチを試行する間隔を分単位で指定します。デフォルトは 30 分です。失敗したフェッチの再試行を設定する場合は、[アイテムのフェッチの最大試行回数]とともにこの設定を使います。
添付ファイルのプリフェッチ	アイテムの添付ファイルをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator は添付ファイルをプリフェッチします。入れ子になっているアイテムの添付ファイルはプリフェッチされません。
添付ファイルを HTML としてプリフェッチ	添付ファイルをプリフェッチするときに HTML としてレンダリングするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator は添付ファイルを HTML としてプリフェッチします。
保証されたサンプルの検索アイテムのプリフェッチ	保証されたサンプル検索の結果がプリフェッチの対象になるかどうかを指定します。デフォルトでは、対象になります。
即時検索アイテムのプリフェッチ	ユーザーがスケジュール設定していない即時検索でキャプチャしたアイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこれらのアイテムをプリフェッチしません。
ネイティブ形式でのプリフェッチ	アイテムを元のネイティブ形式でプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトで、Compliance Accelerator はアイテムをネイティブ形式でプリフェッチしません。ただし、ポリシーがアイテムを元の形式でレビューするようになっている場合は、この機能を有効にする必要があります。
ランダムサンプリングアイテムのプリフェッチ	ランダムサンプリングによって取得したアイテムがプリフェッチの対象になるかどうかを指定します。デフォルトでは、対象になります。最良の結果を導くには、夜間のランダムサンプリングのタスクが完了した後にプリフェッチが適切な期間アクティブであることを確認します。

リサーチアイテムのプリフェッチ	<p>ユーザーがアドホック検索で個人用フォルダに配置しているアイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこれらのアイテムをプリフェッチします。</p>
スケジュール設定済みの検索アイテムのプリフェッチ	<p>ユーザーがスケジュール設定済みの検索でキャプチャしたアイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこれらのアイテムをプリフェッチします。</p> <p>アイテムは検索が受け入れられた場合にのみプリフェッチされるため、このオプションはスケジュール設定済みの検索が自動的に受け入れられるように設定されている場合に最適に機能します。</p>
検索アイテムのプリフェッチ	<p>ユーザーが検索でキャプチャしたアイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。この機能を[即時検索アイテムのプリフェッチ]オプションと[スケジュール設定済みの検索アイテムのプリフェッチ]オプションとともに使うと、さらに詳細に制御できます。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこれらのアイテムをプリフェッチします。</p>
XML 構造のプリフェッチ	<p>アイテムの XML 構造をプリフェッチするかどうかを指定します。この構造はアイテムの一部を定義し、添付ファイルの一覧が含まれます (ただし添付ファイル自体は含まれません)。XML 構造はレビューペインのレビューペインに使われます。XSL Transform は HTML に変換するために XML に適用されます。デフォルトでは、Compliance Accelerator は XML 構造をプリフェッチします。</p>
メッセージレビュー用に HTML でレンダリング	<p>HTML 形式でレビューするために、アイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はアイテムをこの形式でプリフェッチします。</p> <p>アイテムをプリフェッチすると、Compliance Accelerator はレビュー時に XML から HTML へのレンダリングを実行する必要がないため、レビューのパフォーマンスが改善されます。このことは、多数のレビューアが同時に作業しているシステムで最も有益です。</p>

印字可能な HTML でレンダリング	アイテムの印刷可能バージョンを HTML 形式でプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトで、 Compliance Accelerator はアイテムを HTML 形式でプリフェッチしません。ただし、印刷可能な表示機能を定期的に使うことが予想できる場合は、この設定を変更することを推奨します。
再試行記録の保持期間 (日)	Compliance Accelerator がアイテムのプリフェッチを繰り返し試行して失敗した記録を保持する期間を指定します。デフォルトは 30 日です。

ポリシーの統合の設定オプション

これらの設定を使って、**Compliance Accelerator** をポリシー管理ソフトウェアと統合し、フラグアイテムをレビューセットに含める、またはレビューセットから除外するかを調整します。

常にレビューグリッドのポリシー表示を表示	レビューペインに関連付けされたポリシーがないアイテムをプレビューするとき、アイテム上のポリシーのフィールドを示すかどうか指定します。デフォルトでは、関連するポリシーがない場合、 Compliance Accelerator はこのフィールドを非表示にします。
種類でポリシーをソート	<p>レビューペインに存在するアイテムをプレビューした場合、アイテム上部にあるバナーに関連するポリシーを一覧表示する順序を指定します。次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0. ポリシーはソートされません。 ■ 1 (デフォルト)。ポリシーは、ポリシーの種類 (含まれる、除外、カテゴリ) でグループ化されてから、種類ごとにアルファベット順でソートされます。 ■ 2. ポリシーは、ポリシーの種類に関係なく、アルファベット順でソートされます。 <p>ソート順を変更しても、Accelerator データベースにすでに存在するアイテムはソートされません。新たに追加したアイテムのみがソートされます。</p>

プロファイルの同期の設定オプション

次の設定を使って、従業員プロファイルとそれに対応する **Active Directory** アカウントまたは **Domino** ディレクトリアカウントの **Compliance Accelerator** による同期方法を制御します。

削除されたプロフィールを自動的に検出し、非アクティブとして記録	Compliance Accelerator が、対応する Active Directory アカウントまたは Domino ディレクトリアカウントを見つけない従業員プロフィールを自動的に非アクティブにするかどうかを指定します。プロフィールを非アクティブ化すると、すべてのパーミッション、グループおよび部署の所属がそこから削除されます。
プロフィール作成時のデフォルトの Domino ドメイン	従業員を Domino アカウントに同期させるときにユーザー名に自動的に追加するドメインを指定します。
ユーザーの参照時のデフォルトの Domino サーバー	Compliance Accelerator システムに追加する新しいユーザーを参照するときに使うデフォルトの Domino LDAP サーバーの名前を指定します。
ユーザーの参照時にデフォルトの Domino サーバーを使うように強制	Compliance Accelerator システムに新しいユーザーを参照するときにデフォルトサーバー以外の Domino LDAP サーバーを選択できないようにします。デフォルトでは、Compliance Accelerator で、すべての Domino サーバーを指定できます。
プロフィールが非アクティブになるまで待機する最小日数	Compliance Accelerator が、一致する Active Directory アカウントまたは Domino ディレクトリアカウントを見つけない従業員プロフィールを自動的に非アクティブにするまでの日数を指定します。
プロフィールが非アクティブとなる失敗した同期の最小数	Compliance Accelerator が、対応する Active Directory アカウントまたは Domino ディレクトリアカウントと従業員プロフィールの同期に失敗できる回数を指定します。この回数を超えるとプロフィールは非アクティブになります。
同期スレッドの数	従業員プロフィールを対応する Active Directory アカウントまたは Domino ディレクトリアカウントに同期させるときに Compliance Accelerator が使うスレッド数を指定します。1 から 5 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 1 です。

Domino または Active Directory に存在しないアドレスを削除	Active Directory か Domino ディレクトリにプロファイルを同期する前に Compliance Accelerator が従業員プロファイルの電子メールアドレスを削除するかどうかを指定します。デフォルトでは、 Compliance Accelerator はこのアドレスを削除しません。これは、古い電子メールアドレスを使って検索を実行したり、手動で追加の電子メールアドレスを入力したりしている場合があるためです。
同期間隔 (時間)	Compliance Accelerator が従業員のプロファイルに対応する Active Directory アカウントまたは Domino ディレクトリアカウントに同期させる間隔を時間単位で指定します。1 から 24 の範囲で値を入力します。デフォルトは 8 時間ごとと Accelerator マネージャサービスの起動時です。
プロファイルの同期	Compliance Accelerator が従業員とグループを、対応する Active Directory アカウントまたは Domino ディレクトリアカウントに同期させるかどうかを指定します。デフォルトでは、同期が試行されます。
サービスの起動時に同期するまで待機(分)	Accelerator マネージャサービスの起動後、 Active Directory か Domino ディレクトリに従業員とグループを同期するまで待機する時間を分単位で指定します。0 から 720 の範囲で値を入力します。デフォルトでは、サービスは待機せずに同期を行います。

ランダムキャプチャの設定オプション

これらの設定を使用して、アイテムのランダムサンプリングを設定します。

キャッシュのバックアップの場所	[キャッシュの安全モード]が有効になっている場合に、キャッシュフォルダの場所を指定します。パフォーマンス上の理由からローカルパスを入力することをお勧めしますが、ネットワーク共有のパスも入力できます。 Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを実行しているアカウントには、このフォルダへのフルアクセス権が必要です。フォルダが存在せず、サービスが適切な権限を持つ場合は、フォルダが作成されます。
-----------------	--

サンプリング時刻 (サーバーのローカル時間)	<p>主要なサンプリングの時間に達する前にサンプリングの一部をサーバーに解決させることにより、サンプル時のトランザクションの解決に伴う負荷を軽減します。この時点で、キャプチャされるアイテムのトランザクションは解決されます。デフォルトの時刻は午後 8 時です。</p> <p>この設定は以前のバージョンの Compliance Accelerator が取得し、処理やサンプリングの必要があるアイテムにのみ適用されます。Compliance Accelerator 11.0.1 以降、トランザクションの解決は行われません。Compliance Accelerator は既にポピュレートされた保存セット ID (SSID) を持つデータベースにアイテムを追加します。</p>
未解決アイテムの最大経過期間 (時間)	<p>Compliance Accelerator が、まだレビューセットに移動していないサンプルアイテムを一時的なストレージから削除するまでの時間を時間単位で指定します。1 から 672 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 96 です。この設定は[最大解決試行回数]とともに使われます。両方の条件が満たされると削除されます。</p>
最大解決試行回数	<p>アイテムを削除する前に、Compliance Accelerator がアイテムをレビューセットに移動するまでの最大試行回数を指定します。1 から 500 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 5 です。この設定は[未解決アイテムの最大経過期間]とともに使われます。両方の条件が満たされると削除されます。</p>
レビューレポートの証拠として追加の統計を記録	<p>Compliance Accelerator はレビューの証拠レポートで使う追加データを収集するようになります。</p> <p>Compliance Accelerator が保持している tblMessageAddress データベーステーブルの余分なデータが結果に応じて大きくなる場合があります。</p>

サンプリングモード

アイテムの「保証」と「統計」のどちらのサンプリングを使うかを指定します。

保証サンプリング (デフォルトで 1) では、**Compliance Accelerator** は常にすべての監視対象従業員のすべてのアイテムをキャプチャします。午前 0 時後、それは各従業員のアイテムからランダムサンプルを選び、レビューセットにそれらを追加します。保証サンプリングを選択すると、**Compliance Accelerator** がレビューセットに追加するアイテム数に上限を設定できません。

統計サンプリング (0) では、**Compliance Accelerator** は 24 時間以内にキャプチャされたアイテムのランダムサンプルを抽出し、レビューセットに追加します。つまり、従業員によっては、まったく同じ監視割合を持つ他の従業員よりもキャプチャされるアイテム数が少ない場合もあります。

最初に実行されるサンプリング時刻 (サーバーのローカル時間)

Compliance Accelerator が 24 時間以内にサンプリングされたアイテムをレビューセットに入れる時刻を指定します。デフォルトの時刻は 01:00 です。この場合、24 時間以内にサンプリングされたアイテムは、処理完了後、ローカル時間の午前 1 時以降にレビューセットに表示されます。

古い設定タイムアウト (分)

Enterprise Vault ストレージサーバーのコンプライアンスのサンプリング処理を **Compliance Accelerator** カスタマーデータベースの設定データと同期する頻度を指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 60 です。

古い設定の使用期間 (時間)

Compliance Accelerator カスタマーデータベースの設定データとの同期に失敗した後に **Enterprise Vault** ストレージサーバーのコンプライアンスのサンプリング処理でアイテムのサンプリングを続ける期間を指定します。同期の試行が失敗した後、サンプリングはキャッシュに保存された顧客の構成データに基づいて行われます。0 から 168 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 6 です。

レビューの設定オプション

次の設定を使って、レビューペインを設定します。

デフォルトのページサイズ

レビューペインに表示するアイテムのデフォルト数を指定します。1 から 1000 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 100 です。

マーク付けの一覧を表示

レビューペインで (ページの下部のクリック可能なオプションまたはドロップダウンリストとして) 利用可能なマークの表示方法を指定します。デフォルトで、**Compliance Accelerator** は、マークをドロップダウンリストのオプションとしてではなくクリック可能なオプションとして表示します。

ECM 一時ストレージ領域

Enterprise Vault Content Management API を使って取り込んだアイテムを一時的に格納するフォルダのパスを指定します。デフォルトでは、**Compliance Accelerator** は **Windows** の %TEMP% フォルダを使います。

次の点に注意してください。

- 可能な場合、ローカルパスを指定することが推奨されます。ネットワーク共有パスを指定する必要がある場合は、マップしたドライブではなく、常に **UNC** パスを使います。
- フォルダはすでに存在している必要があります。**Compliance Accelerator** はフォルダを作成しません。
- ホスティング環境では、複数のカスタマーが同じフォルダを共有することはできません。

ECM 一時ストレージ領域のクリーンアップ
間隔 (分)

古いデータを一時ストレージ領域から削除する間隔を分単位で指定します。デフォルト値は **5** 分です。

表示しないファセット

レビューペインでユーザーに利用させないフィルタオプションを、カンマ区切りの一覧で指定します。次に利用可能なオプションを示します。

appraisalid、appraiserid、author、capturedate、capturetype、commentid、direction、escalatedbyid、escalationid、escalationownerid、maildate、numattachments、policyaction、policyid、reviewerid、scheduledsearchid、searchid、size、type。

レビューセットに存在する場合のフォルダ
アイテムの色

関連付けされたレビューセットにすでにあるリサーチフォルダのアイテムを識別する色を指定します。デフォルトの色は青です。

背景色をハイライト

アイテムの **HTML** レンダリングで、検索用語のインスタンスをハイライトする背景色を指定します。「**Yellow**」(デフォルトの色) のように色の名前を入力したり、「**#FFFF00**」のように **RGB** 値を入力したりできます。

文字表示色をハイライト	アイテムの HTML レンダリングで、検索用語のインスタンスをハイライトする前景色を指定します。「Black」(デフォルトの色) のように色の名前を入力したり、「#000000」のように RGB 値を入力したりできます。
ヒットのハイライトの種類	アイテムの HTML レンダリングで、検索のハイライトを有効と無効のどちらにするかを指定します。アイテムの検索用語のインスタンスをハイライトする場合は値に 1 (デフォルト) を設定し、ハイライトを無効にする場合は 0 を設定します。
アイテムロック解除スレッド	誤ってロックされたままになっているアイテムのロックを解除するロッククリーンアップスレッドを有効にするか無効にするかを指定します。たとえば、レビューセッション中にレビューアのコンピュータまたは Compliance Accelerator クライアントが停止した場合などです。デフォルトでは、このスレッドは有効です。
件名がないメッセージのラベル	件名がないアイテムに割り当てる件名を指定します。デフォルトは「No Title」です。
アイテム履歴にプレビュー処理を記録	<p>true に設定すると、レビューアがレビューペインでアイテムをプレビューするか、その印刷可能なバージョンを表示するか、またはアイテムの元のバージョンをダウンロードするときに Compliance Accelerator はアイテム履歴にその処理を記録します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこれらの処理を記録しません。</p> <p>レビューペインのアイテムのこれらの処理を記録することを選択しても、ユーザーがリサーチフォルダで実行した検索の結果は、ユーザーの処理が記録されることなく、引き続き検索ペインでプレビューできます。これを防止するには、[検索結果のプレビューを無効化]オプションを設定します。</p> <p>p.181 の「検索の設定オプション」を参照してください。</p>
最大ページサイズ	ページに一覧表示する、レビューセット内のアイテムの最大数を指定します。1 から 300 までの値を入力します。デフォルト値は 300 です。
ユーザーが自分自身に一時的に割り当てることができる最大アイテム数	レビューでユーザーが自分自身に一時的に割り当てることができるアイテム数の制限を設定します。デフォルトは 10000 です。

自己レビューの禁止

(すべての **Compliance Accelerator** カスタマーに適用される、アプリケーション全体を対象としたオプション。)例外従業員としても指定したレビューアについて、それらのレビューア自身が送受信したアイテムをレビューできないようにするかどうかを指定します。デフォルトでは、**Compliance Accelerator** は、そのようなユーザーが自分のアイテムをレビューすることを許可します。この場合、例外従業員が非例外従業員に送信したアイテムが、次のレビューセットの両方に表示される可能性があります。

- 例外レビューアのレビューセット(送信者が例外従業員であるため)。例外従業員はこのレビューセットにアクセスできません。
- 部門レビューセット(受信者が例外従業員ではないため)。アイテムを送信した例外従業員は、部門レビューアロールによってこのレビューセットにアクセスし、アイテムにレビューマークを割り当てることができる可能性があります。

このオプションを **true** に設定すると、このような場合に自己レビューが禁止されます。

p.105 の「[\[自己レビューの禁止\]オプションで例外従業員のレビューアクティビティを制限する方法](#)」を参照してください。

このオプションはエスカレーションレビューアには適用されません。このオプションを **true** に設定しても、エスカレーションレビューアは自分のアイテムを自己レビューできます。

グリッドファイルをレビュー

すべてのユーザーのレビューペインの列のレイアウトを定義する **XML** ファイルをダウンロードまたはアップロードできます。

p.190 の「[レビューペインの列のカスタマイズ](#)」を参照してください。

レビューセットの有効期限 (分)

ユーザーのレビューセットの有効期限が切れた後、非アクティブになる時間を分単位で指定します。デフォルト値は **120** 分です。

レビュー用に HTML を無害化

レビュー前に **HTML** アイテムを前処理して、ナビゲーション問題を起こすかもしれないスクリプトを削除するかどうかを指定します。デフォルトでは、**Compliance Accelerator** はアイテムを前処理します。

評価 UI を表示	ユーザーに評価状態適用権限がある場合、レビューペインとエクスポートペインで評価システム機能を表示と非表示のどちらにするかを指定します。
レビューセットの作成またはソートに対するタイムアウト (秒)	タイムアウトになる前に、レビューセットの作成またはソートを行う必要がある秒数を指定します。デフォルトは 300 です。

検索の設定オプション

次の設定を使って、Compliance Accelerator の検索機能を最適化します。

既存のアイテムの検索とキャプチャを許可	新しい検索の基準を設定するときに、以前にキャプチャされたアイテムを検索の結果に含めることを選択できるかどうか指定します。デフォルトで、そうするオプションが選択されます。
前回の実行以降のバッファ	<p>新しい検索の基準の定義に使うスケジュールを選択するときに、[日付範囲]セクションで[前回の実行以降]を選択できます。このオプションにより、このスケジュール済みの検索を前回実行した後で受信した新しいアイテムを検索するように Compliance Accelerator に指示します。[開始日]フィールドには、検索の最初の実行の開始点となる日付を入力します。</p> <p>デフォルトでは、[前回の実行以降]を選択すると、前回の検索が実行された日付 (初回の検索の場合は [開始日] の日付) から現在の日付の 1 日前 (昨日) までの範囲が検索対象となります。必要に応じてこの間隔を変更し、現在の日付の n 日前までを検索できます。1 日に複数回実行する検索で [前回の実行以降] を使うには、間隔を 0 に設定します。</p>
件名と内容のフィールドを「OR」で組み合わせる	アイテムの件名と内容の両方で単語を検索するとき、1 つの基準に一致するアイテムのみを見つけるか、両方の基準に一致するアイテムを見つけるかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator は両方の基準を満たすアイテムのみを検索します。
その他の部門の検索の無効化	新しい検索の基準を定義するときに、[作成者と受信者]領域で[その他の部門]オプションを利用可能にするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator は他部門の検索を実行できません。

検索結果のプレビューを無効にする (Disable search results preview)	<code>true</code> に設定すると、リサーチフォルダで検索を実行するユーザーが検索結果をプレビューできなくなります。デフォルトでは、 Compliance Accelerator はユーザーによるこれらのアイテムのプレビューは抑止されません。
インデックスボリュームの自動同期の有効化	Compliance Accelerator が検索の間に不明なインデックスボリュームを検出したときに自動的にアーカイブのインデックスボリュームを同期する必要があるかどうかを指定します。デフォルトでは、 Compliance Accelerator はインデックスボリュームを自動的に同期します。
検索スレッドの有効化	すべての検索機能を有効と無効のどちらにするかを指定します。デフォルトでは、 Compliance Accelerator はこの機能を有効にします。
インデックスが再構築中または失敗した場合は検索エラーとする	インデックスがオフラインであったり、再構築中または失敗した場合、特定のアーカイブの検索からエラーが返されるようにするかどうかを指定します。デフォルトで、 Compliance Accelerator はこのような状況でエラーを返します。
アイテムまたは内容に対するインデックスがない場合は検索エラーとする	インデックスが、インデックス付け可能なアーカイブ済みアイテムまたはアイテムの内容をインデックス付けできなかった場合、特定のアーカイブの検索からエラーが返されるようにするかどうかを指定します。デフォルト設定は <code>false</code> (無効) です。
インデックスの幅を正規化する必要がある場合は検索エラーとする	全角文字を正しく処理するためにインデックスが再構築されなければならない場合、特定のアーカイブの検索からエラーが返されるようにするかどうかを指定します。デフォルト設定は [無効] です。
アーカイブがコピーまたは移動された場合にアーカイブの検索は失敗する	移動またはコピーされたアーカイブが検索結果に含まれていない場合、それらのアーカイブの検索に失敗とマーク付けするかどうかを指定します。デフォルトは <code>[False]</code> です。この設定では、このようなアーカイブの検索時に Compliance Accelerator は警告を生成しますが、それらのアーカイブに失敗とマーク付けはしません。
保証されたサンプルの検索タイムアウト(分)	Compliance Accelerator が自動的に検索を受け入れ、サンプリングのための結果を使う前にサンプル検索の実行を保証された分数を指定します。デフォルトは 240 分です。

[ホットワードセット]タグ	新しい検索の基準でホットワードセットを入力するときに、 Compliance Accelerator が接頭辞にするタグを指定します。デフォルトは HWS です。
[ホットワード]タグ	新しい検索の基準でホットワードを入力するときに、 Compliance Accelerator が接頭辞にするタグを指定します。デフォルトは HW です。
フィルタに表示される検索結果の最大数	選択できる検索をリストする Compliance Accelerator の領域でリストに含める検索の最大数を指定します。デフォルトは 250 です。
最大検索再試行回数	Compliance Accelerator が検索を中止する前にアーカイブの検索を試行する回数を指定します。 1 から 50 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 5 です。
受け入れ検索スレッドの数	検索結果セットの受け入れに割り当てるスレッド数を指定します。たとえば、デフォルト設定の 5 では、 5 個までの検索結果セットを同時に受け入れることができます。 1 から 10 の範囲で値を入力します。
削除検索スレッドの数	検索結果セットの削除に割り当てるスレッド数を指定します。たとえば、デフォルト設定の 2 では、 2 個までの検索結果セットを同時に削除できます。 1 から 10 の範囲で値を入力します。
サンプリング検索スレッドの数	検索結果セットのサンプリングに割り当てるスレッド数を指定します。たとえば、デフォルト設定の 5 では、 5 個までの検索結果セットが同時にサンプリングされます。 1 から 10 の範囲で値を入力します。
ボルト検索スレッドの数	インデックスサーバーごとにアーカイブ検索に割り当てるスレッド数を指定します。たとえば、デフォルト設定の 10 では、 Enterprise Vault サーバーごとに 10 個までのアーカイブを同時に検索できます。 1 から 10 の範囲で値を入力します。
最初に選択したメッセージで[このメッセージをリサーチ]のみを許可	[レビュー]ペインの複数のアイテムをクリックし、次に [検索]をクリックする時、 Compliance Accelerator は選択アイテムのそれぞれ、または選択アイテムの最初のものにのみ検索基準を指定することを可能にするかどうか指定します。

最も古いアイテムと最も新しいアイテムに基づく検索の最適化

[True]に設定すると、検索基準で指定した日付範囲にアイテムを含まないと **Compliance Accelerator** が判断したアーカイブを検索から除くことによって、パフォーマンスが改善されます。デフォルト設定は [False] です。したがって、内容が指定した日付範囲内かどうかに関係なく利用可能なすべてのアーカイブが **Compliance Accelerator** によって検索されます。

この設定は、[ボルトディレクトリの同期]設定オプションの 1 つである[同期スレッドの確認間隔 (秒)]とともに使います。[最も古いアイテムと最も新しいアイテムに基づく検索の最適化]を True に設定する場合は、[同期スレッドの確認間隔 (秒)]を短く設定して、**Compliance Accelerator** が古くなったデータを検索しないようにする必要があります。たとえば、設定を 3600 秒 (1 時間) と短くすることができます。

サンプリング資格のあるアーカイブに対してのみ保証されたサンプルの検索を実行します。

ランダムサンプリングの資格があるタイプのアーカイブ (Exchange ジャーナル、ドミノジャーナル、SMTP、共有) に保証されたサンプル検索を限定するかどうかを指定します。デフォルトでは、**Compliance Accelerator** は保証されたサンプルの検索をこれらのアーカイブタイプに限定して、検索パフォーマンスを向上させます。ただし、たとえば、Enterprise Vault がそれらに SMTP 項目をアーカイブしている場合、保証されたサンプル検索に他のタイプのアーカイブを含めたいことがあります。

この設定は、**Compliance Accelerator** の以前のバージョンで「保証されたサンプル検索の非ジャーナルアーカイブを無視する」が呼び出された設定を置き換えます。

[作成者]の指定を要求、[内容]の指定を要求、[開始日]の指定を要求、[受信者]の指定を要求、[件名]の指定を要求、[終了日]の指定を要求

検索を実行する前に、指定基準を入力する必要があるかどうかを指定します。デフォルトでは、この基準は省略可能です。返される検索結果の数が多すぎないように、この基準を必須にすると便利です。

インデックスサービスがビジー状態の場合の再試行時間 (分)

ビジー状態で検索を実行できない Enterprise Vault Indexing Service へのアクセスを **Compliance Accelerator** が試行する頻度を分単位で指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 5 です。

インデックスサービスが実行されていない場合の再試行時間 (分)

利用できない Enterprise Vault Indexing Service へのアクセスを **Compliance Accelerator** が試行する頻度を分単位で指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 5 です。

検索結果の上部にあるメッセージのみを返す	検索で最上位アイテムのみを返すかどうか指定します。このオプションを[無効]に設定することは、最上位アイテムに付随するすべてのファイルが検索の結果で表示されることを意味します。
ファイル名ではなく SMTP 件名を保存	ファイルシステムアーカイブ (FSA) を使ってアーカイブされたアイテムについて、レビューペインに、FSA ファイル名ではなく、SMTP メッセージの件名を表示するかどうかを指定します。
[検索結果]ページの更新間隔	検索の実行中に Compliance Accelerator が結果の概略ページを更新する頻度を秒単位で指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 10 です。
検索タイムアウト (時間)	Compliance Accelerator で検索に許容される最大時間を時間数で指定します。デフォルトは 4 時間です。
[検索]ページの更新間隔	Compliance Accelerator が部門の検索ペインを更新する頻度を秒単位で指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 20 です。
アプリケーション検索ツリーの[ツリーの高さを制限]オプションを表示	新しい検索の基準を定義するときに、[作成者と受信者]領域で[ツリーの高さを制限]オプションを利用可能にするかどうかを指定します。このオプションを選択すると、[作成者と受信者]領域で部門ツリービューの高さが固定されます。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこのオプションを表示しません。
アプリケーション検索ツリーの[すべてを検索]オプションを表示	新しい検索の基準を定義するときに、[作成者と受信者]領域で[すべてを検索]リンクを利用可能にするかどうかを指定します。このリンクをクリックすると、ツリービューのすべての部門が展開されます。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこのリンクを表示しません。
新規検索で[保証されたサンプル]オプションを表示する	[保証されたサンプル]の検索を作成できるかどうか指定します。デフォルトでは、できます。
実行中の検索結果を表示	Compliance Accelerator によって検索されたアイテムのレビューをすぐに開始できるように、検索の実行中にユーザーがレビューペインにアクセスできるようにするかどうかを指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はこれを許可します。

ワークスレッドの検索結果の合計	システムの実行に許可される検索結果のワークスレッドの最大数を指定します。これらのスレッドはアーカイブから返される検索の結果を処理します。最大値は 5 で、デフォルト値は 2 です。
検索スレッドの合計	すべてのインデックスボリュームに渡ってシステムの実行に許可される検索スレッドの最大数を指定します。最大値は 500 で、デフォルト値は 100 です。
検索にシーケンス番号を使用	50,000 を超える結果が返される検索のパフォーマンスを最適化します。デフォルトでは、このオプションは有効です。
サービスの起動時にインデックスサービスを同期するまで待機 (分)	Compliance Accelerator が利用可能なインデックスサービスに同期させる前に、起動時に待機する時間を分単位で指定します。 0 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 0 です。
サービスの起動時にボルト検索を開始するまで待機 (分)	Compliance Accelerator がアイテムのアーカイブを検索する前に、起動時に待機する時間を分単位で指定します。 0 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 0 です。

セキュリティの設定オプション

次の設定を使って、ユーザーが **Compliance Accelerator** でアクセスできるものに「チャイニーズウォール」セキュリティ制限を実装します。

チャイニーズウォールは、情報が自由に広まらないように組織のさまざまな部分を区分することを表したり、利害の対立を防止したりするために使う比喻表現です。チャイニーズウォールを実装すると、組織のある部門のユーザーが、組織の別の部門のユーザーに、部門とフォルダへのアクセス権を付与することを防止できます。

すべてのロールの削除時に部門ユーザーの権限確認をバイパス	部門ユーザー管理権限がないユーザーでも、部門ユーザーを部門から削除できるようになります。
チャイニーズウォールを部門ユーザーに有効化	部門の部門ユーザーロールをユーザーに割り当てなければ、部門のロールはユーザーに割り当てられません。

スケジュール用に SQL Server SysAdmin サーバーロールを使用する 選択すると、Compliance Accelerator 検索スケジュールの作成者と所有者は SQL Server の sysadmin としてログオンします。

SQL Server インスタンスをロックダウンする場合はこの設定をクリアし、Veritas のサポート Web サイトの次の記事で詳細を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100038151

システム設定オプション

このオプションを使って、Enterprise Vault をインストールした日付、データをアーカイブし始めた日付、検索の一時停止に Compliance Accelerator が使うスレッドを設定した日付などを記録します。

Enterprise Vault で最も古いアーカイブ済みアイテムの日付 Enterprise Vault で利用可能な最も古いデータをアーカイブした日付を指定します。

[Enterprise Vault で最も古いアーカイブ済みアイテムの日付]と[Enterprise Vault V5 のインストール日付]が同じである場合、検索基準を入力するときに、開始日を指定せずにメッセージの種類を指定できます。(Compliance Accelerator は 5.0 以前のデータを返しません。)ただし、最も古いアーカイブ済みアイテムの日付が V5 のインストール日付よりも前の日付である場合、V5 のインストール日付以後の開始日を指定した場合にのみ、メッセージの種類を指定できます。

Enterprise Vault V5 のインストール日付 Enterprise Vault 5.0 以降を初めてインストールした日付、またはアップグレードした日付を指定します。

IIS アプリケーションプール Accelerator Web アプリケーションがグループ化されるアプリケーションプールを識別します。アプリケーションプールによって、特定の構成設定をアプリケーションのグループとそれらのアプリケーションで使われるワーカプロセスに適用できます。デフォルトのアプリケーションプールは EVAcceleratorAppPool です。

一時停止キューの初期サイズ 直ちに一時停止できる検索の最大数を指定します。デフォルトは 2 です。

一時停止検索スレッドの数 一時停止中の検索に割り当てるスレッド数を指定します。1 から 10 の範囲で値を入力し、デフォルト値は 1 です。

一時停止キューのしきい値	一度にキューに投入できる一時停止検索要求の合計数を指定します。10 から 100 の範囲で値を入力し、デフォルト値は 10 です。
一時停止スレッドの遅延	Compliance Accelerator が一時停止中の検索に割り当てるスレッドを初期化する前に、起動時に待機する時間を分単位で指定します。デフォルトでは、Compliance Accelerator はスレッドの初期化前に遅延しません。
検索の一時停止スレッドの確認間隔 (秒)	一時停止中のスレッドを開始する前に待機する時間を秒単位で指定します。デフォルトは 5 です。
ボルト管理オプションを表示	Compliance Accelerator の現在のバージョンの機能は動作しません。以降のリリースでは、このオプションは Compliance Accelerator から削除されます。

ボルトのディレクトリの同期の設定オプション

次の設定を使って、Compliance Accelerator が Enterprise Vault アーカイブと同期するタイミングを設定します。

アーカイブ登録タスクの間隔 (分)/登録解除	<p>アーカイブ登録/登録解除タスクの実行頻度を分単位で指定します。デフォルトは 60 分です。Compliance Accelerator レビューセットまたは検索結果に内容が表示される Enterprise Vault アーカイブを誤って削除するのを防ぐため、このタスクはアーカイブの登録処理を実行します。また、このタスクは、必要なくなったときに既存のアーカイブ登録を破棄します。</p> <p>[アーカイブ登録タスクを有効にします]および[[アーカイブの登録タスクの有効化]を無効にしてから既存のアーカイブの登録を破棄する]オプションも参照してください。</p>
アーカイブ選択のページサイズ	<p>アーカイブの選択中に単一のページで表示する Enterprise Vault のアーカイブの最大数を指定します。デフォルトで、Compliance Accelerator は最大 100 アーカイブを一覧表示します。利用可能なアーカイブ数が、ここで指定した値を超える場合、Compliance Accelerator は追加のハイパーリンクを表示し、アーカイブに移動できるようにします。</p>

部門またはケース内の新規ボルトストアを自動的に有効化	<p>新しいボルトストアの作成時に、Compliance Accelerator が検索にそれを自動的に含めるかどうかを指定します。</p> <p>オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 新しいボルトストアは決して自動的に有効になりません。 ■ 2. 新しいボルトストアは常に自動的に有効になります。 ■ 3 (デフォルト値)。同じサイト内にある他のすべてのボルトストアがすでに有効にされている場合は、新しいボルトストアは自動的に有効になります。
[アーカイブの登録タスクの有効化]を無効にしてから既存のアーカイブの登録を破棄する	<p>アーカイブ登録タスクを無効にする選択をする場合に、既存のアーカイブ登録を維持するか破棄するかを指定します。デフォルトでは、このタスクを無効にした後に既存のアーカイブ登録が維持されます。</p> <p>[アーカイブ登録タスクの間隔 (分)]および[アーカイブ登録タスクの間隔 (分)/登録解除]オプションも参照してください。</p>
アーカイブ登録タスクを有効にします	<p>アーカイブ登録タスクを有効にするか無効にするかを指定します。デフォルトでは、このタスクは有効です。このタスクを無効にすると、[[アーカイブの登録タスクの有効化]を無効にしてから既存のアーカイブの登録を破棄する]オプションで必要な設定を選択することを求めるメッセージが表示されます。</p> <p>[アーカイブ登録タスクの間隔 (分)]オプションも参照してください。</p>
検索でアーカイブを同期	<p>新しい検索の実行時に、すべてのアーカイブを同期するかどうかを指定します。デフォルトで、Compliance Accelerator はすべてのアーカイブを同期しません。</p>
検索で保持カテゴリを同期	<p>新しい検索の実行時にすべての保持カテゴリを同期するかどうかを指定します。デフォルトで、Compliance Accelerator はすべての保持カテゴリを同期しません。</p>

同期スレッドの確認間隔 (秒)

Compliance Accelerator が Enterprise Vault アーカイブと同期する頻度を秒単位で指定します。デフォルトは **21600 (6 時間)** です。最良の結果を得るには、同期間隔を **3600 (1 時間)** に変更します。

頻繁に同期すると、Compliance Accelerator データベースの負荷が大きくなります。ただし、同期が頻繁でなければ Compliance Accelerator が新しいアーカイブ、ボルトストアと保持カテゴリを認識するために長い時間がかかることがあります。

部門またはケースのプロパティの表示時にボルトストアを同期

部門のプロパティを表示するときに、ボルトストアを同期するかどうかを指定します。デフォルトで、Compliance Accelerator はボルトストアを同期しません。

レビューペインの列のカスタマイズ

各レビューアは、列ヘッダーを右クリックして[列を選択してください]をクリックし、レビューペインのアイテムリストの列を表示または非表示するように設定できます。また、列ヘッダーをドラッグアンドドロップして、列の順序を変更することもできます。ただし、この方法で変更した内容は変更したレビューアのみが利用可能です。

すべての Compliance Accelerator ユーザーに対してレビューペインに表示される列レイアウトをカスタマイズするには、XML 設定ファイルを設定する必要があります。レビューアは列を選択メニューとドラッグアンドドロップを使ってレビューペインの列レイアウトを変更することもできます。

表 A-3 に、表示できる列と XML ファイルの列を参照するときに使う名前を一覧表示します。

表 A-3 列ヘッダーを XML ファイルで識別する方法

レビューペインの列ヘッダー	XML ファイルで使う名前	デフォルト表示
更新日時	NeedCommitting	True
添付ファイル	Attachments	True
ポリシーの処理	PolicyAction	False
存在するコメント	CommentPresent	True
部門	Department	False
差出人	From	True
すべての受信者	To	False

レビューペインの列ヘッダー	XML ファイルで使う名前	デフォルト表示
件名またはファイル名	Subject	True
日付	Date	True
処理状態	Status	True
最終レビューア	ReviewerPrincipalName	False
キャプチャの種類	CaptureType	True
メッセージの種類	MessageType	True
メッセージの方向	MessageDirection	False
アイテム ID	DiscoveredItemId	False
コメント	Comment	False
コメントの最終作成者	CommentPrincipalName	False
評価状態	AppraisalName	True
最終評価者	AppraiserName	True
エスカレーション状態	EscalationName	True
エスカレーションメッセージ所有者	EscalationOwner	True
エスカレーション実行者	EscalatedByName	True
ポリシーの概略	PolicySummary	False
アーカイブ	KVSVaultName	False
元の場所	ItemPath	False

レビューペインのデフォルトの列レイアウトを設定する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの [設定] タブをクリックし、次に [設定値] タブをクリックします。
- 2 利用可能なオプションを示すために [レビュー] セクションを展開します。
- 3 [グリッドファイルをレビュー] 行で [名前を付けて保存] をクリックします。
- 4 グリッドレビューファイルを保存する場所を選択します。
- 5 Windows のメモ帳などのテキストエディタでグリッドレビューファイルを開きます。

- 6 必要に応じて、ファイルの先頭にある情報を使ってファイルを編集します。

表示対象の各列には属性 `visible='true'` が必要です。これは、設定ファイル内に属性が指定されているか、`true` が列のデフォルトに設定されているためです。レビューペインの列は設定行の順序どおりに左から右に並びます。

XML ファイルには `<reviewgrid>` タグと `</reviewgrid>` タグの間に少なくとも 1 行の設定行を含める必要があります。

- 7 ファイルを保存します。
- 8 [システム設定] タブの [グリッドファイルをレビュー] 行で [参照] をクリックします。
- 9 インポートする XML ファイルを選択します。
- 10 行の右側にある [オープン] をクリックし、ファイルに加えた変更内容を保存します。
- 11 ウィンドウの右下で [保存] をクリックします。
- 12 新しい Compliance Accelerator セッションを開始し、列の変更内容を確認します。

XML ファイルからの設定データのインポート

この付録では以下の項目について説明しています。

- [設定データのインポートについて](#)
- [サンプル XML ファイル](#)
- [Dataload.xml ファイルの形式](#)
- [設定データのインポート](#)
- [ImportExport コマンドについて](#)

設定データのインポートについて

Compliance Accelerator の設定処理の一部として、従業員、部門、パーティション、ロールなどの設定データを入力する必要があります。このデータが Compliance Accelerator の外部にすでにあり、XML 形式に変換可能なら、XML ファイルから Compliance Accelerator にインポートできます。これにより、入力すると時間がかかる大量の設定データをすばやくロードできます。

また、Compliance Accelerator に付属している XML ファイルから事前定義済みのホットワードとフレーズをロードするインポート機能を使うこともできます。

サンプル XML ファイル

Compliance Accelerator サーバーソフトウェアには、多数のサンプル XML ファイルが含まれています。これらのファイルは Compliance Accelerator プログラムフォルダ (通常は C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault Business Accelerator) の AcceleratorAdminWeb\Installation サブフォルダにあります。

表 B-1 で、サンプル XML ファイルについて説明します。

表 B-1 サンプル XML ファイル

ファイル	機能
Dataload.xml	部門と従業員のデータをロードして、階層化されていない部門構造を作成する方法を示します。
Dataload_tree.xml	データをロードし、部門階層を含む構造化組織を作成する方法について例を示します。
DataLoadCaptureExclusions.xml	ファイルの特定の種別をレビューセットから除外する方法について例を示します。

Dataload.xml ファイルの形式

Dataload.xml ファイルは、**Compliance Accelerator** と **Discovery Accelerator** の両方で使えるので、このファイルには両方のアプリケーションに適用できる情報が含まれています。ただし、このファイルには各アプリケーションに適用するセクションがわかるように、十分な解説が付いています。

表 B-2 Dataload.xml ファイルの最初の Compliance Accelerator セクション

セクション	定義
ApplicationVaultStore	アプリケーションが使うボルトストア。必須セクション。
CaptureExclusions	非配信レポートや不在時の自動返信など、 Compliance Accelerator によるキャプチャとレビューセットに対する追加が行われないアイテムの種類。
Employee	システムに追加する従業員、従業員の電子メールアドレス、割り当てられたアプリケーションロール。 従業員は EmployeeID フィールドで識別されます。これは、 Compliance Accelerator クライアントの従業員のプロパティにある [従業員 ID] フィールドと同じです。 Compliance Accelerator クライアントでプロフィールを作成し、XML ファイルを使って後で更新する場合は、重複のない ID を各従業員に設定してください。
EmployeeGroup	従業員グループ、そのメンバー、各グループに割り当てられたアプリケーションロール。
HotWordCategory	グローバルなホットワードセット。

セクション	定義
Attribute_n_Definition	部門ペインのフィルタオプションと組み合わせて使うときの識別情報属性。ペインで選択した部門を表示、非表示に設定できます。
Department	部門。このセクションに含まれる定義は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">■ 部門メンバーと例外従業員■ 部門、グループ、個人に必要なレビューの割合■ 個人またはグループに割り当てられる部門ロール■ 部門のボルトストア■ 部門のパスワードセット
Partition	パーティションとパーティション内の部門。
Proxy	レビューアとコンプライアンススーパーバイザの代行。
StandardReviewComment	レビューアがレビュー対象のアイテムに追加できる一般的なコメント。

ファイルの 2 番目の部分は各 XML エントリを示します。ファイルの最後に **Compliance Accelerator** システムのサンプルエントリを記載しています。

データロードファイルで非 ASCII 文字を使う場合は、適切な符号化コードを指定する必要があります。たとえば、ヨーロッパのアクセント付き文字を含むファイルを **Unicode** 形式で保存したり、ファイルの先頭に次の行を追加したりすることができます。

```
<?xml version="1.0" encoding="iso-8859-1" ?>
```

設定データのインポート

XML ファイルから設定データをインポートするには、設定データインポート権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのコンプライアンスシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

XML ファイルから設定データをインポートする方法

- 1 **Compliance Accelerator** クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[インポート設定]タブをクリックします。
- 2 [設定ファイル]フィールドで、インポートする XML ファイルへの絶対パスを入力するか、[参照]をクリックしてインポートするファイルを選択します。
パスには最大 250 文字まで入力できます。
ファイルがリモートコンピュータに格納されている場合は、そのファイルへの UNC パスまたは NTFS パスを指定できます。次に例を示します。

```
¥¥server2¥EVBAY¥import.xml
```
- 3 続行する前に以前のインポートの情報を消去する場合は、[インポート前のログをクリア]を選択します。
- 4 [インポート]をクリックします。

ImportExport コマンドについて

ImportExport コマンドは、カスタマーデータベースにデータをインポートするための **Compliance Accelerator** クライアントに代わるコマンドラインインターフェースです。また、データベースから XML ファイルにデータをエクスポートできます。

コマンドは、設定ファイルの `ImportExport.exe.config` とともに **Compliance Accelerator** サーバーの **Compliance Accelerator** プログラムフォルダにインストールされます。

ImportExport を使ってデータをインポートするには設定データインポート権限が、データをエクスポートするには設定データエクスポート権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのシステム管理者ロールを持つユーザーにこれらの権限が割り当てられます。

新しくインポートされたすべての部門は、米国政府の連邦情報処理標準 (FIPS) に準拠しています。

メモ: ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしているコンピュータで ImportExport を使用する場合に最良の結果を導くには、管理者権限でこのコマンドを実行してください。そうしない場合、ImportExport で一部の操作 (カスタマーデータベースから XML ファイルにデータをエクスポートするなど) を実行できないことがあります。

ImportExport の構文

```
ImportExport.exe -F:FileName -C:CustomerID [-I] [-L:LogFile] [-O]
[-NoValidation] [-BypassService] [-LogToDB] [-LeaveDBLog]
[-ShowOnlyErrors] [-CommitOnceOnSuccess] [-?]
```

表 B-3 でコマンドに追記できるパラメータについて説明します。

表 B-3 ImportExport コマンドパラメータ

パラメータ	機能
-F: <i>FileName</i>	データのインポート元、エクスポート先の XML ファイルを識別します。
-C: <i>CustomerID</i>	データのインポートまたはエクスポート対象の Compliance Accelerator カスタマーを識別します。パラメータを指定せずに ImportExport を実行してカスタマー ID の入力を求められた場合、? を入力して、すべてのカスタマーの名前と識別子を表示できます。
-I	-F パラメータで指定する XML ファイルからカスタマーデータベースに設定データをインポートします。指定した XML ファイルにデータをエクスポートする場合は、このパラメータを省略します。
-L: <i>LogFile</i>	ログファイル名を指定します。ファイルのパスを省略した場合は、 Compliance Accelerator サーバーの Compliance Accelerator プログラムフォルダにファイルが作成されます。
-O	XML 出力ファイルとログファイルが存在する場合は、これらのファイルを上書きします。出力ファイルとログファイルが存在する場合にこのパラメータを省略すると、コマンドはエラーメッセージを表示して停止します。
-NoValidation	XML の妥当性検証を無効にして、XML ファイルからデータをインポートする処理時間を短縮します。データをファイルにエクスポートする場合は、このパラメータは無視されます。

パラメータ	機能
-BypassService	<p>Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスをバイパスしてカスタマーデータベースに直接接続します。これは、非常に大きいデータベースに対してデータをインポートまたはエクスポートしたときにメモリ不足が発生した場合に必要な場合があります。</p> <p>この機能を使うには、以下を確認する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ カスタマーデータベースへのアクセス権限があります。 ■ ImportExport.exe.config ファイルで、Compliance Accelerator データベースの SQL サーバーが DSN キーに指定されています。Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを起動するたびに、AcceleratorManager.exe.config と AcceleratorService.exe.config ファイルに指定される値が一致するようにこのファイルの DSN キーの値が自動的に更新されます。そのため、ImportExport.exe.config ファイルに別の値を指定しても、Compliance Accelerator は次のサービス起動時にそれを上書きします。
-LogToDB	ログファイルとカスタマーデータベースの両方にログメッセージを書き込みます。
-LeaveDBLog	-LogToDB パラメータとともに指定すると、以前のインポートとエクスポートに関する情報を上書きせずに Compliance Accelerator データベースに残すことができます。
-ShowOnlyErrors	-LogToDB パラメータとともに指定すると、情報メッセージを除外したエラーメッセージを報告します。
-CommitOnceOnSuccess	コマンドによりデータがエラーなしでインポートされた場合に限り、そのデータを Compliance Accelerator データベースにコミットします。
-?	コマンドのヘルプ情報を表示します。

ImportExport コマンドの例

次のコマンドは、data.xml ファイルから妥当性を検証せずにデータをインポートします。このファイルは、C:\temp フォルダにあります。ログファイルの import.log にはエラーメッセージのみが含まれ、XML データをインポートするとログファイルの以前の内容が上書きされます。

```
ImportExport.exe -C:2 -I -F:C:\temp\data.xml -NoValidation -O
-L:import.log -ShowOnlyErrors
```

次のコマンドは、**Compliance Accelerator** データベースのデータを XML ファイルの `export.xml` にエクスポートします。このファイルは、**Compliance Accelerator** サーバーの `%USERPROFILE%` フォルダ (`C:\¥Documents and Settings¥username`) にあります。また、以前にデータベースに記録されたログのエラーメッセージを上書きします。

```
ImportExport.exe -C:2 -F:export.xml -LogToDB -LeaveDBLog  
-ShowOnlyErrors
```

トラブルシューティング

この付録では以下の項目について説明しています。

- **Compliance Accelerator** クライアントのレビューペインで特定のアイテムをプレビューするときにセキュリティ警告が表示されることがある
- アイテムのランダムサンプリングの問題
- **Windows 8** 以降で **Compliance Accelerator** クライアントを開くときの表示の問題
- **Internet Explorer 10** 以降で **Compliance Accelerator Web** サイトを開くときの表示の問題
- **Compliance Accelerator** クライアントで表示されないボルトストア
- **Compliance Accelerator** の検索で予期しない結果が返される
- **Compliance Accelerator** からアイテムをエクスポートする際のエラー
- インターネットメール (.eml) メッセージをレビューセットからエクスポートした後に、その **TNEF** エンコードの添付ファイルが読めなくなることがある
- **SQL Server** コンピュータ名の変更後の同期エラー
- **Accelerator** マネージャサービス起動時のパフォーマンスカウンタエラー
- カスタマーデータベースを異なるサーバーに復元するときに **SQL Service Broker** で警告が発生する
- **Compliance Accelerator** のレポートに関する問題

Compliance Accelerator クライアントのレビューペインで特定のアイテムをプレビューするときにセキュリティ警告が表示されることがある

特定のアイテムの HTML プレビューを表示しようとするときに、Compliance Accelerator クライアントの[レビュー]ペインに次のエラーメッセージが表示されることがあります。

Content within this application coming from the website listed below is being blocked by Internet Explorer Enhanced Security Configuration.

about:security_AcceleratorClient.Exe

この問題を解決するには、about:security_AcceleratorClient.Exe をご使用の Web ブラウザのローカルイントラネットゾーンまたは信頼済みサイトゾーンに追加します。

アイテムのランダムサンプリングの問題

表 C-1 は、コンプライアンスのサンプリング機能をインストール、設定、使用するときが発生する可能性がある問題の解決方法を説明しています。

表 C-1 潜在的なコンプライアンスのサンプリングの問題

問題	確認内容
コンプライアンスのサンプリングの処理 (EVCompliance.exe) が Enterprise Vault ストレージサーバーで起動できない。	<ul style="list-style-type: none">■ 少なくとも 1 つの顧客データベースを設定済み。■ カスタマーデータベースを最新版にアップグレード済み。■ Compliance Accelerator を正しい Enterprise Vault サイトに対して設定済み。■ Accelerator マネージャサービスが動作している。■ Enterprise Vault ディレクトリデータベースで、AcceleratorConfigEntry テーブルに Compliance Accelerator サーバーの設定エントリが含まれている。■ AcceleratorConfigEntry テーブルの SQL 接続文字列が正しい。■ コンプライアンスのサンプリング処理の起動に問題はない。(StorageServer に対して DTrace を実行して「EVComplianceLauncher」でフィルタ処理し、サンプリング処理の起動に何か問題があるかを観察する。)

問題	確認内容
アイテムがランダムにサンプリングされない。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 部門構造を Compliance Accelerator で正しく設定済みで、監視対象の従業員がサンプリング用に設定されている。 ■ Compliance Accelerator を設定した直後であれば、Enterprise Vault で設定が更新されていることを確認する。更新はキャッシュされた設定データの次回更新で適用される。デフォルトでは、これは 1 時間ごととストレージサービスの開始時に発生する。 ■ Compliance Accelerator の設定とカスタマーデータベースをホストする SQL Server がオンラインで、Enterprise Vault サーバーからアクセスできる。 ■ アーカイブを明示的に Compliance Accelerator カスタマーにマップ済みの場合は、各対象アーカイブがカスタマーにマップされていることを確認する。 ■ 適切な Compliance Accelerator カスタマーのカスタマーバックグラウンドタスクを有効に設定済み。 ■ アーカイブされたアイテムがサンプリングに適している(たとえば、それらのアイテムには送信者、受信者の情報が必要)。 ■ アイテムはサンプリング対象のアーカイブに格納されている。
ストレージサービスが自動的にシャットダウンされる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Compliance Accelerator のカスタマーデータベースと設定データベースがオンラインで、Compliance Accelerator サーバーからアクセスできる。 ■ Enterprise Vault ディレクトリデータベースで、AcceleratorConfigEntry テーブルには使用中でなくなった Compliance Accelerator サーバーのどのエン트리も含まれていない。

Windows 8 以降で **Compliance Accelerator** クライアントを開くときの表示の問題

Windows 8 以降で **Compliance Accelerator** クライアントを開くときに、特定の領域に表示の問題が発生することがあります。このような問題が発生した場合、**Windows 7** または **Windows XP (Service Pack 3)** の互換性モードでクライアントを実行することによって問題を回避できます。

Internet Explorer 10 以降で **Compliance Accelerator Web** サイトを開くときの表示の問題

Accelerator マネージャの Web サイトを **Internet Explorer 10** 以降で開くと正しく表示されない場合があります。この問題が発生する場合、ローカルイントラネットのセキュリティ

ゾーンに Web サイトアドレスを追加することによって回避できます。その方法については、Internet Explorer のオンラインヘルプを参照してください。

Compliance Accelerator クライアントで表示されないボルトストア

Compliance Accelerator クライアントで、検索を行うボルトストアの選択領域にボルトストアがない場合、Enterprise Vault のディレクトリサービスが実行されていない可能性を示しています。このような場合は、次の手順を実行します。

- Enterprise Vault のディレクトリサービスが実行されていない場合は、起動します。
- Compliance Accelerator と Enterprise Vault サーバーで同じバージョンの Enterprise Vault が実行されていることを確認します。
- Accelerator マネージャ Web サイトで、Compliance Accelerator カスタマーデータベースのディレクトリ DNS エイリアス情報が正しいことを確認します。

Compliance Accelerator の検索で予期しない結果が返される

予想外の結果が返される検索の問題についてベリタスのサポートに連絡する場合、検索基準ファイルが必要となる場合があります。

検索基準ファイルを生成する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの [設定] タブをクリックし、次に [設定値] タブをクリックします。
- 2 利用可能なオプションを表示するために [診断] セクションを展開します。
- 3 [検索基準を保存] 行で、[値] 列のオプションを選択します。
- 4 [保存] をクリックします。
- 5 Compliance Accelerator サーバーで Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを再起動します。
- 6 検索を再実行します。

Compliance Accelerator サーバーで、Compliance Accelerator によって Criteria_SearchID.txt というファイルが Compliance Accelerator プログラムフォルダの SearchCriteria サブフォルダに作成されます。フォルダに複数のファイルが含まれている場合は、Compliance Accelerator クライアントの検索名上にマウスポインタを移動することによって関連付けされた検索を識別できます。

Compliance Accelerator からアイテムをエクスポートする際のエラー

アイテムのエクスポート時に次のエラーメッセージを受け取った場合、Compliance Accelerator サーバーの mapisvc.inf ファイルのバージョンが不正である可能性があります。

```
Error      Failed to write the file:
The EVPSTAPI COM object has not been initialized
```

MAPI の問題を修正する方法

- 1 Windows エクスプローラで、Compliance Accelerator サーバーの %windir%\system32 フォルダを参照します。
- 2 fixmapi.exe をダブルクリックして、MAPI 修復ツールを実行します。このツールの実行中は何も表示されません。
- 3 Compliance Accelerator サーバーを再起動します。
- 4 問題が解決されたかどうかをテストします。

fixmapi.exe を実行しても問題を修正できない場合

- 1 Compliance Accelerator サーバーの %windir%\system32 フォルダで、既存の mapisvc.inf ファイルの名前を変更します。
- 2 Microsoft Outlook に付属しているバージョンの mapisvc.inf を %windir%\system32 フォルダにコピーします。このバージョンは通常、次のフォルダにあります。

```
C:\Program Files\Common Files\System\MSMAPI\locale_ID
```

ここで、*locale_ID* は、ロケールの数値識別子です。次の表に一般的なロケール識別子の一部を示します。

簡体字中国語	2052	ヘブライ語	1037
繁体字中国語	1028	イタリア語	1040
デンマーク語	1030	日本語	1041
オランダ語	1043	ポルトガル語	2070
英語 (米国)	1033	スペイン語	3082
フランス語	1036	スウェーデン語	1053
ドイツ語	1031		

- 3 Compliance Accelerator サーバーを再起動します。

Compliance Accelerator からデータをエクスポートするときに次のメッセージを受け取った場合、2 人以上の従業員の EmployeeID が同じである可能性があります。

```
Error: APP AT - Customer ID: 17 - An Error has occurred when
exporting the data.
Description: System.Data.ConstraintException: Failed to enable
constraints. One or more rows contain values violating non-null,
unique, or foreign-key constraints.
```

この問題は、Compliance Accelerator EmployeeID プロパティと、対応する Active Directory 属性との間のマップを削除することで修正できます。EmployeeID プロパティと Active Directory 属性間のマップは、エクスポート実行後に復元できます。

Active Directory マップを削除する方法

- 1 Compliance Accelerator クライアントの [設定] タブをクリックし、次に [ディレクトリ マップ] タブをクリックします。
- 2 左の列の [従業員 ID] プロパティ名をクリックします。
- 3 [削除] をクリックします。

インターネットメール(.eml)メッセージをレビューセットからエクスポートした後に、その TNEF エンコードの添付ファイルが読めなくなることがある

インターネットメール(.eml)メッセージをレビューセットからエクスポートした後に、その TNEF エンコードの添付ファイルが読めなくなることがある

インターネットメール(.eml)メッセージをケースレビューセットから元の形式でエクスポートした後に、メッセージに対する任意の TNEF エンコードの添付ファイルの中身が読めなくなることがあります。

TNEF エンコードの添付ファイルは、Outlook メールボックスフォルダにファイルをドラッグアンドドロップすることによって普通に作成されます。これらは通常、winmail.dat という名前になります。

SQL Server コンピュータ名の変更後の同期エラー

SQL Server コンピュータの名前を変更すると、Compliance Accelerator データベースが SQL Server と同期する際に Compliance Accelerator サーバーのイベントログに次のメッセージが記載されることがあります。

Cannot add, update, or delete a job (or its steps or schedules) that originated from an MSX server. The job was not saved.

この問題とその解決方法について詳しくは Microsoft ナレッジベースの次の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/?kbid=281642>

この問題は、SQL Server コンピュータでスクリプトを実行して解決することもできます。

SQL スクリプトを実行して同期エラーを解決する方法

- 1 Query Analyzer で SQL Server に接続します。
- 2 次のコマンドを入力して msdb データベースにアクセスします。

```
USE msdb
```

- 3 次の スクリプトを実行します。

```
DECLARE @srv sysname SET @srv = CAST(SERVERPROPERTY('server_name')
AS sysname) UPDATE sysjobs SET originating_server = @srv
```

server_name は、SQL Server コンピュータの新しい名前置き換える必要があります。

Accelerator マネージャサービス起動時のパフォーマンスカウンタエラー

Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスの起動時に、次のエラーメッセージが Compliance Accelerator サーバーのイベントログに表示される場合があります。

```
Event Type:      Error
Event Source:    Accelerator Manager
Event Category:  None
Event ID:        41978
Description:     APP ATM - Error: deleting Performance Counters
Description:     Input string was not in a correct format.
```

```
Event           Type:Error
Event           Source:Accelerator Manager
Event Category: None
Event ID:        41980
Description:     APP ATM - Error: Creating Performance Counters
Description:     Input string was not in a correct format.
```

この問題とその解決方法について詳しくは Microsoft ナレッジベースの次の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/?kbid=300956>

カスタマーデータベースを異なるサーバーに復元するときに SQL Service Broker で警告が発生する

元のサーバーとは異なるサーバーに Compliance Accelerator カスタマーデータベースを復元すると、SQL Server によって次の警告メッセージがイベントログに記録されることがあります。

```
Service Broker needs to access the master key in the database
'database_name'. Error code:25. The master key
has to exist and the service master key encryption is required.
```

次の SQL Server コマンドを使ってデータベースのマスターキーを作成することによって、この警告メッセージを抑制することができます。

```
CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = 'password'
```

詳しくは Microsoft 社の Web サイトで次の記事を参照してください。

<https://msdn.microsoft.com/library/aa337551.aspx>

Compliance Accelerator のレポートに関する問題

Compliance Accelerator クライアントからレポートを生成、印刷、エクスポートするときに多数の問題が発生する可能性があります。

レポートを生成しようとするときメッセージ「レポートの作成中にエラーが発生しました」が表示される

レポートを生成しようとするとき次のメッセージが表示される場合は、誤ったログオン資格情報を使ってレポートテンプレートが SQL レポートサーバーにアップロードされた可能性があります。

An error occurred creating the report

```
An error has occurred during report processing ---> ...  
Cannot impersonate user for data source 'CustomerDatabase'. --->  
Logon failed. ---> Logon failure: unknown user name or bad password.  
(Exception from HRESULT: 0x8007052E)
```

Accelerator マネージャ Web サイトでは、テンプレートをレポートサーバーにアップロードするときに入力したログオン資格情報は認証されません。その結果として、資格情報を省略したり、誤った資格情報を入力すると、その後、レポートを生成する場合にアカウントの妥当性検証問題が発生します。

レポートテンプレートを SQL レポートサーバーにアップロードする方法について詳しくは『インストールガイド』を参照してください。

レポートの初回印刷時に SQL Server のインストールを要求するメッセージが表示される

Compliance Accelerator クライアントから初めてレポートを印刷すると、「セキュリティ警告」ウィンドウに Microsoft SQL Server をインストールするように要求するメッセージが表示されます。これは Microsoft SQL Server Reporting Services の既知の問題で、クライアントからレポートを印刷するために ActiveX コントロールをダウンロードするように要求されます。この問題を解決するには、Web ブラウザのセキュリティ設定を、必要なコントロールをインストールできるように設定します。

Internet Explorer のセキュリティ設定を変更する方法

- 1 Microsoft Internet Explorer で、「ツール」>「インターネットオプション」の順にクリックします。
- 2 「セキュリティ」タブをクリックします。
- 3 「信頼済みサイト」ゾーンを選択し、次に「サイト」をクリックします。
- 4 SQL レポートサーバーの URL を入力します。

- 5 [追加]をクリックし、次に[クローズ]をクリックします。
- 6 [レベルのカスタマイズ]ボタンをクリックします。
- 7 [ActiveX コントロールとプラグイン]ノードまでスクロールします。
- 8 [署名済み ActiveX コントロールのダウンロード]で[有効にする]をクリックし、次に[OK]をクリックします。

CSV としてエクスポートしたレポートを Microsoft Excel で正しく開けない場合がある

SQL Reporting Services は、デフォルトでは、ANSI エンコードではなく Unicode エンコードを使って CSV ファイルをエクスポートします。Unicode でエンコードされた CSV ファイルのデータは、Microsoft Excel で開くと正しく表示されません。

問題を回避する方法

- 1 SQL Reporting Services のインストール先フォルダで、rsreportserver.config ファイルを検索します。
- 2 Windows のメモ帳などのテキストエディタでファイルを開きます。
- 3 次のテキストブロックを <!-- と --> マークで囲んでコメント化します。

```
<Extension Name="CSV" Type="Microsoft.ReportingServices.Rendering.CsvRenderer.CsvReport, Microsoft.ReportingServices.CsvRendering"/>
```

- 4 次のテキストブロックを追加します。

```
<Extension Name="CSV" Type="Microsoft.ReportingServices.Rendering.CsvRenderer.CsvReport, Microsoft.ReportingServices.CsvRendering">
<Configuration>
  <DeviceInfo>
    <Encoding>ASCII</Encoding>
  </DeviceInfo>
</Configuration>
</Extension>
```

- 5 ファイルを保存して閉じます。

設定ファイルを編集した後は、SQL Reporting Services では初期レポートに格納された Unicode 文字は無視されます。

Acrobat 形式でレポートをエクスポートするときに日本語で文字化けが発生する

Acrobat (PDF) 形式でレポートをエクスポートするときに Compliance Accelerator レポートの日本語が文字化けしている場合は、次の手順を実行すると問題を解決できる可能性があります。

- SQL レポートサーバーに東アジア言語の補足ファイルをインストールしていることを確認します。ファイルをインストールするには、[コントロールパネル]の[地域と言語のオプション]を開き、[言語]タブで、[東アジア言語のファイルをインストールする]を選択します。
- SQL レポートサーバーに MS ゴシックフォントのバージョン 5.00 以降をインストールします。このバージョンは Windows の最新のバージョンで供給されています。

OData エラーのトラブルシューティング

表 C-2 では、Compliance Accelerator データセットにアクセスしたときに表示されるエラーと該当する HTTP エラー状態コードについて説明します。

表 C-2 エラーメッセージと HTTP コード

HTTP コード	メッセージテキスト	説明
204	このデータセットのコンテンツは利用できません。	アクセスしたいデータセットには情報がありません。
400	要求の形式が無効です。	OData の URL の形式が正しくない可能性があります。
401	アクセスが拒否されました。このデータセットを表示する権限がありません。	データセットにアクセスするために必要な権限がありません。
501	データセットの情報を取得するときに例外が起きました。	指定したデータセットの情報を取り込むときに内部エラーが起きました。